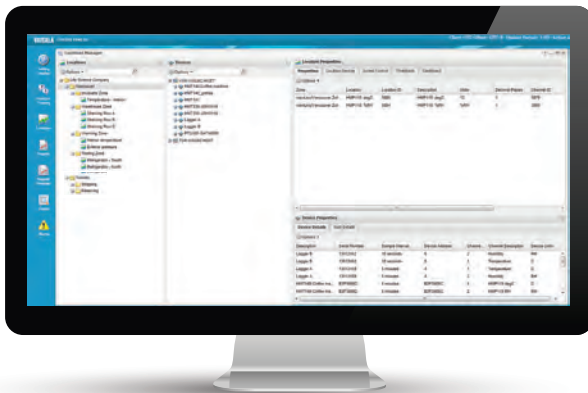


ユーザーズガイド

Vaisala Veriteq viewLinc Software viewLinc 4.3



発行者

Vaisala Oyj

Vanha Nurmijärventie 21, FI-01670 Vantaa, Finland

P.O. Box 26, FI-00421 Helsinki, Finland

電話番号 (フィンランド以外の国からかける場合): +358 9 8949 1

Fax: +358 9 8949 2227

Web サイト(www.vaisala.com) をご覧ください。

© Vaisala 2014

電子的または機械的 (コピーなど) といった形式または手段に関係なく、このマニュアルのいかなる部分も複製、発行、公開することは禁止されています。また、著作権所有者の事前の書面による許可なく、その内容を修正、翻訳、適応、販売、または第三者に公開することは禁止されています。翻訳されたマニュアルおよび翻訳された他言語文書の部分は、原本の英語版に基づいています。曖昧な場合、翻訳版ではなく、英語版が適用されます。

このマニュアルの内容は事前の通知なく変更される場合があります。

このマニュアルには、お客様またはエンドユーザーに対する Vaisala の法的拘束義務はありません。すべての法的拘束義務および契約は、適用される共有契約または販売に関する一般条件およびヴァイサラのサービスに関する一般条件内で排他的に規定されます。

ソフトウェアのライセンス

この製品にはヴァイサラが開発したソフトウェアが含まれます。ソフトウェアの使用は、適用される共有契約に規定されるライセンス契約条件で規制されます。また、個別のライセンス契約条件がない場合は、ヴァイサラグループの一般ライセンス条件が適用されます。

この製品にはオープンソースソフトウェア (OSS) コンポーネントが含まれている場合があります。この製品に OSS コンポーネントが含まれている場合、このような OSS は該当する OSS ライセンスの契約条件で規定され、お客様はこの製品の OSS の使用と配布についてこのようなライセンスの契約条件に拘束されます。該当する OSS ライセンスは、個別の製品および提供される製品項目に応じて、製品自体に含まれているか、他の該当するメディアとして提供されます。

目次

第 1 章 : 始める前に	1
新機能	1
このマニュアルの対象読者	4
この文書で使用される表記規則	4
このマニュアルの編成	4
デバイスインストールマニュアル	5
概要	5
仕組み	5
システムコンポーネント	6
viewLinc システム要件	6
デフォルトアプリケーション ファイルの場所	9
ハードウェア インストール オプション	9
デバイスの接続	11
方法 1: vNet デバイスの使用	12
方法 2: Digi デバイスの使用	14
方法 3: USB ポートの使用	16
方法 4: シリアル ポートの使用	17
方法 5: ワイヤレス デバイス	17
デバイスの構成	18
viewLinc のインストール	19
viewLinc へのログイン	21
ロードマップの設定	23
オプションの設定 タスク	24
ヘルプ	24

第 2 章：システム設定	27
システム環境設定の選択	27
デバイスとチャンネルのエイリアス	28
コメント	29
MKTアクティブ化 エネルギー	29
スケジュール機能を有効にする	29
温度測定単位	30
リモート受信確認	30
セキュリティキー	31
技術サポート	31
セッション有効期限	31
viewLinc Aware サービス	32
単位説明	32
言語オプションを設定する	33
デバイスの検出	34
ホストの追加	37
viewLinc へのアクセス コントロール	38
権限の割り当て	38
アクセス コントロール許可	40
グループの作成とユーザーの追加	42
グループの作成	42
グループの非アクティブ化/再アクティブ化	44
ユーザーの追加	44
ユーザーとパスワードの編集	46
スケジュールの設定	47
電子 メールおよび SMS 通知設定	48
電子 メール通知設定の定義	49
SMS 通知設定の定義	50
テンプレート	51
電子 メールとSMS テンプレート	51
アラーム テンプレート	52
アラーム テンプレートのオプション	53
しきい値テンプレート	57
単一しきい値テンプレート	57
複数しきい値 テンプレート	58
テンプレートでの事前構成済みコメントの使用	60

システム メンテナンス	62
第 3 章 : データの表示	63
viewLinc Desktop の方向	63
列の操作	65
ロケーションとゾーンの管理	67
ロケーションの整理	68
ゾーンの作成	69
ゾーンへのロケーションの追加	70
ロケーション チャネルのリンク	71
ロケーション チャネルのリンク解除と再リンク	72
ゾーンとロケーションの名前変更	74
ゾーンの削除	75
ロケーションプロパティの編集	76
ロケーションとゾーンへのアクセスの割り当て	77
ロケーションしきい値の設定	78
しきい値アラームの無効化	80
しきい値アラームの非アクティブ化と再アクティブ化	81
ダッシュボードの作成	81
ダッシュボード画像の追加	82
ゾーンまたはロケーションデータ項目の追加	83
ダッシュボード項目の外観の変更	83
ユーザー固有のビューの設定	84
新しいビューの作成	85
ロケーション ウィンドウの操作	86
ゾーンとロケーションの検索	86
リンクされたロケーションの検索	87
ロケーション ダッシュボードの使用	87
アラームの監視	88
トレンドの作成	89
トレンド タブ機能	89
トレンドビューの操作	90
ポップアップトレンドの表示	92
第 4 章 : デバイスの管理	95
デバイスとホストの表示	95
デバイスプロパティの表示	96

デバイスとチャネルプロパティの編集	97
チャネルプロパティの編集	100
チャネル温度単位の設定	102
新しいデバイスの追加	103
デバイスとホストアラームの設定	103
通信アラーム	103
通信アラームの編集	104
通信アラームの無効化	105
デバイスアラーム	105
デバイスアラームの変更	106
デバイスアラームの無効化	106
デバイスの校正	107
デバイスの削除	108
ロケーションの非アクティブ化/再アクティブ化	109
デバイスの切り替え	110
ロケーションを完全に削除	111
第 5 章：アラームの監視	113
アラームについて	113
アラームのタイプ	114
しきい値アラーム	114
通信アラーム	114
イベント検証アラーム	114
デバイス構成アラーム	114
デバイスステータスアラーム	115
システムアラーム	115
アラームがトリガーされた場合の処理	115
アラームの受信確認は必要ですか。	116
アラームの表示と受信確認	116
[アラーム] ウィンドウの更新	117
アラームの受信と受信確認	117
アラームの受信確認	118

アラームの一時停止	121
アラーム ビューの管理	123
アラーム レポート	123
第 6 章：イベント	125
イベントの表示	126
イベントへのコメントの追加	127
カスタム イベントの追加	128
イベントログの印刷とエクスポート	129
第 7 章：レポート	131
レポートのタイプ	131
デフォルトの viewLinc レポート	132
カスタム レポート	132
レポートの生成と印刷	132
レポートの進行状況の表示	134
新しいレポートの作成	134
アラーム レポートの作成	134
ロケーションの履歴レポートの作成	137
システム レポートの作成	141
既存のアラーム、ロケーション、またはシステム レポートのクローズ	142
レポートの非アクティブ化と削除	142
オンデマンド レポート	143
データの転送	144
レポートで転送データを使用する	144
転送データを使用するタイミング	144
転送スケジュールの作成	145
即時データ転送の実行	147
転送スケジュールの編集	147
転送スケジュールの非アクティブ化	148
転送スケジュールの無効化	148
第 8 章：リモートおよびモバイル ディスプレイ	149
リモート表示の使用	149
リモート ディスプレイ要件	150

デフォルトユーザーとビューの作成	151
リモートディスプレイの設定	151
リモートディスプレイビューの変更	152
リモートディスプレイのデータの表示	153
viewLinc Mobileの使用	153
viewLinc Mobile でのデータの表示	154
viewLinc モバイルでアラームの受信確認を行う	156
FAQ およびトラブルシューティング	159
viewLinc のインストール	159
デバイスの設定	167
Vaisala Veriteq デバイスの移動	171
トラブルシューティングのヒント	173
ログイン	173
アラーム	174
データとデバイスの管理	175
定義済みの UI 設定	176
ヘルプが必要な場合	179
索引	181

第 1 章

始める前に

Vaisala Veriteq 環境モニタリング システム (CMS) の主要な要素である viewLinc アラーム をご利用いただき、どうもありがとうございます。サポート対象のバージョンの Microsoft® Internet Explorer®, または iPhone® や Google Android® などのモバイル デバイスを使用して、ネットワーク全体で PC のローカル デバイス読み取り値を簡単に監視できます。

この章では、Vaisala Veriteq 環境モニタリング システムの主要な概念とセットアップ要件について説明します。

- 新機能
- 概要
- デバイスの接続
- デバイスの構成
- viewLinc のインストール
- viewLinc へのログイン
- ロードマップの設定
- ヘルプ

新機能

Vaisala Veriteq viewLinc 4.3 のリリースで、多くの新しい機能が追加され、ネットワーク監視機能が改善され、簡素化されました。

即時アラーム通知

- **即時SMS通知:** チームメンバーが、SMSテキストメッセージ(SMSモデムが必要)でアラーム状態の変更を即時に受信します。受信者は即時対応を取り、アラームをリモートで受信確認できます。
- **変動する作業スケジュールへの対応:** アラーム通知スケジュールを作成し、特定の期間(例: 日勤シフト/夜勤シフト、交代制、週4日制)のアラーム状態変更を通知される必要があるユーザーを指定します。
- **スケジュールシステムリマインダー:** 予定されている校正サービス日付の自動通知を受信し、サーバーシステム時刻が変更された場合にシステム構成アラームを受信します。
- **エスカレーション通知の作成:** 何らかの理由で主要アラーム通知に応答しない場合、複数レベルのしきい値テンプレートによって、後続のアラーム通知またはより重大なアラーム状態通知が追加のチームメンバーに送信されます。

容易な設定と構成

- **vNet PoEデバイスのインストール時間の短縮:** 新しくインストールされたvNetデバイスをviewLinc Aware サービスで特定できます。
- **測定単位のカスタマイズ:** デバイス定義の測定単位の説明が変更され、よりわかりやすくなりました。例えば相対湿度チャンネルは%RHとして画面表示され、温度チャンネルが摂氏になります。
- **電子メールおよびSMSテンプレートを作成:** SMSまたは電子メール通知をアラームで送信するかどうかを指定し、メッセージの内容を指定します。
- **迅速にロケーションへのアクセスを特定:** アクセスコントロールインスペクタ機能では、ロケーションおよびゾーンに対してビュー以上の権限でアクセスできるユーザーまたはグループを簡単に判定できます。
- **簡単にviewLincを再起動:** すべての管理グループユーザーが必要に応じてviewLincサービスを再起動できます。システム通知がすべての管理グループユーザーに送信されます。

包括的なレポート

- **完全なシステムレポートを生成:** 簡単に全体システム詳細 (すべてのユーザー、グループ、アクセス権のリスト、システム全体のデータ、またはロケーション固有のデータのレポートなど)を生成します。
- **オンデマンドレポートの即時配信:** 単一のステップでレポートを生成して電子メールで送信します。
- **長いレポートリストの短縮:** 特定のユーザーまたはグループにレポートの所有権を割り当てることで、レポート管理タスクを分配します。
- **その他のレポート詳細の追加:** viewLinc 4.3レポート機能には、最小および最大逸脱値の指定、レポートへのコメントや署名の追加、個別システムおよびしきい値アラームのレポートといったカスタムオプションがあります。

柔軟なアラームとしきい値テンプレート

- **通知リストを含む:** アラームテンプレートにはユーザーやグループ対しての自動通知が含まれます。
- **テンプレートを複数ロケーションに適用:** 別のグループに通知する必要がある場合でも、同一のしきい値限度のロケーションのテンプレートを設定して時間を短縮します (テンプレートはロケーション別にカスタマイズできます)。

より直感的なユーザーインターフェイス

- **データトレンドをいつでも確認:** すべてのviewLincユーザーは、トレンドタブで容易に作成できるグラフを使用して、データトレンドをすばやく作成できます (デフォルトのロケーションウィンドウからすべてのユーザーがアクセス可能)。
- **より高度なダッシュボード表示の制御:** デスクトップダッシュボードに表示されるロケーションデータのフォントサイズと色を調整し、リモートディスプレイ端末にデータを表示する方法を指定します。
- **柔軟なアクセスコントロール:** ユーザーまたはグループに割り当てられた権限に応じて、デスクトップオプションメニューには、ユーザーまたはグループが表示する権限を持つウィンドウのみが表示されます。また、ユーザーまたはグループがアクセスできるロケーションの指定、およびアクセス許可レベルを制御できます。また、アクセス許可レベルを制御できます。

- **オンライントレーニングにアクセス:** viewLinc トレーニングビデオをデスクトップからすぐに利用できるため、チームメンバーはviewLincを快適に使用することができます。

このマニュアルの対象読者

このマニュアルは管理者およびユーザー向けです。

- **管理者:** viewLinc Serverソフトウェアのインストールおよび構成方法、および関連付けられたコンポーネントについて説明します(第1章から第3章を参照)。
- **ユーザー:** ネットワークでのデバイス読み取り値の表示や監視など、viewLinc標準タスクを実行する方法について説明します 第4章から第8章を参照。

この文書で使用される表記規則

この文書では、次の表記規則が使用されます。

- 一連のアクションは、垂直の線で区切られたリストによって示されます。例:
viewLinc から[オプション]>[システム構成]>[ロケーション マネージャ]を選択します。
- メニュー選択、選択した項目、およびボタン名は**太字**で示されます。
- キーボードのキーは【角括弧】で表示されます。
- Vaisala Veriteq ロガー、Vaisala Wi-Fi データロガー (HMT140)、および300 Series変換器は、このマニュアル全体でデバイスとして表記されます。
- vNet および Digi デバイスはネットワークデバイスです

このマニュアルの編成

Vaisala Veriteq viewLinc 4.3ユーザーガイドには、viewLincシステムのインストール、構成、および運用に必要な情報と、viewLincで実行する標準タスクの段階的な手順の参照が含まれています。

viewLinc のインストールの視覚的な概要については、『**クイック スタートガイド**』を参照してください。

デバイスインストールマニュアル

Vaisala デバイスは、vLog または HMT140 ユーティリティソフトウェアを使用して、ネットワークに対してインストールおよび構成されます。

詳細については、特定のVaisala製品ユーザーガイドを参照してください。

概要

viewLinc システムには三重の冗長データ保持機能があり、電源障害、ネットワーク停止、および人的エラーに対して回復力があることを保証します。完全なデータ保護が行われ、次のことが可能になります。

- ネットワークに接続された PC から複数のデバイス (および異なるタイムゾーン) から多言語でリモート状態を**監視**します。
- デバイスとデバイスが稼動する領域を**特定**します。
- アラーム通知と再利用可能なアラームしきい値テンプレートの事前構成済みコメントを**作成**します。
- カスタマイズ可能なグラフ形式でリアルタイムのデータを**表示**します。
- 監視対象の条件が準拠していない場合や、ネットワーク通信の問題がある場合、視覚的アラームまたは電子メールアラームを**受信**します。
- モバイル デバイスからアラームを**受信確認**します。
- 履歴データとアラーム レポートを**生成**します。
- データ監査証跡を破損せずに、校正または交換目的で、デバイスを**交換**できます。

仕組み

viewLinc アラームは自動的に起動するWindowsサービスを実行します。

viewLinc アラームサーバーを再起動すると、viewLinc サーバーが自動的に起動します。ネットワーク設定によっては、エンタープライズコンピューターとつ以上のホストサーバーを設定する場合があります：

- viewLinc アラームエンタープライズサーバー: デバイスからデータを収集し、スケジュール転送を実行し、アラームを監視し、関連付けられたアクションを実行し、ユーザーを管理し、システム設定とユーザー固有の設定を制御します。

- **viewLinc アラーム Device Host:** ホストコンピュータ上のサービスとして実行されます。リモートサーバー領域にあるデバイスのデータ収集ポイントです。収集されたデータを処理および保存のためにエンタープライズサーバーに転送する点を除き、エンタープライズサーバーと同様に機能します。

システムコンポーネント

Vaisala Veriteq CMSは、ソフトウェアおよびハードウェアコンポーネントから構成されています。

- **ソフトウェア:** デバイスドライバー デバイスをネットワークに接続する必要がある場合、**vLog** および **HMT140** ユーティリティ デバイスの構成用、および**viewLinc** データ監視用。

Note: デバイス付属のソフトウェアでは、サンプリングタイミン
グの設定、監査証跡の管理、履歴のクリアが可能です。

viewLinc では、デバイスから転送されたデータを監視および管理
できます。

- **ハードウェア:** Veriteq ロガー、**HMT140 Wi-Fi** ロガー、または **300 Series** 変換器、1つ以上の PC とサポート対象のインターネットブラウザ、および各種ケーブル、**Vaisala Veriteq vNet** または **Digi** デバイス デバイスを PC に接続する方法による。

viewLinc システム要件

Vaisala Veriteq viewLinc 4.3をインストールして設定する前に、次のものが
必要です。

- 1つ以上のVaisala Veriteqロガー、Vaisala Wi-Fiデータロガー
HMT140 または300 Series変換器。
- PC 以降、viewLinc Server 。
- オプション複数のロケーションでデバイスを管理する場合は追加 PC
(以降、viewLinc Host PC)。
- オプション PCのないロケーションで追加監視を計画している場合
はリモートディスプレイ端末。
- Vaisala ケーブル。ロガーを接続し、ワイヤレス変換器を設定するた
め。

- オプション vNetデバイス。Ethernet接続でVeriteq ロガーをviewLinc Serverに接続するため。
- オプション Digiデバイス。Ethernet接続でVeriteq ロガーをviewLinc Serverに接続するため。

viewLinc ServerとviewLinc Host PCの要件

最適なパフォーマンスのため、viewLinc Server PCには1日につきチャンネル毎に200KBの空き領域が必要です。

Note: 履歴データベース データが保存されると構成ファイルはパブリックドキュメントフォルダーにあります。

また、viewLinc Server PCとviewLinc Server PCは次の要件を満たす必要があります。

- 24時間365日使用できる必要があります。
- 350 MBの空きディスク領域 アプリケーション用。
- 次の Microsoft® オペレーティングシステムのいずれかを使用。
 - Windows Server 2012 R2 (64 ビット)
 - Windows 7 Pro (64 ビット)
 - Windows Server 2008 R2 (64 ビット)
 - Windows Server 2003 (32 ビット)
- サポート対象のインターネットブラウザがインストールされている (Microsoft® Internet Explorer® v8、10、11推奨)。viewLincを実行するために使用する計画がある場合は、Server PCでだけ必要です。

追加のサーバー要件

有効にして監視するデバイスチャンネル数によっては、viewLinc Serverが次の要件を満たす必要があります。

インストールサイズ	追加のサーバー要件
大規模インストール (400～5000チャンネル)	<ul style="list-style-type: none"> • 専用コンピューター • 3.2 GHz, Quad Core • 4 GB RAM • 十分なHD領域 200KB/チャンネル/日 <p>たとえば、400チャンネルの場合、毎年約30GBが必要です(400x200x365)。 大規模インストールの場合、最適なパフォーマンスのため、64ビットOSを実行することをお勧めします。</p>
中規模インストール 20～400チャンネル	<ul style="list-style-type: none"> • コンピューターは他のアプリケーションと共有できます • 1.6 GHz Dual Core • 4 GB RAM • 十分なHD領域 200KB/チャンネル/日 <p>たとえば、40チャンネルの場合、毎年約3GBが必要です(40x200x365)。</p>
小規模インストール 20チャンネル未満	<ul style="list-style-type: none"> • 1.6 GHz • 2 GB RAM • 十分なHD領域 200KB/チャンネル/日 <p>たとえば、4チャンネルの場合、毎年約300MBが必要です(4x200x365)。</p>

エンドユーザーPC要件

インターネットブラウザがインストールされているネットワークに接続されている他のコンピューターを使用してデバイスを監視できます。コンピューターは次の最低要件を満たす必要があります。

- 2.4 GHz
- 2 GB RAM
- Microsoft Internet Explorer 8、10、11。

デフォルトアプリケーションファイルの場所

これらのデフォルトインストールフォルダーを使用してデータファイルを保存することを強くお勧めします。他のフォルダーには特別なセキュリティ制限がある場合があります。

Note: viewLincアプリケーションのデフォルトの場所はProgram Files フォルダーです。

たとえば、Windows 2008では、Windows 2008のファイルは、管理者以外のユーザーは削除できません。

プラットフォーム	デフォルトのファイル保存場所
Windows 2012	プログラムファイル: C:\Program Files(x86)\Vaisala\Vaisala Veriteq viewLinc データファイル: C:\Users\Public\Documents\Vaisala\Vaisala Veriteq viewLinc
Windows 2008/ Windows 7	プログラムファイル: C:\Program Files(x86)\Vaisala\Vaisala Veriteq viewLinc データファイル: C:\Users\Public\Documents\Vaisala\Vaisala Veriteq viewLinc
Windows 2003	プログラムファイル: C:\Program Files\Vaisala\Vaisala Veriteq viewLinc データファイル: C:\Documents and Settings\All Users\Documents\Vaisala\Vaisala Veriteq viewLinc

ハードウェア インストール オプション

Veriteq ロガー、HMT140 Wi-Fi ロガー、または 300 Series 変換器に接続する方法は、非常に重要な管理決定です。5つの方法があり、それぞれには特定のハードウェア接続が必要です。

方法 1: vNet デバイス

構成ソフトウェア: Web インターフェイス

接続方法: Ethernet

- デバイスを Ethernet ネットワークの PC に接続します。
- PC とデバイスが施設内で離れていても問題ありません。
- vNet ドライバー (提供) のインストールが必要です。
- vNet デバイスの使用が必要です。

方法 2: Digi デバイス

構成ソフトウェア: vLog

接続方法: Ethernet

- デバイスを Ethernet ネットワークの PC に接続します。
- PC とデバイスが施設内で離れていても問題ありません。
- Digi ドライバー ソフトウェア (提供) と Digi デバイスのインストールが必要です。
- Digi デバイスは Vaisala Veriteq ロガーでだけ必要です。

方法 3: USB ポート

構成ソフトウェア: vLog

接続方法: Vaisala Veriteq USB ケーブル

- 直接または Ethernet ネットワーク経由 (Device Host PC がインストールされている場合) で、デバイスを viewLinc server に接続します。
- USB ドライバー (提供) のインストールが必要であり、PC の USB 接続を使用します。
- USB からロガーまでのケーブルが必要です。

方法 4: シリアル ポート

構成ソフトウェア: vLog

接続方法: シリアル ケーブル

- 直接またはEthernet ネットワーク経由(Device Host がインストールされている場合) で、デバイスをviewLinc serverに接続 します。
- PC のシリアル ポートが必要です。
- シリアル ケーブルが必要です。

方法 5: ワイヤレス

構成ソフトウェア: HMT140 ユーティリティ(HMT140 Wi-Fi データ ロガー)、
Web UI (300 Series)

接続方法: 802.11b/g Wi-Fi

- デバイスをワイヤレスで viewLinc serverに接続します。
- Vaisala Wi-Fi データ ロガー HMT140: HMT140 構成 ケーブルを使用し
た構成が必要です。

また、システム要件によっては、これらの方法を組み合わせて使用できます。

デバイスの接続

このセクションでは、ロガーと変換器 (デバイス) が viewLinc CMS に接続できる
5 つの方法を概説します。

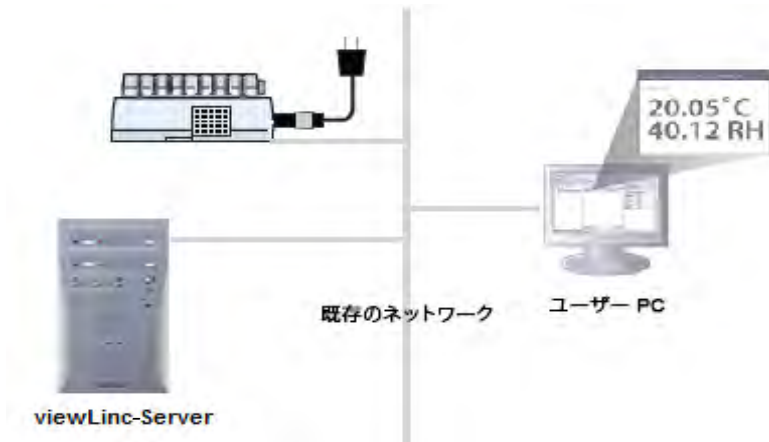
デバイスのインストール方法の視覚的表示については、ネットワークデバイス用
の『Vaisala Veriteq viewLinc クイック スタート ガイド』を参照してください。

クイック スタート ガイドのコピーを取得するには、

<http://www.vaisala.com/viewLinc> を参照するか、営業担当者にガイドのコ
ピーを請求してください。

方法 1: vNet デバイスの使用

次の手順は、vNet デバイスを使用して、Vaisala Veriteq ロガーをネットワークに接続する方法について説明します。



ハードウェア: ロガーをvNet デバイスに接続する

- 1 ロガーの底面または背面にある保護ラベルを取り外します。
- 2 ロガーをvNet デバイスに接続します。
- 3 vNet デバイスをイーサネット接続ポートまたは電源 (PoE を使用しない場合) に接続します。電源がvNet デバイスに供給されると、赤色の電源 LED ライトが7～8秒間点滅し、その後点灯します。ネットワーク接続が確立すると、赤色の LNK LED が点灯し、緑色の ACT LED が時々点滅します。

Note: 安全な接続を保証するには、電源バレルエンドコネクタをデバイスに挿入し、1/4 だけ右側に回します。ネットワークがPoEをサポートしている場合、電源に接続する必要はありません。

vNet デバイスのインストールの詳細については、vNet ユーザーガイドを参照してください。

ドライバー: ネットワークへのロガーの接続

このセクションでは、vNet デバイスのドライバーをインストールし、Ethernet 接続で Vaisala Veriteq ロガーをネットワークに接続する方法について説明します。

vNet デバイスを最新のファームウェア (v1.4 以上) とともに viewLinc と同じサブネットにインストールしている場合、viewLinc Aware サービスを有効にすると、デバイスドライバーが自動的にインストールされます (「viewLinc Aware サービス」ページで 32)。詳細については、vNet ユーザーガイドを参照してください。

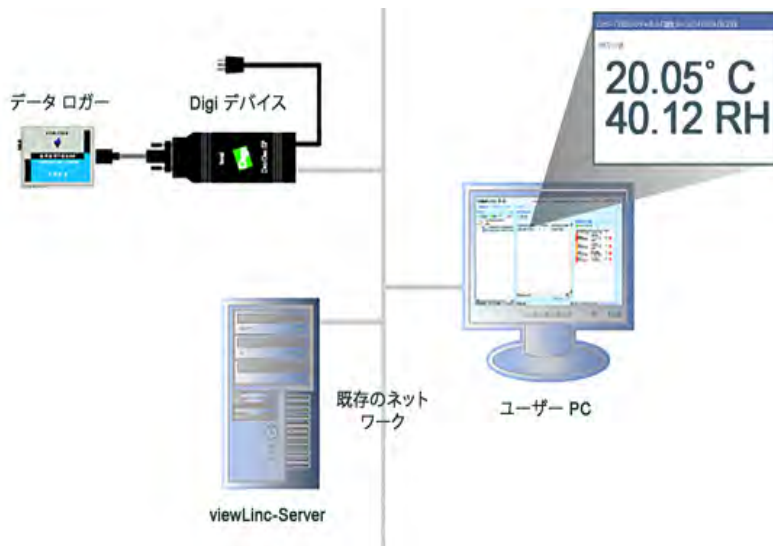
Note: これらの手順は、シリアル番号が 1411xxxx またはファームウェアが v1.3x 以前の vNet デバイスをインストールしている場合にだけ使用します。

- 1 vNet デバイスドライバー CD を viewLinc サーバーに挿入します。
- 2 デバイスセットアップウィザードを実行します。
- 3 vNet デバイスの側面にある MAC アドレスを使用して vNet デバイスを特定します。
- 4 IT 部門から提供された IP アドレスを入力します。
- 5 RealPort 設定を選択し、**[Install RealPort on this computer (このコンピューターに RealPort をインストールする)]** オプションが選択されていることを確認します。
- 6 以降のステップでは、すべてデフォルト オプションを使用し、ウィザードを完了します。

各 vNet デバイスに対して、手順 1 および 2 を繰り返します。

方法 2: Digi デバイスの使用

次の手順では、Digi デバイスを使用して、Vaisala Veriteq デバイスをネットワークに接続する方法を説明します。



ハードウェア:Digi へのデバイスの接続

- 1 Vaisala Veriteq ケーブルを使用し、Vaisala Veriteq デバイスを Digi デバイスに接続します。
- 2 Digi デバイスを電源と Ethernet ポートに接続します。

Note: この手順では、Digi One SP を対象としています。他の Digi モデルについては、<http://www.vaisala.com/en/lifescience> を参照してください。

ドライバー:ネットワークへのドライバーの接続

このセクションでは、Digi デバイスのドライバーをインストールし、Ethernet 接続で Vaisala Veriteq デバイスまたは Vaisala 300 Series 変換器をネットワークに接続する方法について説明します。使用する各 Digi デバイスに対してすべての手順を繰り返します。

手順 1: Digi デバイスの検出

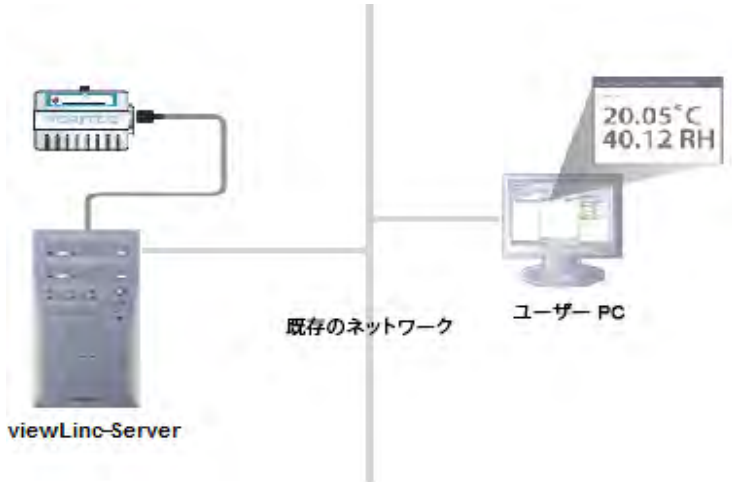
- 1 IT 部門から、Digi デバイスの予約 (推奨) または固定 IP アドレスを取得します。ネットワークポリシーによって DHCP を使用して IP アドレスを予約する必要がある場合は、手順について、<http://www.vaisala.com/en/lifescience> を参照してください。
- 2 Digi ドライバー CD を viewLine Server に挿入します。
- 3 Digi デバイス セットアップ ウィザードが自動的に起動します。**[次へ]** をクリックします。
- 4 Digi デバイスの下から、MAC アドレスと一致するデバイスを選択します。**[次へ]** をクリックします。
デバイスがサーバーとは異なるサブネットにある場合、Digi デバイスの IP アドレスを把握し、Digi ドライバー CD で RealPort インストーラーを起動する必要があります。

手順 2: RealPort の構成とドライバーのインストール

- 1 [ネットワーク設定の構成]画面で、IT 部門から提供された IP アドレスを入力します。**[次へ]** を 2 回クリックします。
 - 2 [RealPort 設定の構成] 画面で、**[このコンピューターに Digi RealPort をインストールする]** を選択します。**[次へ]** をクリックします。
 - 3 **[次へ]** をもう一度クリックします。設定が保存されます。
 - 4 **[完了]** をクリックします。
- 各 Digi デバイスに対して、手順 1 と 2 を繰り返します。

方法 3: USB ポートの使用

Vaisala Veriteq デバイスは、USB ポートを使用して直接 PC に接続できます。



ドライバー:USB ドライバーのインストール

付属の Vaisala Veriteq USB ケーブルドライバー CD とクイックスタートガイドを使用して、デバイスを接続する予定のすべての PC に USB ドライバーをインストールします。

ハードウェア:ハードウェアの接続

- 1 デバイスを Vaisala Veriteq USB ケーブルに接続します。
- 2 USB ケーブルをviewLinc Server または デバイスホストに接続し、viewLinc Server コンピューターがネットワークに接続されていることを保証します。
- 3 USB ケーブルドライバーをインストールします。ドライバーは、デバイスが接続する各コンピューターに1回だけインストールする必要があります。

方法 4: シリアル ポートの使用

また、シリアルポートを使用して、デバイスをPCに接続できます。シリアルポートを使用した構成はUSBの場合と類似しています。方法 3: USB ポートの使用の図を参照。

ハードウェア:接続

- 1 Vaisala Veriteqシリアルポートケーブルにデバイスを接続します。
- 2 シリアルポートケーブルをviewLinc Server または Hostに接続し、コンピューターがネットワークに接続されていることを保証します。

すべてのデバイスでこの手順を繰り返します。

方法 5: ワイヤレス デバイス

HMT140 デバイスのワイヤレス接続を設定するには、まず、HMT140 構成ケーブルと構成ソフトウェアの HMT140 ユーティリティを使用して、各デバイスをコンピューターに接続します。手順については、『HMT140 Wi-Fi データロガー ユーザーガイド』を参照してください。

ハードウェア:HMT140 の設定

- 1 HMT140 構成ケーブルが PC から取り外されていることを確認します。
- 2 HMT140 のケースを開け、デバイスの電源スイッチが OFF になっていることを確認します。
- 3 3 個の 3.6V リチウム バッテリーを取り付け、電源スイッチをオンにします。設定処理は 5 秒で完了します。

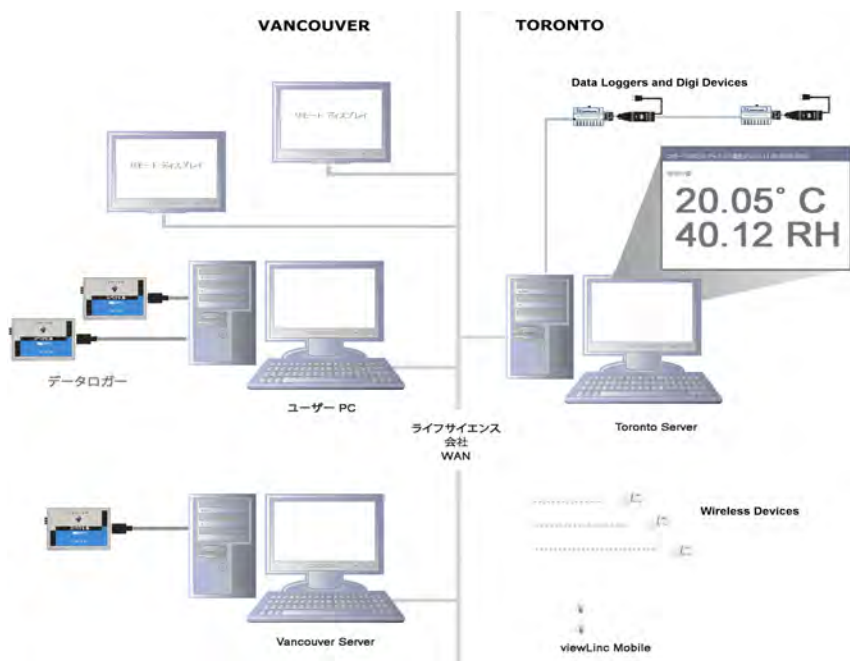
Note: 部品番号 236318SP の Vaisala 製 3.6V リチウム塩化チオニル電池のみを使用してください。

ソフトウェア:接続ソフトウェアのインストール

- 1 HMT140 デバイスのケースを開け、デバイスの電源をオンにした状態で、HMT140 の構成ケーブルの USB コネクタを PC に接続します。
- 2 デスクトップで、HMT140 ユーティリティを起動します。
- 3 HMT140 構成ケーブルを 4 ピンの HMT140 構成ヘッダーに接続します。

- 4 HMT140 ユーティリティの【セットアップ】タブで、【取得】をクリックします。構成を変更するには、【HMT140 Wi-Fi データ ロガー ユーザーガイド】を参照してください。
- 5 構成ケーブルをデバイスから取り外し、8 秒間待機してから、SERVICE ボタンを押します。

デバイスの組み合わせがあり、構成を設定したら、ネットワークはこの組み合わせ図と同様になることがあります。



デバイスの構成

デバイスがインストールされたら、vLog ソフトウェアを使用してデバイスを構成できます。あるいは、ワイヤレス デバイスを使用している場合は、HMT140 ユーティリティを使用します。これらのソフトウェア プログラムでは、ポートのインストールが成功したことを確認し、デバイスによっては必要に応じてデバイス設定を変更できます。

インストールおよび構成手順については、特定の **Vaisala** デバイス ユーザー ガイドを参照してください。

構成作業は次のとおりです。

- サンプリング間隔の設定
- チャネルを有効または無効にする
- ロガー説明とチャネル説明の指定
- バックアップ目的での履歴データの保存

Note: インストールしたデバイスによっては、これらのプロパティの一部を **viewLinc** 内で調整できます。ページ97の「デバイスとチャネルプロパティの編集」を参照してください。

viewLinc のインストール

デバイス監視、アラーム、レポートアクティビティをネットワークで使用可能にする準備ができました。

2つのオプションがあります。

- **viewLinc ソフトウェアをネットワークサーバーにインストール**します。このインストール方法では、**viewLinc** サーバーPCによって、接続されたすべてのデバイスを監視および管理できます。20未満のデバイスを監視している場合、**viewLinc** インストールが1つ必要です。ただし、追加コントロールとネットワーク安定性が必要な場合や、中規模または大規模インストールの場合は、デバイスをホストPCに接続することをお勧めします。
- **viewLinc ソフトウェアをホストPCにインストール**します インストールオプション: **Device Host** 。**viewLinc** を専用PCに設定すると、**viewLinc** サーバーとの自動通信が可能です。また、帯域幅とネットワーク通信の問題から保護されます。

異なるインストール要件については、ホストとサーバー要件を参照して、最適なオプションを決定してください 「**viewLinc** システム要件」 ページで **6**を参照。

Note: すべてのユーザーはPCまたはモバイルデバイスから**viewLinc** にアクセスできます。ただし、PCにはサポート対象のインターネットブラウザが必要です 「**viewLinc** へのアクセス コントロール」 ページで **38**を参照。

viewLinc をエンタープライズサーバーPCにインストールする(新規インストール)

- 1 viewLinc サーバーPCで、viewLinc CDを挿入し、viewLincSetup.exeを実行します。
- 2 インストール言語を選択し、**ok**をクリックします。
- 3 **次へ**をクリックしてセットアップウィザードを開始します。
- 4 使用許諾契約を読んで同意し、**[次へ]**をクリックします。
- 5 viewLinc プログラム ファイルのインストール先を指定し、**[次へ]**をクリックします。
- 6 データファイルのインストール先を指定し、**[次へ]**をクリックします。
- 7 コンポーネントの選択ウィンドウからエンタープライズサーバーを選択し、**[次へ]**をクリックします。
- 8 インストールキーを入力し、**[次へ]**をクリックします。
- 9 非セキュア、セキュアサーバー SSL または両方を選択します。
- 10 インストールオプションを確認し、**インストール**をクリックします。
- 11 **完了**をクリックします。

Note: viewLinc サービスを実行するには、サーバーの再起動が必要です。

viewLinc をエンタープライズサーバーPCにインストールする 3.5.1 以上からアップグレード

- 1 viewLinc サーバーPCで、viewLinc CDを挿入し、viewLincSetup.exeを実行します。
- 2 インストール言語を選択し、**ok**をクリックします。
- 3 **次へ**をクリックしてセットアップウィザードを開始します。
- 4 使用許諾契約を読んで同意し、**[次へ]**をクリックします。
- 5 インストールキーを入力し、**[次へ]**をクリックします。
- 6 インポート設定を変更します。

Note: カスタムチャンネル説明を使用しない場合、既存のデバイスとチャンネル説明に基づいてロケーションを選択するオプションを選択することをお勧めします。これによって、viewLinc 4.3のデバイスチャンネルが容易に特定できます。

- 7 インストールオプションを確認し、**インストール**をクリックします。

8 完了をクリックします。

Note: viewLinc サービスを実行するには、サーバーの再起動が必要です。

デバイス ホストとして追加 コンピュータを設定できます。このオプションは、デバイス管理を柔軟にし、サーバーとデバイス間の通信に必要な帯域幅が削減されません。

viewLinc をホストにインストールする

Note: viewLinc をWindows 7、2008、2012のPCにインストールする場合は、ファイアウォール設定を調整する必要があります。ヘルプが必要な場合は、Vaisalaカスタマーサポートまでお問い合わせください。

- 1 viewLinc CD を挿入し、viewLincSetup.exe を実行します。
- 2 インストール言語を選択します。[OK] をクリックします。
- 3 次へをクリックしてセットアップウィザードを開始します。
- 4 使用許諾契約を読んで同意し、[次へ] をクリックします。
- 5 viewLinc プログラム ファイルのインストール先を指定し、[次へ] をクリックします。
- 6 [Device Host] を選択して、[次へ] をクリックします。
- 7 [インストール] をクリックします。
- 8 [完了] をクリックします。

Note: viewLinc サービスを実行するには、サーバーの再起動が必要です。

必要なviewLincコンポーネントをインストールすると、ネットワークコンピューターを使用してviewLincにログインできます。

viewLinc へのログイン


viewLinc を使用し始める準備ができれば、デフォルトの「admin」アカウントを使用してインターネットブラウザがある任意のPCからviewLinc にログインします。これはフルコントロールのあるユーザーアカウントです。ユーザー名とパスワードはいずれも「admin」です。

Note: デフォルトの管理者ユーザーはデフォルトのADMINグループに含まれています。セキュリティ目的で、すみやかに管理者パスワードを

変更することが重要です (「ユーザーとパスワードの編集」ページで 46を参照)。

また、他のユーザーのアカウントを作成し、ユーザー名、電子メールアドレス、使用可能スケジュール (アラーム通知を受信する時刻)、権限およびアクセスコントロール許可、表示可能なチャネル、および認証方法 (viewLinc ログインを使用するか、Windowsログインと同じログインを使用する場合)を指定する必要があります。詳細については、「viewLinc へのアクセス コントロール」ページで 38を参照してください。

viewLinc にログインする

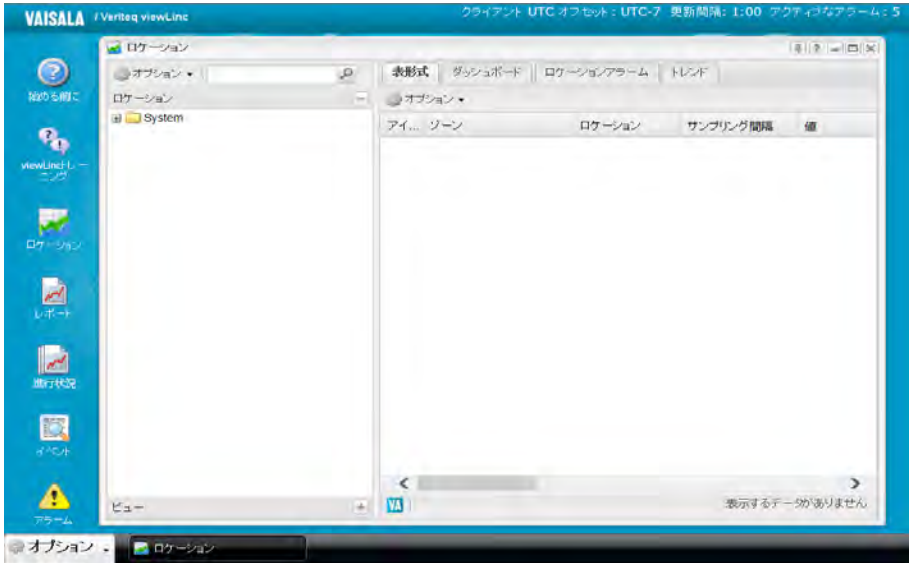
- 1 デスクトップアイコン  をダブルクリックします。
- 2 あるいは、サポートされたインターネットブラウザのアドレスボックスで、viewLinc がインストールされているコンピュータ名またはアドレスとポート番号を入力します。管理者が正しいアドレスを提供します。
たとえば、`http://computername:portnumber` または `https://computername:portnumber` (セキュアな場合) です。ポート番号が指定されていない場合は、デフォルトの443が使用されます。このアドレスをお気に入りに保存するか、ホームページに設定すると、ブラウザから簡単にviewLinc にアクセスできます。
- 3 ログイン画面で、言語リストから言語を選択します。新しい言語が選択されると、ページが自動的に更新されます。
デフォルト管理者ユーザー名とパスワードはいずれも「admin」です。



Note: 言語設定を保存するには、ブラウザが終了時に自動的にCookieを削除しないように設定されていることを確認します。

- 4 ユーザー名とパスワードを入力します。【ログイン】をクリックします。
viewLinc が起動し、ロケーション画面が表示されます。
最初に viewLinc にログインすると、ロケーション ウィンドウがブラウ

ザーに表示されます。これはすべてのユーザーの主要なエントリーポイントです。これはすべてのユーザーの主要なエントリーポイントです。



ロードマップの設定

viewLincシステムがインストールされたら、管理者は、次のロードマップが、viewLincの使用を開始するために必要な有効な設定および構成作業の概要と見なすことができます。これらの設定作業が完了したら、デバイスの読み取りの監視、イベントの表示、およびレポートの印刷を開始できます。

- 1 システム環境設定の選択 • 次の章を参照 2, システム環境設定の選択
- 2 デバイスの特定 • 次の章を参照 2, デバイスの検出
- 3 ユーザーとグループの定義 • 次の章を参照 2, viewLincへのアクセス制御
- 4 アラーム監視要件の定義 • 次の章を参照 2, 電子メールおよび SMS 通知設定
- 5 ロケーションとゾーンの作成 • 次の章を参照 3, ロケーションとゾーンの管理

オプションの設定タスク

使用しているロガーのタイプによっては、転送スケジュールを設定し、vLogソフトウェアでVaisala Veriteqロガーを表示および分析することがあります。「データの転送」ページで144を参照。

HMT140ロガーおよび300 Seriesで収集されたデータは、自動的にviewLincの表示と分析で使用できます。

ヘルプ

必要に応じて技術サポートもご利用いただけます。

North America

Vaisala: 8 am to 4 pm PST Monday to Friday

Phone: 1-888-VAISALA

Email: helpdesk@vaisala.com

Web: www.vaisala.com/en/lifescience

デバイスの校正に関するヘルプについては、Vaisala 校正サービスセンター (<http://www.vaisala.com/en/services/maintenance/Pages/depotcalibration.aspx>) までお問い合わせください。

北米以外の国

Email: helpdesk@vaisala.com

Web: www.vaisala.com

Vaisala 本社 (フィンランド)

Vanha Nurmijärventie 21

01670 Vantaa

FINLAND

産業機器

電話番号: +358 9 8949 2658

Fax: +358 9 8949 2227

日本 サービス センター

162-0825

東京都新宿区

神楽坂 6 丁目 42

日本

電話番号: +81 3 3266 9611

Fax: +81 3 3266 9610

中国 サービス センター

Floor 2, EAS Building

No. 21, Xiao Yun Road, Dongsanhuan Beilu

Chaoyang District

Beijing 100027

CHINA

電話番号: +86 10 5827 4100

Fax: +86 10 8526 1155

第 2 章

システム設定

viewLinc には複数の重要な設定画面があります。これらはすべて、システム構成メニュー (viewLinc デスクトップで、**[オプション]** > **[システム構成]** を選択) からアクセスできます。システム設定では、viewLinc システムの全体的なバックボーンを定義し、デバイスの接続方法とデータの表示方法を定義できます。

このセクションでは、主要な管理者タスクを説明します。

- システム環境設定の選択
- デバイスの検出
- viewLinc へのアクセス コントロール
- スケジュールの設定
- 電子メールおよび SMS 通知設定
- テンプレート
- システム メンテナンス

システム環境設定の選択

viewLinc には、viewLinc ウィンドウの動作と表示に影響するさまざまなシステム オプションがあります。次の変更を行うことができます。

- デバイスとチャンネルのエリアスの追加
- コメントの構成
- MKT アクティブ化 エネルギーマスターの定義
- スケジュール機能を有効にする
- 温度測定単位の変更
- リモート受信確認の設定

- 新しいセキュリティキーの指定
- 技術サポート ログの報告 オプションの変更
- セッション有効期限の制御
- viewLinc Aware サービスの設定
- デバイス単位説明の修正
- 言語オプションを設定する



デバイスとチャネルのエイリアス

Vaisala Veriteq デバイスでは、16 文字以内で説明が保存されています (300 Series 変換器は説明を保存しません)。これらの説明は特定のデバイス構成ソフトウェア (vLog または HMT140 ユーティリティ) または viewLinc を使用して定義および修正できます。

参照を容易にするために、より長く情報が長いデバイスまたはチャネル説明 (最大 64 文字) を表示するように、viewLinc を構成できます。この長い説明はエイリアスと呼ばれます。


イベント、アラーム、レポート ウィンドウ、および電子メール メッセージはすべて、チャネルとデバイスの指定された説明を使用します。

チャネルまたはデバイス説明表示参照を設定する

- 1 viewLinc デスクトップから[オプション] >  [システム構成] >  [環境設定] を選択します。



- 2 [全般] タブで、[チャンネル説明] 値フィールドをクリックし、リストから環境設定を選択します。
- 3 [デバイス説明] フィールドの環境設定を選択します。




- 4 変更を保存します ([オプション] >  [保存])。

コメント

コメントは、ユーザーまたはネットワークイベントによるシステム変更に関する重要な参照情報を提供できます。コメント環境設定に応じて、手入力または事前構成済みのコメントが、レポートで生成され、アラーム通知の受信確認中に追加された [イベント] ウィンドウ イベント詳細パネル に表示されます。




事前構成済みのコメントを設定するには、電子メールとSMS テンプレート] ページで 51を参照してください。

コメント環境設定を行う

- 1 viewLinc デスクトップから [オプション] >  [システム構成] >  [環境設定] を選択します。
- 2 全般 タブで、[変更についてのコメントが必要です] 値フィールドをクリックし、リストからオプションを選択します。変更についてのコメントが必要かどうかを選択します。コメントの入力をユーザーが決定するか、必須にするか、事前構成済みのコメントのみを必須にするのかを決定できます。
- 3 変更を保存します ([オプション] >  [保存])。

MKTアクティブ化エネルギー




MKTアクティブ化エネルギーのデフォルト値は、レポートとポップアップトレンドで使用されます。

- 1 viewLinc デスクトップから [オプション] >  [システム構成] >  [環境設定] を選択します。
- 2 全般 タブで、MKTアクティブ化エネルギー列を選択し、値列をクリックして新しい値を入力します。
- 3 変更を保存します ([オプション] >  [保存])。

スケジュール機能を有効にする

viewLinc アラーム スケジュール機能では、ユーザーまたはグループにアラーム条件を通知する特定の時刻や曜日を指定できます。ロケーションしきい値アラームをアクティブにする時刻をスケジュールするためにも使用されます。デフォルトでは、このオプションは無効です。

スケジュール機能を有効/無効にする

- 1 viewLinc デスクトップから [オプション] >  [システム構成] >  [環境設定] を選択します。
- 2 [全般] タブで、[スケジュール機能] 行を選択し、[値] 列をクリックしてスケジュールを有効または無効にします。
- 3 変更を保存します ([オプション] >  [保存])。[システム構成] メニューに新しいスケジュール オプションが表示されます。

ユーザーとロケーションのスケジュールを定義する方法については、「スケジュールの設定」ページで 47 を参照してください。




温度測定単位

viewLinc がインストールされたら、温度が摂氏で表示されるように設定されます。viewLinc を構成すると、摂氏または華氏で温度を表示できます。この設定は全体に適用されます。

この設定では、デバイスの温度測定方法は変更されます。温度が表示される単位だけが変更されます。有線単位設定が割り当てられているチャンネルを除く。

Note: 個別のデバイスチャンネルで温度単位を設定するには、見かける「デバイスとチャンネル プロパティの編集」ページで 97。




グローバル温度測定単位環境設定を選択する

- 1 viewLinc デスクトップから [オプション] >  [システム構成] >  [環境設定] を選択します。
- 2 全般 タブで、優先温度単位行を選択し、値列をクリックして、摂氏 (C) または 華氏 (F) 設定を選択します。
- 3 変更を保存します ([オプション] >  [保存])。

リモート受信確認

アラーム通知を受信確認する必要があるチームメンバーに対して、リモート受信確認を許可するかどうかと、受信確認を発行する方法 メール、SMS、または両方 を指定します。




リモート受信確認環境設定を行う

- 1 viewLinc デスクトップから[オプション] >  [システム構成] >  [環境設定]を選択します。
- 2 全般タブで、リモート受信確認行を選択し、値列をクリックして受信確認環境設定を選択します。
- 3 変更を保存します ([オプション] >  [保存])。

セキュリティキー

Vaisala から受け取ったセキュリティキーを入力します。この番号は、使用許諾された viewLinc によって管理できます。システムにアクセスできるユーザー数は監視されません。

セキュリティキーを設定または更新する

- 1 viewLinc デスクトップから[オプション] >  [システム構成] >  [環境設定]を選択します。
- 2 全般タブで、セキュリティキー行を選択し、値列をクリックして、セキュリティキーを入力します フィールドの外側をクリックすると、コードがビューから非表示になります。
- 3 変更を保存します ([オプション] >  [保存])。

技術サポート




技術サポートログフィールドは、サポートログファイルに含まれる詳細情報の量を示します。viewLinc技術サポートが必要な場合、Vaisala技術サポート担当者が、技術サポートログ設定を一時的に変更し、発生している問題を把握できるようにすることがあります。

セッション有効期限

[ユーザーは ID を確認する必要があります]フィールドを使用し、ユーザーのID再確認 パスワードの再入力 が必要なセッション有効期限を選択します。これによって、権限のないユーザーがviewLincで変更ができなくなります。この設定は、すべてのviewLincユーザーと管理者に対して全体的に適用されます。

この有効期限は、**なし**、**常に** ユーザーはシステムを変更する前にパスワードを入力する必要があるに設定するか、ログインまたはパスワードを再確認した後の**1, 5, 10, 15, 30**または**60** 分の間隔として設定できます。

セッション有効期限を設定する




- 1 viewLinc デスクトップから[オプション] >  [システム構成] >  [環境設定]を選択します。
- 2 [全般] タブで、[ユーザーは ID を確認する必要があります]行を選択し、**値列**をクリックして有効期限を選択します。
- 3 変更を保存します ([オプション] >  [保存])。

viewLinc Aware サービス

viewLinc Aware サービスを有効にするか無効にするかを選択します。このサービスによって、**viewLinc**は自動的にネットワークまたはサブネット上のvNetデバイスを検索して通信できます。

Note: サブネット毎に1つのviewLinc Serverだけで、このオプションを有効にできます。

viewLinc Aware サービスを有効または無効にする

- 1 viewLinc デスクトップから[オプション] >  [システム構成] >  [環境設定]を選択します。
- 2 **全般** タブで、**viewLinc Aware** サービス行を選択し、**値列**をクリックしてサービスを有効または無効にします。
- 3 変更を保存します ([オプション] >  [保存])。



viewLinc でvNetデバイスを設定する方法については、vNet PoEデバイスユーザーガイドを参照してください。

単位説明

監視するデバイスごとに、チャネルで追跡された情報があらかじめ設定されます。ただし、異なる情報を画面に表示する場合は、[単位環境設定] 画面を使用して変更します。


たとえば、チャンネルがミリアンペアを追跡する場合、mA となるように表示テキストを変更できます。

単位説明を指定する

- viewLinc デスクトップから[オプション] >  [システム構成] >  [環境設定]を選択します。



名前	デバイス単位	テキストの表示	最大	最小	小数点以下の桁数
摂氏	DEGC, TDC, C	°C	1000	-273.15	2
華氏	DEGF, TDF, F	°F	1832	-459.67	2
相対湿度	RH	%RH	100	0	2
ボール	BOOL	Bool	1	0	0
ボルト	V	V	10	0	4
ミリアンペア	MA	mA	10000	0	4
ミリリットル当たりリットラム	G/mL	g/mL	100000	0	2
空気の立方フィート水分子の粒	GR/FTL	gr/ft³	1000000	0	2
キログラム当たりリットラム	G/KG	g/Kg	1000	0	2
ポンド当たり水分子の粒	GR/LB	gr/lb	453.59	0	2
ボリュームによる百万分率	PPM/V	ppmV	100000	0	2
百万分の一重量部	PPM/W	ppmW	100000	0	2

- [単位] タブを選択します。リストにはすべての標準デバイスチャンネル単位タイプが表示されますが、一部のデバイスはカスタム単位説明で事前構成されることがあります。
- カスタムデバイス単位をこの表に追加して、viewLinc が単位タイプを認識して正しいしきい値設定を割り当てることができるようにする
 - [名前] 列で、チャンネルタイプの行を特定して選択します。
 - 選択した行で[デバイス単位] フィールドをダブルクリックし、[単位の追加]をクリックします。
 - 単位 (最大 4 文字) を入力し、[適用] をクリックします。
 - [表示テキスト] または [小数点以下の桁数] 列をダブルクリックし、情報単位の表示方法を選択します。
- 変更を保存します ([オプション] >  [保存])。

言語オプションを設定する




複数の国で操業している場合、ユーザーのネイティブ言語で viewLinc アラームデスクトップを表示できます。

Note: レポート コンテンツは、viewLinc アラームインストール中に選択された言語環境設定で作成されます。

Vaisala Veriteq viewLinc 4.3 でサポートされる言語は次のとおりです。

- 英語 (EN)
- 中国語 (簡体 - ZH)
- フランス語 (FR)
- ドイツ語 (DE)
- 日本語 (JA)
- スウェーデン語 (SV)
- メキシコスペイン語 (SP)
- ブラジルポルトガル語 (PT)

ユーザーが使用できる言語を指定する

- 1 viewLinc デスクトップから [オプション] >  [システム構成] >  [環境設定] を選択します。
- 2 [言語] タブで、ユーザーがログインするときに使用できる言語を選択します。
- 3 変更を保存します ([オプション] >  [保存])。



デバイスの検出



vNetデバイス、ロガー、および変換器 デバイス がネットワークに接続されている場合、ほとんどのモデルタイプは自動的に特定されます。ただし、デバイスが **ロケーション** ウィンドウの **デバイスナビゲーション** パネルに表示されない場合は、デバイスの検出機能を実行して見つからないデバイスを検索できます。

Note: デバイスの検出機能を使用すると、viewLinc アラームは **300 Series** 変換器を認識しません。自動的に検出されない場合は、手動で変換器を追加します **デバイスの手動追加** を参照。

また、監視ネットワークが大きくなった場合も、ホストコンピューターを簡単に追加できます **「ホストの追加」** ページで **37** を参照。

最近接続された Vaisala Veriteq デバイスを検出する

- 1 viewLinc デスクトップから [オプション] >  [システム構成] >  [ロケーション マネージャー] を選択します。

- 2 デバイスパネルで、デバイスが接続されているホストコンピューターを選択し、 **デバイスの検出**を選択するか、デバイスタブの**オプション**メニューで、**[ホスト] >  [デバイスの検出]**を選択します。





ネットワークのVaisala Veriteq デバイスまたはコンポーネントによっては、この処理には数分かかる場合があります。

デバイスの手動追加

次の場合には手動でデバイスを追加する必要があります。

- デバイスの検出に非常に長い時間がかかる
- 300 Series変換器またはHMT140 Wi-Fi ロガーを追加する
- さまざまなデバイスタイプを1度に追加する

Vaisala Veriteqデバイスを追加する



- 1 viewLinc デスクトップから**[オプション] >  [システム構成] >  [ロケーションマネージャー]**を選択します。
- 2 **[デバイス]**パネルで、ホストを選択してから、**[オプション] >  [ホスト] >  [デバイスの追加]**を選択します。



プロパティ	値
ホスト	W2008-R2-JA
デバイスクラス	Veriteq ロガー
COMポート	0



- 3 **[デバイスの追加]**画面で、**[デバイスクラス]**ボックスリストから、デバイスタイプを選択します。
- 4 COM ポート番号を入力します。
- 5 **[OK]** をクリックして保存します。

300 Series 変換器を追加する

- 1 他のユーザーが追加する変換器にログオンしていないことを確認します。
- 2 **[ロケーションマネージャ]** ウィンドウの**[デバイス]**パネルでホストを選択し**[オプション] >  [ホスト] >  [デバイスの追加]** をクリックします。
- 3 **[デバイスの追加]**画面で、**[デバイスクラス]**ボックスリストから、**300 Series 変換器**を選択します。



- 4 以下の情報を入力します。
 - **タイムアウト:** 連続監視を保証するには、変更しないでください
デフォルト30秒。
 - **スキャン後に切断する:** デバイスへの永続接続を維持するには、はいを選択します。
 - **接続タイプ:** 変換器にLANまたはWANモジュールがある場合、ネットワークを選択します。外部Digiデバイスを使用している場合は、COMポートを選択します。
 - **IPアドレス:** IPアドレスを入力します。
 - **サンプリングレート:** 90を選択します。推奨ですが、記録データを増やすか減らす場合にはレートを修正できます。
- 5 **[OK]** をクリックして保存します。

HMT140 Wi-Fiデータロガーを追加する

- 1 他のユーザーが追加するHMT140にログオンしていないことを確認します。
- 2 **[ロケーションマネージャ]** ウィンドウの**[デバイス]** パネルでホストを選択し **[オプション]** >  **[ホスト]** >  **[デバイスの追加]** をクリックします。
- 3 **[デバイスの追加]** 画面で、**[デバイスクラス]** ボックスリストから、**HMT140** を選択します。
- 4 以下の情報を入力します。
 - **タイムアウト:** 連続監視を保証するには、変更しないでください
デフォルト30秒。
 - **シリアル番号:** HMT140シリアル番号を入力します。
 - **UDPポート:** 自動生成され、必要に応じて修正できます。
 - **ピーコン毎の最高ブロック数:** viewLine とデバイス間で転送されたデータブロックのデフォルト数 64 を使用し、ネットワーク効率を最大化するか、必要に応じて修正します 最大256。

Note: 技術サポートに相談せずに、HMT140デバイスの「ピーコン毎の最高ブロック数」値を変更しないでください。この設定を変更すると、バッテリーの寿命に影響する可能性があります。
- 5 **[OK]** をクリックして保存します。

シリアルデバイスまたはデバイスタイプの組み合わせを追加する

- 1 定義ファイルを作成します。167ページのFAQを参照してください。
- 2 **[ロケーションマネージャ]**の**[デバイス]**パネルでホストを選択し**[オプション]>**
 **[ホスト]>**  **[デバイスの追加]**をクリックします。
- 3 デバイスの追加画面のデバイスクラスボックスリストで、定義ファイルのアップロードを選択し、正しいファイルを入力または参照します。
- 4 **[OK]** をクリックして保存します。


ホストの追加

大規模インストールの場合、viewLinc の複数 ホスト コンピューターの追加オプションを使用できます。これにより、特定のデバイス (グループ管理) の制御能力が高まり、ネットワークをより安定化できます。

例えば、複数のオフィスにあるデバイスを監視できます。各オフィスのすべてのデバイスを Enterprise viewLinc Server ネットワークに追加するのではなく、ローカル デバイスの接続先となる各オフィスでホスト コンピューターを設定します。この設定によって次のことができます。

- デバイスをより効果的に管理します (リモートサーバーの特定のデバイスでアラームを一時停止するのではなく、1つのオフィスでアラームを停止するなど)。
- ネットワークトラフィックがネットワーク全体でより均等に分散されることを保証します (ホスト コンピューターは、Enterprise viewLinc Server に送信する前に、デバイス データのより小さいグループを管理できます)。

ホスト コンピューターを追加する

- 1 **[ロケーション マネジャー]** から、**[デバイス]** パネルで、**[オプション]>**  **[ホストの追加]** を選択します。
- 2 **[ホストの追加]** ウィンドウで、ホスト名または IP アドレスを入力します。
- 3 **[OK]** をクリックします。viewLinc システムがホストとホスト上のすべてのデバイスを検出します。新しいホストのデバイス検出が完了するには、数秒から数分かかる場合があります。検出処理中には他の作業を続行できません。処理が完了したら通知されます。
- 4 更新するように指示されたら、**[はい]** をクリックします。

viewLinc へのアクセス コントロール

管理者は、ユーザーとグループを作成し、アクセス許可階層を割り当てることで、viewLinc機能領域へのアクセスを定義します。この階層は柔軟で、特定のユーザーまたはグループに必要な viewLinc タスクを割り当て、アクセスするロケーションまたはゾーンを割り当てます。

各ユーザーとグループには、次のものから構成されるアクセス許可階層が割り当てられます。

- **権限:** viewLinc (ウィンドウ) の機能領域への**アクセス**を定義します。
- **アクセスコントロール:**ロケーションまたはゾーンに対して**アクセス許可**を付与します。

例えば、ユーザーにデバイスの管理権限が割り当てられている場合、[ロケーションマネージャー]ウィンドウでタスクを事項するには、ユーザーを特定のロケーションのアクセスコントロールリストに追加する必要があります。

viewLinc のアクセスコントロールの設定には次のタスクがあります。

- 権限の割り当て
- アクセス コントロール許可の設定
- グループの作成とユーザーの追加
- ユーザーとパスワードの編集
- スケジュールの設定

権限の割り当て

権限はユーザーまたはグループに割り当てられます。権限によって、個別のユーザーまたはグループのすべてのユーザーは viewLinc の特定の機能を実行できます。

Note: デフォルトでは、新しいユーザーは自動的にイベント管理権限を持つデフォルトの全員グループに属します ([**イベント**] ウィンドウを表示可能)。

権限	説明
アラーム テンプレートの管理	アラーム テンプレートの設定
コメントの管理	事前構成済みコメントの定義
デバイスの管理	デバイス設定の編集、デバイスの交換、無効化/再有効化、デバイスアラーム設定、一時停止/再開、チャンネル説明とエイリアスの編集を行います。転送の編集と設定、およびスケジュールされた転送の無効化を行います。
イベントの管理	カスタム イベントの追加、イベントへのコメントの追加、イベントレポートの印刷、分析用 スプレッドシートへのイベント詳細のエクスポートを行います。
ロケーションの管理	ロケーションとチャンネルの追加、切り取り、名前の変更、リンク解除、または無効化を行います。
レポートの管理	レポートを表示および構成します。
システムの管理	システム設定の構成: 電子 メールおよび SMS 設定、ユーザーおよびグループ、スケジュール、電子 メール テンプレート。
アラーム テンプレートの管理	しきい値テンプレートを構成します。
ビューの管理	新しいビューの作成、ゾーンの追加、ゾーン名の変更、ゾーンへのアクセスの定義、ダッシュボード画像の追加、トレンドの監視を行います。

グループと権限がユーザーに割り当てられたら、実際のユーザーの権限は割り当てられたユーザー権限とグループ権限の両方になります。

例えば、ユーザー 1 がデバイス管理権限を持ち、ロケーション権限を持つグループ 1 に割り当てられている場合、ユーザー 1 の権限はロケーションの管理とデバイスの管理です。

ロケーションへのアクセスはアクセス制御リスト (ACL) によって許可されます。

アクセス コントロール許可

viewLinc プログラムウィンドウで指定 タスクへのアクセス許可を付与された後、管理者はユーザーまたはグループへのアクセス コントロール許可を与えることができます。

アクセス許可によって管理者はユーザーまたはグループに対し表示や作業可能なゾーンまたはロケーションを指定できます。

次の表に、viewLinc におけるさまざまなアクセス コントロール許可の概要を説明します。

アクセス許可	定義
隠す	全アクセスコントロール許可の無効化。アクセスコントロールは上位ゾーンから継承されるため管理者はこの権限を利用しゾーンもしくは子ゾーン内の指定されたロケーションを隠すことができます。
フルコントロール	ユーザーはゾーンまたはロケーションを表示し、アラームの受信確認、さらにロケーション管理権限がある場合はカスタムしきい値アラーム設定の構成やアラーム スケジュールを適用できます。
アラームの構成	ユーザーはゾーンまたはロケーションを表示し、アラームの受信確認、さらにロケーション管理権限があればアラーム スケジュールを適用することができます。
カスタムしきい値の構成	ユーザーはゾーンまたはロケーションを表示し、アラームの受信確認、さらにロケーション管理権限がある場合はカスタムしきい値設定の構成ができます。
アラームの受信確認	ユーザーはロケーションを表示し、同ロケーションでのアラーム受信確認ができます。
ビュー	基本ビューのアクセス許可。

この複合コントロール制度を用いて管理者は各ユーザーまたはグループが実行可能なアクティビティを特定できます。

アクセス コントロールの割当についての注意

- 管理ユーザー並びに管理グループに属するユーザーは自動的に viewLinc 全ての機能と全 ロケーションへのフル アクセスが割り当てられ、アクセス許可は無視されます。
- ユーザーにゾーンのフル コントロールを割り当てた場合全ての子ゾーンとロケーションにフル コントロールが継承されます。
- ユーザー アクセス コントロール許可は複数のユーザー並びにグループレベルのアクセス許可と合わせた最上位の設定をデフォルトにします。例えばロケーションのビュー アクセス許可を与えられたユーザーが同ロケーションのフル コントロールを与えられたグループに属しているとそのユーザーには最上位レベルのロケーションであるシステムのフル コントロールが与えられます。

Note: アクセス コントロール インспекタ ツールを使ってどのユーザーまたはグループがどのゾーンとロケーションへのアクセスを許可されているか簡単に知る事ができます。

- **隠す**許可は他のアクセス コントロール許可を全てオーバーライドします。グループにロケーションのフル コントロールを割り当てながら同グループ内の特定ユーザーからはそのロケーションを隠すといった特殊なケースに用います。

アクセス コントロール インспекタ

複数のゾーンやロケーションに対しアクセス コントロールを指定する必要がある場合、アクセス コントロール インспекタで現存のアクセス権限割当を簡単に表示、変更することができます。

Note: アクセス コントロール インспекタの使用にはロケーション管理権限が必要です。

アクセス コントロール インспекタの使用

- 1 viewLinc デスクトップから[オプション] > [システム構成] > [ロケーション マネージャー]を選択します。
- 2 [ロケーションプロパティ]パネルから[アクセス コントロール]タブを選び、[オプション] > [アクセス コントロール インспекタ]を選択します。

- 3 **【使用可能なグループ/ユーザー】** 欄からグループまたはユーザーを選択します。割り当てられたゾーン/ロケーションとそのアクセス許可レベルはロケーション パネルに表示されます。
- 4 **【使用可能なグループ/ユーザー】** リストのフィルターは **【オプション】** メニュー (全て、グループ、ユーザー) から選択します。

グループの作成とユーザーの追加

グループ機能では、viewLinc 管理者が複数のユーザーに対して一度に権限を割り当てることができます。複数のユーザーのアクセス権を構成するための簡単な方法であり、必要に応じて個別のユーザーの権限を追加できます。

viewLinc システムのユーザー数が 9 人以下の場合でも、グループ別のタスクを定義することをお勧めします。グループが設定されたら、グループに割り当てられた権限によって、グループのユーザーがアクセスできる viewLinc の領域が定義されます。

デフォルトでは、最初に viewLinc をインストールすると、割り当て済みのデフォルト権限で、2 つのデフォルトグループが使用できます。

- **管理者:** 管理者として設定されているユーザーは自動的にデフォルトの管理者グループに割り当てられます。このユーザーと、管理者グループに割り当てられたすべてのユーザーは、すべてのウィンドウにアクセスし、viewLinc 内のすべての機能を実行し、すべてのロケーションを管理する権限があります。
- **全員:** すべての管理者以外のユーザーは、自動的に 2 番目のデフォルトグループである全員に割り当てられます。このグループには、ロケーションおよびイベントウィンドウにアクセスする権限がありますが、機能を実行したりロケーションを管理するためのアクセスコントロールは割り当てられていません。

グループの作成

グループを作成する

- 1 viewLinc デスクトップから**【オプション】** > **【システム構成】** > **【グループ】** を選択します。
- 2 **【オプション】** メニューで、**+** **【グループの追加】** を選択します。

3 グループ名と説明フィールドを入力します。

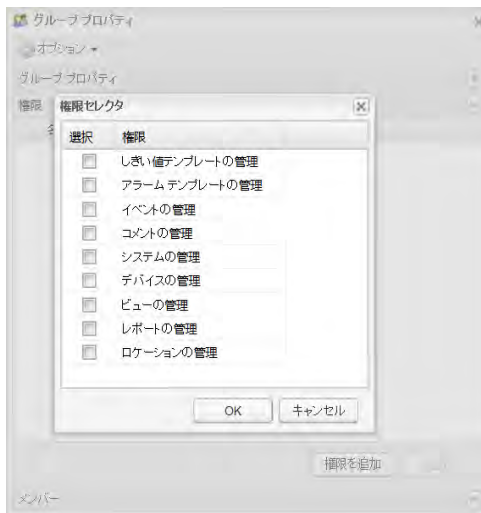
[説明]フィールドを使用して、グループに割り当てられる権限や、しきい値監視などのグループの主要業務機能を指定できます。

4 グループ権限を定義するには、下にある**権限**バーのプラス記号をクリックし、**[権限の追加]**をクリックします。権限が割り当てられない場合、これらのユーザーは自動的にイベントウィンドウでイベントを表示できます。

5 次のオプションから選択します (各権限の説明は、**38ページ**を参照)。

- アラーム テンプレートの管理
- コメントの管理
- デバイスの管理
- イベントの管理
- ロケーションの管理
- レポートの管理
- システムの管理
- アラーム テンプレートの管理
- ビューの管理

6 [OK]をクリックして権限をグループプロパティリストに追加し、**[権限の追加]**をクリックします。



- 7 ユーザーをこのグループに割り当てるには、メンバービュー (+) を展開し、**[ユーザーの追加]**をクリックします。
- 8 このグループに含めるユーザーを選択し、**[OK]**をクリックします。選択したグループのメンバーとグループ権限がメンバーセクションに表示されます。

グループの非アクティブ化/再アクティブ化

グループ機能を使用すると、ユーザーの権限とアクセスコントロール許可を非アクティブ化する必要がなく、グループの非アクティブ化が便利になることがあります。

グループを非アクティブ化または再アクティブ化する

- 1 viewLinc デスクトップから**[オプション]** > **[システム構成]** > **[グループ]**を選択します。
- 2 非アクティブ化/再アクティブ化するグループを選択します。
- 3 [グループ]ウィンドウの**[オプション]**ボックスを選択し、**✖ [グループの非アクティブ化]**を選択します。
- 4 グループを再アクティブ化するには、**[オプション]** > **[非アクティブ化されたグループの表示]**を選択します。手順1～3に従い、**🔄 [グループの再アクティブ化]**を選択します。


ユーザーの追加

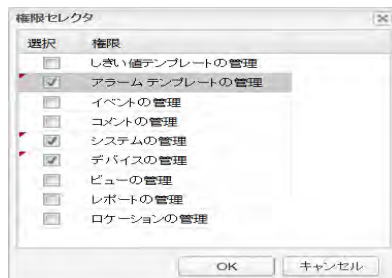
ユーザーをシステムに追加する前に


- グループを設定する必要があるかどうかを判断します。
- ユーザーに割り当てる権限を決定します。

新しい viewLinc ユーザーを追加してアクセス権を割り当てる

- 1 viewLinc デスクトップから**[オプション]** > **[システム構成]** > **[ユーザー]**を選択します。
- 2 ユーザーが存在しないことを確認するには、ユーザー名または氏名で検索します。
 - ウィンドウの上部にある**[検索]**フィールドで、ユーザー名または氏名を入力し、検索アイコン (拡大鏡) をクリックします。

- [x] をクリックすると、フィールドがクリアされ、全ユーザーの一覧が表示されます。
- 3 **[オプション]** メニューで、 **[ユーザーの追加]** を選択します。
 - 4 **[ユーザープロパティ]** ウィンドウで、次の情報を入力します。
 - **ユーザー名と氏名。** ログイン ユーザー名と必要に応じて氏名を入力します。
 - **電子メール アドレス、携帯電話番号、および PIN:** このフィールドを使用して連絡先詳細情報を追加します (レポート、アラーム通知、または受信確認の受信用)。
 - **[+]** 記号、国番号および市外局番を含めて携帯電話番号を入力します。例:
+44 604 273 6850 (ダッシュ、スペースまたはピリオドを含めることもできますが必須ではありません)
 - 4～6桁、1000～999999のPIN番号を入力します。
 - **スケジュール:** **[スケジュール]** ボックスをクリックすると、このユーザーに連絡する特定の期間を選択します。スケジュールを定義するには、「スケジュールの設定」ページで 47を参照してください。
 - 5 パスワードを入力して確認し、手動で設定するか、**[Windows 認証]** を選択して Windows 認証を使用します。
 - 6 ユーザーのシステム権限を定義するには、**[権限]** ビューを展開します。
 - a **[権限の追加]** をクリックし、このユーザーに必要な権限を選択します。
 - b **[OK]** をクリックします。



- 7 ユーザーをグループに割り当てるには、[グループ] ビューを展開します。
 - a [グループの追加] をクリックし、[選択] 列のチェックボックスをクリックして、このユーザーのグループを選択します。
 - b [OK] をクリックします。
- 8 [オプション] >  [保存] をクリックします。





Note: 変更時または設定した分数が経過した後は、ユーザーが ID を再確認 (ユーザー名とパスワードを再入力) するのを必須にできます。この環境設定を行うには、「セッション有効期限」ページで 31 を参照してください。

ユーザーとパスワードの編集

新しいユーザーアカウントを作成 (「グループの作成とユーザーの追加」ページで 42 を参照) した後、パスワードなどのアカウント設定を修正するか、ユーザーを一時的に非アクティブ化できます (休暇予定のユーザーの場合に便利です)。



Note: データ履歴を保持するために、ユーザーは完全に削除できません。


ユーザーアカウントとパスワードを編集する

- 1 viewLinc デスクトップから [オプション] >  [システム構成] >  [ユーザー] を選択します。
- 2 編集するユーザーを選択し、[オプション] >  [ユーザーの編集] を選択します。あるいは、編集するユーザーを含む行をダブルクリックします。
- 3 [ユーザープロパティ] ウィンドウで、必要に応じて設定を編集します。
- 4 [オプション] >  [保存] を選択します。




Note: Windows 認証を使用しない場合は、viewLinc のパスワードだけを編集できます。

ユーザーを非アクティブ化する

- 1 viewLinc デスクトップから [オプション] >  [システム構成] >  [ユーザー] を選択し、非アクティブ化するユーザーを選択します。

- 2 [オプション] >  [ユーザーの非アクティブ化] を選択します。
- 3 [はい] をクリックして変更確認します。

ユーザーを再アクティブ化する

- 1 viewLinc デスクトップから[オプション] >  [システム構成] >  [ユーザー] を選択し、[オプション] > [非アクティブ化されたユーザーの表示] をクリックします。非アクティブ化されたユーザーは灰色のテキストで表示されます。
- 2 再アクティブ化するユーザーを選択し、[オプション] >  [ユーザーの再アクティブ化] を選択します。

スケジュールの設定





2つの方法でスケジュール機能を使用できます。ユーザーがアラーム通知を受信するときを指定し、ロケーションしきい値アラームをアクティブにするスケジュールを指定します。3つのステータスオプションがあります **スケジュール** ウィンドウの**状態** タブで選択。

- **常に:** ユーザーは常にアラーム通知を受けます。しきい値アラームは継続的にアクティブです。
- **なし:** アラーム通知がオフです ユーザーにだけ適用。
- **有効:** カスタム スケジュールを作成します。カスタムスケジュールでは、ユーザーがアラーム通知を受信する特定の時刻、またはしきい値アラームをアクティブにする特定のゾーンまたはロケーションを指定できます。これはスケジュール回数で、ユーザーの可用性に対応するために日付が回転します。たとえば、ユーザーが午前7時から午後7時にアラーム通知を受信するように設定します (07:00-19:00)。この場合、4日オン、5日オフのローテーションです。あるいは、しきい値アラームスケジュールを設定し、特定のシフトでだけアクティブにします。

あるいは、ユーザーが休暇の場合、ユーザーアカウントを一時的に非アクティブ化できます [ユーザーとパスワードの編集] ページで 46 を参照。あるいは、管理領域がメンテナンスで一時的に停止している場合は、[しきい値アラームの非アクティブ化と再アクティブ化] ページで 81 を参照してください。

Note: スケジュールを使用するには、[オプション] > [システム構成] > [環境設定] ウィンドウでこの機能を有効にします。ユーザーのアカウントに適用する前に、スケジュールを設定する必要があります。

カスタム スケジュールを作成する

- 1 **[オプション]** >  **[システム構成]** >  **[スケジュール]** から、**[オプション]** >  **[スケジュールの追加]** をクリックします または右クリックメニューを使用します。
- 2 **[スケジュール]** ウィンドウで、次の情報を入力します。
 - **状態:** **有効** を選択します。
 - **開始日:** テキストボックスに入力し、カレンダーから日付を選択します。
 - **繰り返し日数:** スケジュールを7日ごとに繰り返す場合は **7** と入力します。9日の場合は **9** と入力します。最大値は **99** 日です。
 - **タイムゾーン:** 選択したタイムゾーンのローカル時刻のスケジュール時刻を設定します。
 - **期間:** 24時間で期間を入力します。形式は **xx:xx-yy:yy** です。 **xx:xx** は開始時刻、 **yy:yy** は終了時刻です。
 - 1日の断続期間中に通知を送信するには、時間をカンマで区切ります **08:00-12:00, 13:00-16:00** 。
 - 終日通知を送信するには、 **00:00-24:00** と入力します。
 - 特定の日の時刻に通知を送信しない場合は、期間をブランクにします。
- 3 デフォルトでは、スケジュール名が**新しいコンタクトスケジュール**になります。名前を変更するには、行をダブルクリックするか、**[オプション]** > **[名前の変更]** を選択します。
- 4 **[オプション]** >  **[保存]** をクリックします。

電子 メールおよび SMS 通知設定



アラーム通知は電子 メールまたはSMS経由で送信されます。管理者は、メールサーバーや電子 メール配信 アドレスなど、システム電子 メールおよびSMS設定を定義できます。

- 電子 メールおよびSMSメッセージの内容を指定するには、「電子 メールとSMS テンプレート」 ページで 51を参照してください。
- アラーム通知の受信者を制御するには、「スケジュールの設定」 ページで 47を参照してください。

- アラームしきい値設定を作成するには、「しきい値テンプレート」ページで57を参照してください。

電子メール通知設定の定義

通知のデフォルト電子メール設定を構成する

- viewLinc デスクトップから[オプション] >  [システム構成] >  [電子メール設定]を選択します。



- 管理者の電子メールアドレスを入力します。このアドレスはすべてのシステム通知を受信します。一日のさまざまな時刻に電子メール通知を受信するユーザーを指定できます。複数の電子メール通知の階層化された電子メール通知を指定できます。



Note: 管理者の電子メールアドレスは会社の電子メールアドレスでなくてもかまいません。便宜上、viewLinc では、電子メールを Administrator@gmail.com などの外部電子メールアドレスに発行できます。

- 有効な「差出人」アドレスを入力します。viewLinc の電子メール通知はこの「差出人」アドレスから送信されるため、電子メールアドレスが社内には存在しなければなりません。必要に応じて、「差出人」アドレスを作成するには、IT 管理者に問い合わせてください。

例:



viewlinc_system@yourcompany.com また
は controlroom47@yourcompany.com


- 4 **[送信サーバー]**領域で次の項目を入力します。
 - 送信SMTPメールサーバー名 (mail.yourserver.com など)
 - 送信メールサーバーポート (1~65535の番号。この情報については、IT 管理者に問い合わせてください。)
- 5 送信メールサーバーで認証が必要な場合は、**[SMTP 認証]**チェックボックスをオンにし、そのサーバーでメールを送信するユーザー名とパスワードを入力します。

Note: SMTP サーバーでサポートされている場合は、viewLinc は自動的にセキュア SMTP を使用します。
- 6 送信メールサーバーで、メール送信する前に POP 経由で確認が必要な場合、次の設定を構成します (ヘルプについては、IT ネットワーク管理者に問い合わせてください)。
 - a **[POP3 接続が必要]**を選択します。
 - b **POP3:** 受信POP3メールサーバー名を入力します。
 - c **ポート:** 受信メールサーバーポートを入力します。
 - d **[POP3認証]** を選択し、viewLinc システムが使用する有効な POP3アカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
- 7 **[オプション]** >  **[メールをテストする]** を選択して設定をテストします。問題がない場合、続行します。問題がある場合、管理者の電子メールアドレスを調整し、テストメールが正常に送信されるまで設定を確認します。
- 8 **[オプション]** >  **[保存]** を選択して電子メール設定を保存します。

SMS 通知設定の定義

デフォルトSMS設定を構成する

- 1 viewLinc デスクトップから**[オプション]** >  **[システム構成]** >  **[SMS 設定]**を選択します。
- 2 管理者の**モバイル番号**を入力します。
- 3 モデムの**SMS COM**ポート番号を入力します。

- 4 **SMS** ポートボーレートボックスリストからオプションを選択します。モデムでサポートされている最高レートを選択します。
- 5 **SIM** カードPIN 番号を入力します(必要な場合)。
- 6 **[オプション]** > **[保存]**  を選択します。

テンプレート

テンプレートは、標準電子メールおよびSMSメッセージ、アラーム通知要件、およびロケーションしきい値で配布に必要な情報をすばやく定義するために使用されます。

- **電子メールとSMS テンプレート:**viewLincアラームの標準電子メールまたはSMS通知内容を定義します。
- **アラーム テンプレート:**ユーザーのPCでのアラームの通知方法、アラームをアクティブ化するタイミング、特定のタイプのアラームで受信確認が必要かどうかを定義します。
- **しきい値テンプレート:**単位 温度のみ、単一または複数しきい値アラームのしきい値、特定のタイプのしきい値の表示パラメーターを定義します。しきい値テンプレートはロケーションに適用されます。

電子メールとSMS テンプレート

アラーム通知は電子メールまたはSMSで発行され、ネットワークのアラーム状態の情報が含まれます(「アラームのタイプ」ページで **114** を参照してください)。






viewLinc の41以上の電子メールおよびSMSテンプレートを使用でき、カスタムメッセージコンテンツも作成できます。

カスタム電子メールおよびSMSテンプレートを作成するときには次のような特定のコンテンツ項目を追加したり除外したりできます。


- デバイスの説明
- イベントタイプ
- アラームの詳細
- 日付
- 時刻
- チャネル
- コメント(カスタムまたは事前構成済みコメント)

Note: メッセージ コンテンツ オプションはテンプレートによって異なります。

カスタム電子メールまたは SMS テンプレート メッセージを作成する

- 1 viewLinc デスクトップで [オプション] >  [システム構成] >  [テンプレート] >  [電子メール/SMS テンプレート] を選び、カスタム テンプレートを割り当てるテンプレートを含む行を選択します。
- 2 オプションメニューで、 **電子メールテンプレートの編集** を選択するか、テンプレートウィンドウを開くために行をダブルクリックします。
 - 標準テンプレートコンテンツが**デフォルトメッセージ領域**に表示されます(デフォルトメッセージの内容を編集することはできません)。
 - 角括弧の項目は変数であり、自動生成されます。
- 3 新しいメッセージコンテンツを追加するには、**カスタムメッセージ領域**に移動し、**SMSテキストフィールド**または**電子メール件名/本文フィールド**を入力します。
- 4 自動生成変数を追加するには、変数を追加するロケーションにカーソルを移動し、[オプション] >  [マクロ] を選択します。

ボックスリストから変数を選択します。(テンプレートによって使用可能なマクロは異なります) 全マクロ定義の一覧については、177ページのを参照してください。

- 5 **[カスタムメッセージを有効にする]** チェックボックスを選択します (ウィンドウの右上端)。
- 6 [オプション] >  [保存] をクリックします。

アラーム テンプレート

アラーム テンプレートを利用し、類似するアラーム設定を複数のロケーションに適用することができます。アラーム テンプレート管理権限を有すると次のアラーム タイプの初期設定テンプレートの変更や新しいテンプレートの作成ができます。

- 通信
- 構成変更
- デバイス校正

- デバイス構成
- デバイス検証
- イベント検証
- しきい値

Note: アラーム テンプレート (標準 メッセージと通知) はしきい値テンプレート (再利用可能な条件制限) と連動します。





アラーム テンプレートのオプション

アラーム テンプレートの作成においてデスクトップ上のアラーム条件表示、アラーム通知メッセージの内容、単一もしくは多数のユーザーへの通知条件等多様な設定が可能です。

例えば最初の通知先へ 1 分遅延のメール通知を作成します。次に異なる通知先へ 20 分遅延のメール通知を作成します。最初の通知が 20 分以内に受信確認されなかった場合、ふたつ目の通知が自動的に送信されます。

アラーム テンプレートの作成と変更にはアラーム テンプレート管理権限が必要です。指定 ロケーションにアラーム テンプレートを適用するためには対象となる全ロケーションに対するロケーション管理権限とアラーム構成アクセス許可の双方が必要です。

新しいアラーム テンプレートを作成する

- 1 viewLinc デスクトップから **[オプション]** >  **[システム構成]** >  **[テンプレート]** >  **[アラーム テンプレート]** を選び、**[オプション]** >  **[アラーム テンプレートの追加]** を選択します。
- 2 **[タイトル]** フィールドをクリックしてテンプレート名を指定し、**[入力]** を押しします。
- 3 **[パラメーター全般]** のタブで次の項目を指定します。
 - **[色]**: **[ロケーション]** ウィンドウ内の行の背景色を選びます。ここで指定した色はトレンドのポップアップ内でロケーション値の背景色やしきい値 ライン表示、ダッシュボード内のロケーション表示色としても使われます。軽度のアラーム条件の青から最も重度のアラーム条件の赤まで色でアラームの重要度を色で示唆します。
 - **[アラーム メッセージ]**: アラーム発生時に、メールまたは SMS での通知 (**[通知]** タブで設定) を設定する場合、アラーム通知に含まれるメッセージを入力します。**[アラーム メッセージ]** フィールドの内容は所定アラームのデフォルト メール通知 (**AlarmMessage** マクロ

を利用、1 ページ 電子メールとSMS テンプレート」 ページで 51を参照) の本文に表示されます。

- **[アラームをアクティブ化する前の遅延 (HH:MM)]**: 時間、分単位で条件発生後アラーム アクティブ化までの遅延を指定できます。
 - 通知遅延も [通知] タブで設定します。[パラメーター全般] タブに遅延時間を入力する際は合計遅延時間がアラーム通知要件の妨げにならないよう注意してください。
 - **[受信確認が必要]**: ユーザーによるアラーム受信確認 (viewLinc 画面、リモートディスプレイ、メールまたは SMSによる確認要請への応答) を必要とする場合このオプションを選択します。このオプションを選択するとアラームは受信確認されるまでアクティブとなります。アラーム条件の後も未確認のアラーム通知は [アラーム] ウィンドウに残留します。
- 4 ユーザーの viewLinc デスクトップまたはリモート画面へのポップアップウィンドウによるアラーム通知には **[通知]** タブをクリックし、**+ [追加]** さらに **[ポップアップ通知の追加]** を選択します。次の項目を入力します:

[ポップアップする前の遅延]: 時間、分単位 (HH:MM) でポップアップ表示の遅延を指定します。この遅延は [全般] タブの遅延 (指定されている場合) 終了後に開始します。

Note: この機能の多様は避けてください。同時に多数のポップアップが発生するとブラウザ機能が低下し、ブラウザの再始動が必要になることがあります。

- 5 アラーム通知をメールで送信する場合は **[通知]** タブで **+ [追加]** をクリックし **[メール通知の追加]** を選択します。次の項目を入力します。

[最初の通知送信前の遅延]: 時間、分単位 (HH:MM)で最初のメールの送信遅延を指定します。[全般] タブでアラーム発生が遅延を指定している場合は合計遅延時間がアラーム通知要件の妨げにならないように注意してください。

[メールの送信先]: viewLinc で事前構成されていない単一または複数のアドレスを入力します。複数のメール アドレスはコンマで区切ります。

IMPORTANT: **[メールの送信先]** フィールドに viewLinc で事前構成されているユーザーのメールアドレスを入力するとviewLinc は割り当てスケジュールを無視します。

[ユーザー リスト]: このフィールドをクリックして **[グループ セレクタ]** ウィンドウを開き、viewLinc ユーザーまたはグループを **[選択済みグループ ユーザー]** の欄までドラッグします。見やすいように矢印ボタンを使って表示順の変更ができます。**[OK]** をクリックします。

[メール通知の繰り返し]: アラーム条件が満たされている間 メールが再送される間隔を指定します。**[最大繰り返し回数]** フィールドでメールの最大再送回数を指定できます (無限に繰り返すには 0 を入力します)。

受信確認の後に一時停止: 電子メールまたは SMS アラーム通知の繰り返し分散を許可、一時停止、または抑制するオプションを選択します。

[通知]: アラームの受信確認または条件解消を受けてメールを送信するには該当するチェック ボックスを選択します。

- 6 viewLinc Server でコマンドをトリガーする場合は **[通知]** タブで **+** **[追加]** をクリックし **[コマンド通知の追加]** を選択します。次の項目を入力します。

[最初の通知 コマンドを実行させる前の遅延]: コマンド実行前の遅延を指定するには時間、分単位 (HH:MM) で遅延時間を入力します。

Note: **[パラメーター全般]** タブでアラームをアクティブ化する前の遅延を指定している場合は合計遅延時間がアラーム通知要件の妨げにならないように注意してください。

[コマンド実行] テキスト フィールド: アラームのトリガー、通知の繰り返し、アラームの受信確認、またはアラーム条件の解消に対応してコマンドを実行するには DOS コマンドを入力します。

例:

```
C:\Program Files\Veriteq
Instruments\viewLinc\python\python" -m
viewLinc.scripts.SwitchBbRelay < 中継装置が接続
されている com ポート番号 >
```


スクリプト説明文に指定されているオプションを使用します。1 ページの

「FAQ およびトラブルシューティング」 ページで 159

上記の例は Digital Relay I/O デバイス特有の python スクリプトです。パラメーターは個々のコマンドまたはスクリプトによって異なります。

- 7 アラーム通知に特定のコメントを追加する場合は【コメント】タブをクリックします。【事前構成済みコメント】ドロップダウン リストからコメントを選択 (利用可能な場合)、または新しいコメントを入力します。

Note: メール通知内でのコメント表示はアラーム イベントに関連付けられたメール テンプレート (【システム構成】>【テンプレート】>【メール テンプレート】) にて定義されます。詳しくは 1 ページ「電子メールとSMS テンプレート」 ページで 51 を参照してください。

- 8 アラーム設定完了後【オプション】> 【保存】を選択します。





1 つ以上のデバイスまたはロケーションにこのアラーム テンプレートを適用できます (「しきい値テンプレート」 ページで 57 または「テンプレートでの事前構成済みコメントの使用」 ページで 60 またはを参照)。

Note: 選択したアラーム テンプレートを現在使用中の全ロケーションとデバイスを羅列するには【オプション】>【テンプレート】を使用したデバイスとロケーション】を選びます。

カスタムまたはデフォルト アラーム テンプレートの編集

Note: アラーム テンプレート割当先のロケーションに対するアラーム構成許可が必要です。

IMPORTANT: テンプレートを変更する前にどのデバイスとロケーションがテンプレートを使用しているか確認します ([アラーム] ウィンドウでアラーム テンプレートを右クリックし、【テンプレートを使用しているデバイスとロケーション】を選択します)。

- 1 viewLinc デスクトップで【オプション】> 【システム構成】> 【テンプレート】> 【アラーム テンプレート】を選び、変更するアラーム テンプレートを選択します。
- 2 53 ページの手順 3 から 8 の説明に従い、必要な変更を行います。
- 3 【オプション】> 【保存】を選択します。

しきい値 テンプレート

しきい値設定はロケーションに割り当てられ、アラームをトリガーする条件を定義します。例:

- 1分を超える場合は**23.00 C**を超える、または
- 15分を超える場合は**37.76 RH**未満

しきい値設定はテンプレートの使用に関係なく適用できますが、しきい値テンプレートを使用すると、単一または複数しきい値設定で同様のパラメーターを容易に複数のロケーションに適用できます。

新しいしきい値テンプレートを作成するか、2つのテンプレートの高温および低温のいずれかを修正できます。





Note: しきい値設定がロケーションに適用され、条件が設定を超える、デフォルトしきい値アラームテンプレートが自動的にアクティブ化されます。アラームテンプレート設定の詳細については、「アラーム テンプレート」 ページで **52**を参照してください。

アラーム設定は、アラームの重要度が標準 黄色のバー、条件がしきい値に近い か、緊急 赤色のバー、条件がしきい値を超える かを示します。

たとえば、黄色のアラームを最初にトリガーし、電子メールを自動的に送信するように設定できます。赤色アラームの場合、アラーム条件をより長く設定できます しきい値から**15分**。また、電子メールをラボマネージャーまたはアクションの通知が必要なユーザーの配布リストに送信できます。

単一しきい値 テンプレート

単一しきい値 テンプレートを作成する

- 1 viewLinc デスクトップから[オプション] >  [システム構成] >  [テンプレート] >  [しきい値テンプレート]を選択します。
- 2 既存のデフォルト高またはデフォルト低テンプレートを修正するには、テンプレートを選択し、しきい値条件を手順4~6のとおりを設定します。
- 3 新しいテンプレートを作成するには、[オプション] >  [単一しきい値テンプレートの追加]をクリックします。タイトルの任意の場所をダブルクリックして変更します。
- 4 しきい値条件を設定します。



- **単位:** チャネルの測定単位を選択します。
 - **デッドバンド:** 無視する測定範囲を指定します この範囲はアラームをトリガーしない変動に対応します。
 - **タイプ:** しきい値を高上限 高または高高 または低下限 低または低低 として示し、単位の変更レート **ROC**単位 を示します。変更のレートは、**1** 分以内の変動量を測定します。例えば、冷蔵庫のドアが開いているときに、冷蔵庫の温度が上昇する速度を知りたいとします。
 - **値:** しきい値限度を入力します。
 - **カテゴリ:** レポート目的のため、警告 メッセージまたはアラーム通知が、しきい値条件に達したときに発行されるかどうかを指定します。
 - **アラームテンプレート:** しきい値テンプレートに割り当てる既存のアラームテンプレートを選択します。プライベートを選択し、単一ロケーションに適用するカスタムアラーム設定を作成します。
- 5** カスタム プライベート アラームテンプレートを定義するか、既存のアラームテンプレートを修正するには、一般パラメーター、通知、コメントタブを入力します。

Note: 既存のアラームテンプレートを修正するには、アラームテンプレートの管理権限が必要です。詳細については、「アラーム テンプレート」 ページで **52**を参照してください。

- 6** しきい値テンプレートの作成が完了したら、**[オプション]** > **[保存]** をクリックします。

しきい値テンプレートをロケーションに適用するには、「ロケーションしきい値の設定」 ページで **78**を参照してください。

複数しきい値 テンプレート

複数しきい値テンプレートには最大**5**つのしきい値を設定できます。


複数しきい値テンプレートを作成する

- 1 viewLinc デスクトップから[オプション]> [システム構成]> [テンプレート]> [しきい値テンプレート]を選択します。
- 2 [しきい値テンプレート]ウィンドウで、[オプション]> [複数しきい値テンプレート]をクリックします。
- 3 タイトルの任意の場所をダブルクリックして変更します。
- 4 しきい値条件を設定します。

単位:	選択済み	種類	値	カテゴリ	アラーム
°C	<input checked="" type="checkbox"/>	HighHigh(2次高)	0	アラーム	隠し...
デッドバンド (°C):	<input checked="" type="checkbox"/>	High(高)	0	アラーム	隠し...
0	<input checked="" type="checkbox"/>	Low(低)	0	アラーム	隠し...
	<input checked="" type="checkbox"/>	LowLow(2次低)	0	アラーム	隠し...
	<input checked="" type="checkbox"/>	ROC (単位/分)	0	アラーム	隠し...

- **単位:** チャンネルの測定単位を選択します。
 - **デッドバンド:** 無視する測定範囲を指定します この範囲はアラームをトリガーしない変動に対応します。
 - **タイプ:** しきい値を高上限 **High**または**HighHigh** または低下限 **Low**または**LowLow** として示し、単位の変更レート **ROC**単位 を示します。
- Note:** 変更のレートは、1 分以内に記録された変動量を測定します。例えば、冷蔵庫のドアが開いているときに、冷蔵庫の温度が上昇する速度を知りたいとします。
- **値:** しきい値限度を入力します。
 - **カテゴリ:** レポート目的のため、警告メッセージまたはアラーム通知が、しきい値条件に達したときに発行されるかどうかを指定します。
 - **アラームテンプレート:** しきい値テンプレートに割り当てる既存のアラームテンプレートを選択します。プライベートを選択し、単一ロケーションに適用するカスタムアラーム設定を作成します。
- 5 カスタム プライベート アラームテンプレートを定義するか、既存のアラームテンプレートを修正するには、一般パラメーター、通知、コメントタブを入力します。

Note: 既存のアラームテンプレートを修正するには、アラームテンプレートの管理権限が必要です。詳細については、「アラームテンプレート」ページで 52 を参照してください。

- 6 しきい値テンプレートの作成が完了したら、[オプション] >  [保存] をクリックします。

しきい値テンプレートをロケーションに適用するには、「ロケーションしきい値の設定」ページで 78 を参照してください。




テンプレートでの事前構成済みコメントの使用

[Comments]変数を使用した電子メール/SMSテンプレートには、事前構成済みコメントまたはカスタムコメントが自動的に含まれます。取得されるコメントのタイプはアラームテンプレートで定義されます。「しきい値テンプレート」ページで 57 を参照。

たとえば、通信アラーム アラームテンプレート 設定する場合は、通信アラームテンプレートに割り当てられた事前構成済みまたはカスタムコメントが電子メール通知に表示されます。

Note: 事前構成済みコメントはイベントログでも使用し、詳細情報をレポートに提供できます。「イベントへのコメントの追加」ページで 127 してください。




事前構成されたコメントを作成する

- 1 viewLinc デスクトップから[オプション] >  [システム構成] >  [コメント] を選択し、[オプション] >  [コメントの追加] を選択します。



- 2 新しいコメントというテキストを含むボックスで、コメントを入力して [Enter] を押します。新しいコメントが自動的に保存されます。新しいコメントが自動的に保存されます。

事前構成されたコメントを削除する

- 1 viewLinc デスクトップから[オプション] >  [システム構成] >  [コメント] を選択し、削除するコメントをハイライト表示します。
- 2 [オプション] >  [削除] をクリックします。

アラーム テンプレートで事前構成済みコメントを使用する

- 1 viewLinc デスクトップで **[オプション]** > **[システム構成]** > **[テンプレート]** > **[アラーム テンプレート]** を選び、**[事前構成済みコメント]** タブをクリックします。



- 2 **[コメント]** タブで、**[コメント]** ドロップダウンリストからコメントを選択します。事前構成済みコメントはコメントフィールドに表示され、必要に応じて変更できます。あるいは、**[コメント]** フィールドに独自のメッセージを入力します。
- 3 **[オプション]** > **[保存]** をクリックします。

電子メール テンプレートで事前構成済みコメントを使用する

- 1 **[オプション]** > **[システム構成]** > **[テンプレート]** > **[電子メール/SMSテンプレート]** から、**編集する電子メールテンプレートをダブルクリック** します。
- 2 カスタムメッセージ領域の電子メール本文フィールドに**[Comments]**変数があることを確認します。テンプレートに追加するには、**[オプション]** > **[マクロ]** > **[コメント]** を選択します。電子メールとSMS テンプレート」ページで 51。通信アラーム設定で選択した事前構成済みコメントは電子メールの送信時にメッセージに挿入されます。
- 3 **[保存]** をクリックします。

デバイスとホスト通信アラーム設定については、「デバイスとホストアラームの設定」ページで 103 を参照してください。



システム メンテナンス

場合によっては、viewLinc をオフラインにしたり、システムを再起動することがあります (これはデバイスのデータ追跡に影響しません)。viewLinc サービスを再起動するか、一時的に停止するように選択できます (FAQ およびトラブルシューティングを参照)。



これらのシステム変更はイベントログに記録されます。

Note: 管理者グループのメンバーだけがこのタスクを実行できます。

サーバーコンピューターで viewLinc を再起動する

- 1 viewLinc デスクトップから[オプション]>  [システム構成]>  [環境設定]を選択します。
- 2 [オプション]> [viewLincサービスの再起動] をクリックします。イベントメッセージが生成され、[電子メール通知設定] ウィンドウで指定された電子メールアドレスに従って電子メールが viewLinc 管理者に送信されます。

ホストコンピューターで viewLinc ロガーサービスを再起動する

- 1 viewLinc デスクトップから[オプション]>  [システム構成]>  [ロケーション マネージャー]を選択します。
- 2 [デバイス] ツリーでホストを選択します。
- 3 [デバイスプロパティ] パネルで、[ホスト詳細] タブを選択します。
- 4 [オプション]> [ホストサービスの再起動] をクリックします。システムメッセージによって、すべてのログインユーザーに対して viewLinc が再起動することが通知されます。

第 3 章

データの表示

viewLinc では、各データ収集ポイント(デバイス チャネル) がマッピングされ、ロケーションとして特定されます。これらのデータ収集ポイントは viewLinc ロケーション ウィンドウに表示されます。

複数のロケーション(オフィス、ラボ、倉庫)に複数のデバイスがある組織の場合、ゾーンおよびサブゾーンフォルダーを作成し、データの収集領域を容易に特定できます。

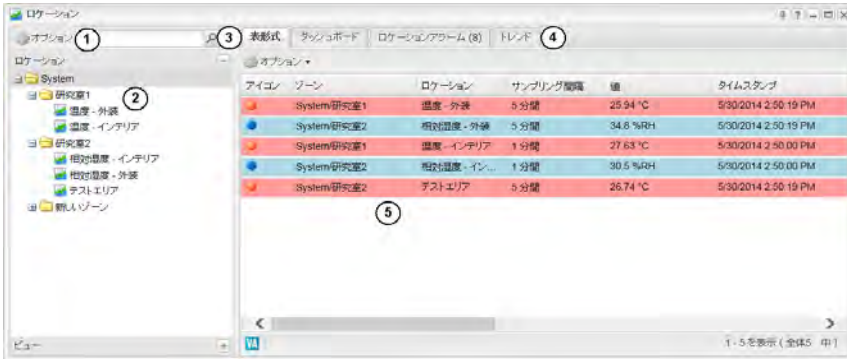
この章では、次のことを説明します。

- viewLinc Desktop の方向
- ロケーションとゾーンの管理
- ロケーション プロパティの編集
- ダッシュボードの作成
- ユーザー固有のビューの設定
- ロケーション ウィンドウの操作

viewLinc Desktop の方向

viewLinc アラームに最初にログインすると、ロケーションウィンドウが自動的に表示されます。すべてのユーザーがこのウィンドウを表示し、ウィンドウ要素とタブにアクセスできます。

左のロケーションペインで、ユーザーがロケーション、表示権限があるゾーンのリストが表示されます。このナビゲーションパネルは展開または折りたたむことができます。また、カスタマイズしてユーザーだけが特定の領域を表示することができます。「ユーザー固有のビューの設定」ページで **84** を参照。



項目	詳細
① オプション	コンテキスト依存メニュー。開いているタブとタブで選択されている項目によってメニューが変わります。ロケーションツリー/ナビゲーションパネルにはオプションメニューもあります。
② ロケーション	ナビゲーションパネル ツリービュー : <ul style="list-style-type: none"> 📁としてゾーンを表示 ロケーションを📁として表示します 小規模インストールの場合、ゾーンフォルダーが必要になることがあり、ロケーションのリストだけが表示されます。 ロケーションをアルファベット順に表示するには、[オプション]> [昇順/降順に並べ替え]を選択します。
③ 検索	ロケーション検索 テキストボックスに検索語を入力し、🔍をクリックします。

項目	詳細
④ タブ	<p>メインのviewLinc機能タブ。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 表形式: ゾーン/ロケーションからデータを表示および監視します。 • ダッシュボード: グラフィックインターフェイスを表示し、デバイスを示します 「ダッシュボード画像の追加」ページで 82を参照。 • ロケーションアラーム: アクティブなアラームイベントを表示します。 • トレンド: リアルタイムデータの視覚的グラフでロケーション履歴を組み合わせ、比較します ページ89の「トレンドの作成」を参照してください。
⑤ ロケーション詳細	<p>表形式タブにはロケーション詳細が表示されます。アラーム状態、構成、パス、現在のデータ読み取り値、最新のタイムスタンプ、しきい値情報が表示されます。</p>

列の操作

表形式、ロケーションアラーム、トレンドタブのほとんどの列は自己説明的ですが、viewLinc列を理解できるようにいくつかの列定義を紹介します。

すべての列オプションについては、**66**ページを参照してください。

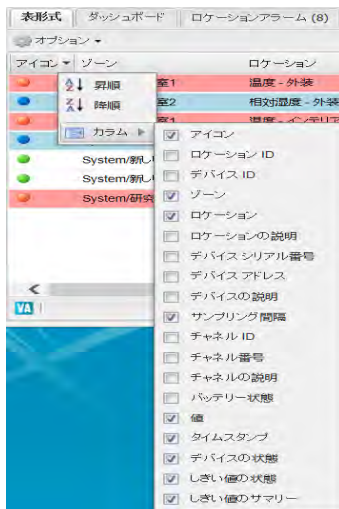
列	表示
アイコン	色アイコンはロケーションのアラーム状態に関連しています。「アラーム テンプレート」ページで 52 を参照してください。
タイムスタンプ	前回の読み取り時刻。
デバイスの状態	デバイスの現在の状態。デバイスが非アクティブの場合はエラーが表示されます。
しきい値状態	現在アクティブなアラームがない場合は OK が表示されます。しきい値アラーム状態が検出されたかどうかを示します。

列表示順を変更する

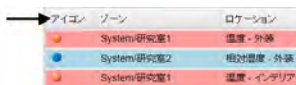
- 1 表形式、ロケーションアラーム、トレンドタブのロケーションウィンドウで、列見出しを右クリックします。トレンドタブ列はロケーション、グループ統計、スケールです。
- 2 表示されるメニューで、▼をクリックして昇順に並べ替えまたは降順に並べ替えを選択します。または、列ヘッダーをクリックし、列を使用してすべての行を並べ替えます。上下矢印は方向を示します。もう一度列ヘッダーをクリックし、反対の順序でリストを並べ替えます。

列を非表示にする

- 1 ロケーションウィンドウのタブで、マウスを列見出しに置き、黒の下矢印をクリックします。



- 2 列を選択し、表示列を選択するか、非表示列を選択解除します。たとえば、アラーム状態を表す色アイコンの列を表示するには、アイコンを選択します。見出しをクリックし、昇順または降順で並べ替えます。



- 3 リストの外をクリックするか、**[Esc]**を押してオプションリストを非表示にします。

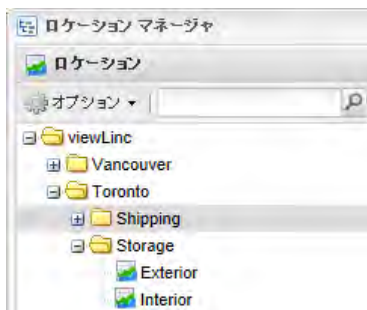
ロケーションとゾーンの管理

一般的に、各 Vaisala デバイスは特定の物理ロケーションを監視するように設定されます。ただし、デバイス構成によっては、1台のデバイスで複数の物理ロケーションを監視できます。

たとえば、デバイスに複数のチャネル (デバイスには最大5つのアクティブなデータ収集ポイントがあります) がある場合、ロケーションおよびゾーンフォルダーを使用すると、viewLinc デスクトップでのこの情報の表示方法を制御できます。

Note: 300 Series 変換器出力数はロケーションとして表示されません。

たとえば、2つの温度チャネルを持つデバイスがある場合、ロケーションナビゲーション ツリーでこれらのデータポイントを次のように表示できます。



ゾーンのロケーションを特定すると、次のことも可能です。

- データロケーションを監視するために使用されるロガーに関係なく、レポートが特定のゾーンで一貫していることを保証します。
- 1つのゾーンから別のゾーンに簡単にデバイスを切り替えます (校正のためにロガーを送る場合など)。

ロケーションの整理

viewLinc画面を整理するには、データに関連するゾーンに整理します。ロケーションの管理権限があるユーザーはロケーションマネージャーウィンドウにアクセスできます。ユーザーはロケーションとゾーンだけを整理できます
「アクセスコントロール許可」ページで 40を参照。

ロケーションマネージャーの特定領域を使用し、データを整理および表示します。

- **ロケーション** 左パネル : ロケーションを追加または削除し、チャンネルをリンクまたはリンク解除します。ロケーション詳細がロケーションプロパティウィンドウに表示されます。
- **デバイス** 中央パネル : デバイスを表示して構成します。
- **ロケーションプロパティ** 右上パネル :
 - **プロパティ**: 選択したロケーションの拡張情報を表示します。ロケーションプロパティを編集できます。
 - **ロケーションデバイス**: デバイスチャンネルを一覧表示します。オプションメニューで、リンク履歴を選択します。
 - **アクセスコントロール**: 現在割り当てられたユーザーとグループのアクセス許可を表示できます 「ロケーションとゾーンへのアクセスの割り当て」ページで 77を参照。この機能はユーザーおよびグループ権限を補完します。
 - **しきい値**: しきい値を表示および追加できます。「ロケーションしきい値の設定」ページで 78
 - **ダッシュボード**: 物理ロケーションの画像をロードできます。ロケーションのデータ読み取り値は、画像までドラッグできます。「ダッシュボード画像の追加」ページで 82を参照してください。
- **デバイスプロパティ** (右下パネル) :
 - **デバイス詳細**: 特定のチャンネルプロパティを表示して修正します。
 - **ホスト詳細**: オプションメニューを使用してホストサービスを再起動します。ネットワーク通信もテストできます ICMP Pingホスト。または、vNetデバイスviewLinc Aware サービス。

ゾーンの作成

デフォルトでは、システムというゾーン フォルダーが自動的に作成されます。これは、いつでも会社名などに変更できます

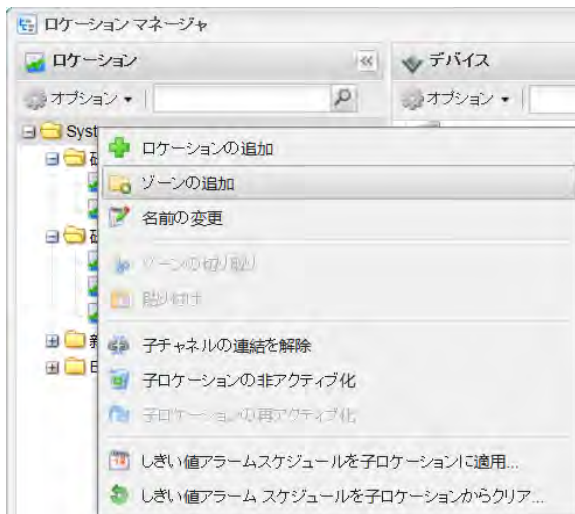
追加のゾーンは手動で作成されます。右クリックオプションの【ゾーンの追加】を使用すると簡単にロケーションをゾーンに追加できます。あるいは、チャネルまたはデバイスを新しいフォルダーにドラッグします。


Note: デバイスが中央の【デバイス】パネルに表示されない場合は、デバイスが正しく接続されていない可能性があります。Vaisala Veriteq で、デバイスの検出を試してください。「デバイスの検出」ページで 34 を参照するか、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

デバイスの接続とチャネルの有効化/無効化の詳細については、特定のデバイスのユーザー ガイドを参照してください。

ゾーンを追加する

- 1 viewLinc デスクトップから【オプション】> ⚙️【システム構成】> 📁【ロケーション マネージャー】を選択します。システム フォルダーを右クリックし、📁【ゾーンの追加】をクリックします。



- 2 新しいゾーン フォルダーが表示されたら、ゾーン名を入力し、**[Enter]**を押します。サブゾーンを作成するには、親ゾーンを選択し、作成する各サブゾーンに対して手順 1 と 2 を行います。
- 3 **[オプション]>**  **[保存]** を選択します。





ゾーンへのロケーションの追加

viewLinc は割り当てられたゾーンに関係なくデバイスを認識するため、データ履歴を失わずに、デバイスとチャネルを1つのゾーンから別のゾーンに移動できます。

たとえば、監視対象の冷蔵庫ユニットを別の物理ロケーションに移動する場合、viewLinc ではデバイスロケーションデータポイントを別の冷蔵ゾーンに移動します。

Note: チャネルは一度に1つのロケーションにだけリンクできます。

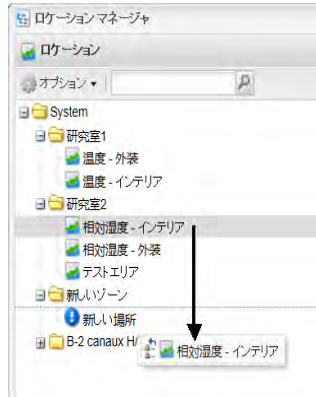
ロケーションをゾーンに追加する




- 1 viewLinc デスクトップから**[オプション]>**  **[システム構成]>**  **[ロケーション マネージャー]** を選択します。
- 2 **[ロケーション]** ナビゲーションパネルで、ゾーンまたはデフォルトゾーンのシステムを選択し、**[ロケーションの追加]** を右クリックして選択します。
- 3 **[新しいロケーション]** テキストボックスで、ロケーション名を入力し、**[Enter]** を押すかボックスの外をクリックします。ロケーションにデータソースが関連付けられていない場合、青色の感嘆符アイコンがロケーションタイトル  の横に表示されます。
- 4 **[ロケーション]** ナビゲーションパネルで、**[オプション]>**  **[保存]** を選択します。

チャネルをこの新しいロケーションにリンクするには、「ロケーション チャネルのリンク」ページで 71 を参照してください。


ロケーションを移動する

- 1 ロケーションデータポイントのゾーンが作成されていることを確認します（「ゾーンの作成」ページで 69 を参照）。
- 2 ドラッグアンドドロップ操作でロケーションを移動するには、移動するロケーションを選択し、ロケーションを新しいゾーンまでドラッグします。





- 3 ロケーションを移動する
 - a 移動するロケーションを右クリックし、 [ロケーションの切り取り] をクリックします。
 - b ロケーションの移動先ゾーンを右クリックし、 [貼り付け] をクリックします。
- 4 [オプション] >  [保存] をクリックします。



単一のデバイスからゾーンとロケーションを作成する

- 1 デバイスのゾーンが作成されていることを確認します (「ゾーンの作成」ページで 69 を参照)。
- 2 デバイストリーを参照し、目的のデバイスを選択して、デバイスをゾーンまでドラッグします。
- 3 プロンプトで、デバイス名に基づいてサブゾーンを自動的に作成するか、すべてのデバイスチャネルをゾーンに貼り付けるかを選択します。
- 4 [オプション] >  [保存] をクリックします。

ロケーション チャネルのリンク

リンク解除されたチャネルを新しいロケーションにリンクする

- 1 viewLinc デスクトップから、[オプション] >  [システム構成] >  [ロケーションマネージャ] を選択し、デバイスチャネルにリンクするロケーションを作成したことを確認します。

- 2 デバイスウィンドウに移動し、チャンネルを見つけます。デバイスがリストに表示されない場合、[オプション] フィルターを確認し、すべてのデバイスとチャンネルが表示されることを確認します。デバイスが表示されない場合は、システム管理者に問い合わせてください。
- 3 チャンネル  チャンネルアイコンが表示 を、デバイスパネルからロケーションツリーのリンク解除されたロケーション  にドロップします。
チャンネルとドラッグ先のロケーションがリンクします。




ロケーション チャンネルのリンク解除と再リンク

チャンネルを別のロケーションにリンクするか、チャンネルを特定のロケーションに関連付ける必要がない場合は、ロケーションマネージャーを使用してリンクを解除できます。

チャンネルは個別にリンク解除するか、ゾーン内のすべてのチャンネルをリンク解除できます。このオプションを使用すると、特定のゾーンを削除するときの時間を短縮できます (監視領域の監視が必要なくなることがあります)。

組織によっては、ロケーションとゾーンのリストが長くなり、最初のステップはチャンネルがリンクされているロケーションを特定することです。

チャンネルのリンクされたロケーションを検索する

- 1 viewLinc デスクトップから、[オプション] >  [システム構成] >  [ロケーション マネージャー] を選択します。
- 2 [デバイス] ツリーで、リンクされたチャンネルに移動します。グラフアイコン  がチェックされています。
- 3 [リンクされたロケーションの検索] を右クリックして選択します。あるいは、ロケーションを選択し、[リンクされたロケーションの検索] を右クリックして選択します。見つかったロケーションは、ロケーションツリーで黄色のバーでハイライト表示されます。

Note: 黄色のハイライトバーがない場合、ロケーションがすでに選択されている (灰色のハイライトバー) か、リンクされたロケーションを表示するために必要なアクセスコントロール許可がない可能性があります。

チャネルのリンクを解除する

- 1 ロケーションマネージャーのロケーションツリーに移動し、リンク解除するチャネルのロケーションを見つけます。
- 2 **[チャネルのリンクを解除]**を右クリックして選択します。
- 3 ロケーションのリンクを解除することを確認するプロンプトが表示されます。**[はい]**をクリックします。チャネルを別のロケーションとリンクできます。
- 4 **[ロケーション]** パネルで、**[オプション]>** **[保存]**を選択します。

チャネルを再リンクする

- 1 使用可能なリンク解除されたチャネルを表示するには、デバイスパネルのロケーションマネージャーで、**[オプション]>** **[非連結なもののみを表示]**を選択します。
- 2 使用可能なチャネルを選択し、リンク解除されたロケーション(+)までドラッグします。
- 3 **[ロケーション]** パネルで、**[オプション]>** **[保存]**を選択します。

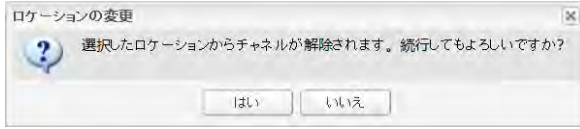
ゾーンのすべての子ロケーションのリンクを解除する

Note: ゾーンを削除する場合はこの手順が必要です (75ページのを参照)。

- 1 ロケーションマネージャーのロケーションツリーに移動し、リンク解除するロケーションのゾーンを見つけます。
- 2 **[子チャネルのリンクを解除]**を右クリックして選択します。



- 3 プロンプトが表示されます。**[はい]** をクリックして変更確認します。



- 4 [ロケーション] パネルで、[オプション]> [保存] を選択します。

チャンネルのリンク履歴を表示する

- 1 [ロケーションマネージャ]で、[ロケーション]ツリーを使用して表示するロケーションを選択します。
- 2 [ロケーションプロパティ] パネルの [ロケーションデバイス] タブをクリックします。
- 3 [オプション]> [リンク履歴を含める] を選択します。

開始および終了列にはリンク履歴が表示されます。開始値がブランク (0) の場合、データの監視が開始されたため、このチャンネルは現在のロケーションにリンクされたままです。

ゾーンとロケーションの名前変更

ゾーンまたはロケーションの名前を変更するには

- 1 viewLinc デスクトップから、[オプション]> [システム構成]> [ロケーションマネージャ]を選択し、名前を変更するロケーションをハイライトします。
- 2 ゾーンまたはロケーションを右クリックし、 名前の変更をクリックします。
- 3 既存の名前がハイライトされている状態で、新しい名前を入力します。
- 4 [Enter] を押すか、外部ダイアログボックスの [オプション]> [保存] をクリックします。

Note: ゾーン名を変更すると、ゾーン名だけが編集されます。割り当てられたロケーションは変更されません。ロケーションとゾーンをリンクまたはリンク解除する場合、「ゾーンへのロケーションの追加」ページで 70 を参照してください。

ゾーンの削除



ゾーンを削除するには、まず、すべての子ゾーンまたはロケーションを別のゾーンに移動します (マウスを使用して、ゾーンまたはロケーションを選択し、新しいゾーンにドラッグします)。

Note: ロケーションを使用してデータを収集している場合、ロケーションを削除できません。ビューから非表示にする場合は、非アクティブにできます。



ゾーンを削除する


- 1 [ロケーション] ツリーの [ロケーション マネージャー] で、削除するゾーンを選択します。

Note: システム ゾーンは削除できません。




- 2 右クリックして  [ゾーンを完全に削除] を選択します。このオプションは、すべての子ロケーションが移動された場合にだけ使用できます。
- 3 [オプション] >  [保存] を選択します。

ロケーションを非アクティブ化する

- 1 [ロケーション] ツリーの [ロケーション マネージャー] で、非アクティブにするロケーションを選択します。
- 2  [ロケーションの非アクティブ化] を右クリックして選択します。
- 3 [オプション] >  [保存] を選択します。

Note: すべての非アクティブなロケーションを表示するには、[オプション] |  [非アクティブ化された項目を表示] を選択します。

ロケーションを再アクティブ化する


- 1 ロケーションマネージャーのロケーションツリーで、[オプション] >  [非アクティブ化された項目を表示] を選択します。
- 2 ロケーションを選択して右クリックし、 [ロケーションの再アクティブ化] を選択します。
- 3 [オプション] >  [保存] を選択します。

ロケーションプロパティの編集

[ロケーション マネージャー] ウィンドウで、[プロパティ] タブを使用して、データの測定方法やロケーションがしきい値アラームスケジュールを使用するかどうかなどのロケーション情報を確認します。


ロケーションプロパティを変更するには、ロケーションの管理権限が必要で、ロケーションのフルコントロールアクセス許可が割り当てられていなければなりません。

ロケーションプロパティを修正する

- 1 [ロケーションマネージャー] ウィンドウの[ロケーション] ツリーで、編集するロケーションを選択します。
- 2  [編集] を右クリックして選択します。[ロケーションの編集] ウィンドウが表示されます。
- 3 viewLinc で表示する名前、説明、単位、および小数点桁数を入力します。



Note: 名前、説明、単位、および小数点桁数は、viewLinc でロケーションが表示される方法を制御します。デバイスが読み取れるよりも小数点桁数を小さくした場合、viewLinc はデバイスから受信するデータを自動的に最も近い小数点に四捨五入します。

- 4 しきい値アラームスケジュールをボックスリストから選択し、[OK] をクリックします。[スケジュールの設定] ページで 47 を参照してください。
- 5 [ロケーション] ナビゲーションパネルで、[オプション] >  [保存] を選択します。



ロケーションとゾーンへのアクセスの割り当て

ユーザーとグループは管理者によって設定されます。「viewLinc へのアクセスコントロール」ページで 38 を参照してください。他のユーザーまたはグループに、特定のロケーションまたはゾーンへのアクセスを許可するには、ロケーションマネージャー権限とそのロケーションのフルコントロール権限が必要です。

ロケーションへのアクセスを許可するときには、次のことを考慮します。


- ロケーションとユーザーよりも、ゾーンとグループへのアクセスコントロール管理の方が容易です。
- システムルートフォルダー(上から下)から、アクセスコントロールを作成します。
- 現在割り当てられたアクセスコントロール許可を確認するには、アクセスコントロール インспекタ「アクセスコントロール インспекタ」ページで 41。

ゾーンまたはロケーションへのアクセスを許可する

- 1 viewLinc デスクトップから[オプション] >  [システム構成] >  [ロケーションマネージャー]を選択します。
- 2 ロケーションツリーに移動し、ゾーンまたはロケーションを選択します。
- 3 [ロケーションプロパティ]パネルで、[アクセスコントロール]タブをクリックし、ゾーンまたはロケーションの現在の権限を確認します。



親ゾーンから継承されたアクセス権を表示するには、[アクセスコントロール]タブに移動し、[オプション] > [継承の表示]をクリックします。リストが更新され、継承されたアクセス権と既存のゾーンとロケーションのアクセス権が表示されます。

- 4 [アクセスコントロール]タブで、[オプション] >  [追加]を選択します。
- 5 [アクセスコントロールの作成]ウィンドウで、次の項目を指定します。
 - **タイプ:**ユーザーまたはグループを選択します。
 - **名前:**ユーザーまたはグループ名を選択します。

- **アクセス許可:** リストのオプションから選択します。アクセス許可の説明については、「ロケーションとゾーンへのアクセスの割り当て」ページで 77 を参照してください。
- **継承可能:** ユーザーまたはグループがゾーン/ロケーションのすべてのサブフォルダーを表示するようにする場合は、このオプションを選択します。

Note: 個別のサブフォルダーにアクセスを付与できます。

6 [保存] をクリックします。



新しいアクセス許可はアクセスコントロールリスト(名前列)に表示され、ロケーションへのアクセスがそれに応じて割り当てられます。他のゾーンへの現在のアクセス許可を確認するには、ロケーションツリーでゾーンまたはロケーションを選択すると、アクセスコントロールリストが自動的に更新されます。

ロケーションしきい値の設定


各ロケーションの1つ以上のしきい値と、しきい値に達した場合にアクティブ化するアラーム設定を構成できます。

しきい値設定はテンプレートの使用に関係なく適用できますが、しきい値テンプレートを使用すると、同様のパラメーターを容易に複数のロケーションに適用できます。単一または複数のしきい値テンプレートを作成するには、「しきい値テンプレート」ページで 57。

特定のロケーションのしきい値を設定する

- 1 viewLinc デスクトップから、**[オプション]** >  **[システム構成]** >  **[ロケーションマネージャー]** を選択し、しきい値アラームを設定するロケーションを選択します。

Note: 複数のロケーションを一度に選択するには、**[Ctrl]** キーを押しながら各ロケーションを選択します。リストのロケーションのグループを選択するには、**[Shift]** キーを押しながら、最初と最後のロケーションを選択します。[ロケーションプロパティ] パネルが自動的に更新されます。

- 2 **[しきい値]** タブを選択し、**[オプション]** >  **[Xしきい値の作成]** をクリックします。XはC、RH、mAなどのこのロケーションまたはロケーショングループで測定された単位値です。

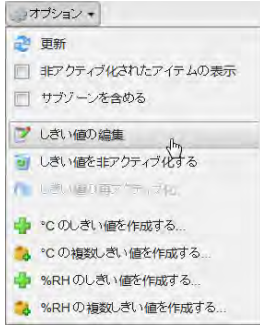


- 3 **【しきい値の編集】**画面で、しきい値テンプレート列のテンプレートを選択（選択ボックスをオン）するか、一般パラメーター、通知、およびコメントタブの特定のアラーム設定を作成し、「しきい値テンプレート」ページで 57 に従います。
- 4 **【オプション】** > **【保存】** をクリックするか、HMT140 Wi-Fi ロガーを編集している場合は、**【オプション】** > **【保存を選択してデバイスアラームを更新します】**。

しきい値を編集する

ロケーションしきい値またはしきい値テンプレートが修正されると、すべての関連付けられたアクティブなアラームが受信確認され、自動的に終了します。次のデータスキャンが完了すると、viewLinc では、新しいしきい値設定が適用されます。

- 1 viewLinc デスクトップから**【オプション】** > **【システム構成】** > **【ロケーションマネージャー】**を選択し、ロケーションを選択します。
- 2 **【ロケーションプロパティ】** パネルの**【しきい値】** タブをクリックします。



- 3 **【オプション】 > [しきい値の編集]** をクリックします。[しきい値の編集] ウィンドウが閉じます。
- 4 必要に応じてしきい値設定を編集します。
- 5 **【オプション】 > [保存]** をクリックするか、HMT140 Wi-Fi ロガーを編集している場合は、**【オプション】 > [保存を選択してデバイスを更新します]**。

しきい値アラームの無効化

しきい値設定を削除せずに、一時的にアラームを無効にできます。ある物理ロケーションから別のロケーションにデバイスを移動する場合など。

しきい値アラームを一時的に無効にする

- 1 **【オプション】 > [システム構成] > [ロケーションマネージャー]** で、しきい値を無効にするロケーションの行をハイライト表示します。
- 2 **【ロケーションプロパティ】** パネルの **[しきい値]** タブをクリックし、**【オプション】 > [しきい値の編集]** を選択します。
- 3 [しきい値の編集] 画面で、しきい値アラームを有効にするをオフにします。
- 4 **【保存】** をクリックします。





Note: ホストまたはデバイスの全アラームを最高 24 時間一時停止するには「アラームの一時停止」ページで 121 を参照してください。

しきい値アラームの非アクティブ化と再アクティブ化






デバイスのしきい値が必要がない場合、非アクティブ化できます。非アクティブ化されたしきい値は非表示で、いつでも再アクティブ化できます。

Note: ホストまたはデバイスの全アラームを最高 24 時間一時停止するには 「アラームの一時停止」 ページで 121 を参照してください。

しきい値を非アクティブ化する

- 1 【オプション】>  【システム構成】>  【ロケーション マネージャー】 をクリックします。
- 2 【ロケーション】 パネルで、ロケーションを選択します。
- 3 【ロケーションプロパティ】 パネルの 【しきい値】 タブで、非アクティブ化するしきい値をハイライト表示します。
- 4 【オプション】>  【しきい値の非アクティブ化】 をクリックします。
- 5 【はい】 をクリックして変更を保存します (【オプション】>  【保存】)。

しきい値を再アクティブ化する

- 1 【オプション】>  【システム構成】>  【ロケーション マネージャー】 をクリックします。
- 2 【ロケーション】 パネルで、ロケーションを選択します。
- 3 【ロケーションプロパティ】 パネルの 【しきい値】 タブで、【オプション】 をクリックして、 【非アクティブ化された項目の表示】 を選択します。
- 4 表示されるしきい値のリストから、再アクティブ化するしきい値をハイライトし、 【しきい値の再アクティブ化】 を選択します。
- 5 【オプション】>  【保存】 をクリックします。

ダッシュボードの作成

ダッシュボードには、さまざまな時点における現在の読み取り値が視覚的に表示されます。任意のゾーンまたはビューのカスタム画像をアップロードし、ダッシュボード画像にロケーションを配置します (【ロケーション】 ウィンドウ、【ダッシュボード】 タブ)。

例えば、監視対象の建物のフロアプランまたはマップをアップロードし、ロケーションツリーのリストにあるデータロケーションをマップ上の対応する実際のロケーション




ンまでドラッグします。これらのデータポイントは最新の読み取り値を示し、簡単にポップアップトレンドを表示するように選択できます。ページ89の「トレンドの作成」を参照してください。

ダッシュボードのロケーションデータを読み取る際の一般的なヒントは次のとおりです。

- ゾーンはフォルダーアイコンとして表示され、ダブルクリックするとロケーションを操作できます。
- データが関連付けられたロケーションは自動的にこのデータをダッシュボード(リアルタイム)上に表示し、更新します。
- ダッシュボード上の項目を再配置するには、ダッシュボード画像周辺でドラッグおよびドロップ操作を行います。この操作によって読み取り値は変更されません。デスクトップ上でのロケーションの表示方法のみが変わります。
- データポイントをダブルクリックすると、ポップアップトレンドが表示されます。あるいは、ロケーションを右クリックし、**【トレンドのポップアップ】**を選択できます。
- ロケーションプロパティを表示するには、**プロパティ**を右クリックして選択します。
- ダッシュボード画像を追加するには、ロケーションの管理権限が必要です。

ダッシュボード画像の追加

新しいダッシュボード画像を作成する



- 1 viewLinc デスクトップから**【オプション】**>  **【システム構成】**>  **【ロケーション マネージャー】**を選択します。
- 2 ロケーション ツリーからロケーションを選択します。
- 3 **【ロケーションプロパティ】** パネルの**【ダッシュボード】** タブをクリックします。
- 4 **【オプション】**>  **【画像のアップロード】**をクリックします。
- 5 ファイルの場所を入力するか、**参照** ボタンを使用して使用する画像に移動し、**OK**をクリックします。

Note: オプションボタンが赤色になり、現在のダッシュボードが編集集中であることを示します。画像のサイズを調整する必要がある

場合は、**[オプション]** > **[画像のサイズを変更]**を選択します。灰色の枠線が画像の周囲に表示され、ウィンドウでサイズを変更できます。

ゾーンまたはロケーションデータ項目の追加

ゾーンまたはロケーションをダッシュボードに追加する

- 1 viewLinc デスクトップから**[オプション]** >  **[システム構成]** >  **[ロケーションマネージャー]**を選択します。
- 2 ロケーション ツリーからロケーションを選択します。
- 3 **[ロケーションプロパティ]** パネルの **[ダッシュボード]** タブをクリックします。
- 4 ダッシュボード画像に追加するロケーションまたはゾーンを選択し、ロケーションツリーから画像にドラッグします。



Note: 編集されるゾーンに含まれるダッシュボード上あり、現在のダッシュボードにはないロケーションだけを配置できます。

ロケーションの現在の読み取り値が画像上に表示されます。

ダッシュボード項目の外観の変更

さまざまな方法で、ダッシュボードにデータポイントを表示できます。数値およびゾーン項目環境設定を選択し、特定の項目の上書きデフォルト環境設定を作成し、画面上にタイル表示で項目を整列できます (ユーザーデスクトップの並べ替えを容易にしたり、POSディスプレイの機能が向上します)。

ダッシュボードデータポイントの外観を変更する


- 1 viewLinc デスクトップから**[オプション]** >  **[システム構成]** >  **[ロケーションマネージャー]**を選択します。
- 2 ロケーション ツリーからロケーションを選択します。
- 3 **[ロケーションプロパティ]** パネルの **[ダッシュボード]** タブをクリックします。
- 4 **[オプション]** > **[ダッシュボード環境設定]**をクリックし、数値項目、ゾーン項目 (フォントサイズのみ) または**タイル表示**を選択します。

最大4列までロケーションデータを表示するように選択できます。ロケーション数が多くなると、必要な列数が増えます。各オプションをテストし、最も効果的にニーズに合う表示を判断します。

Note: POSディスプレイを回転するには、単一系列のリストが最も効果的です。


- 5 **【オプション】** >  **【保存】** をクリックします。

ダッシュボードデータポイントを削除する

- 1 ダッシュボードからロケーションデータを削除するには、目的の項目をクリックして選択します。
- 2 **【オプション】**メニューで、**【削除】**をクリックするか、右クリックしてニューから**【削除】**を選択します。
- 3 **【はい】**をクリックします。
- 4 **【オプション】** >  **【保存】** をクリックします。

ダッシュボード画像とすべてのデータポイントを消去する

IMPORTANT: 消去操作は元に戻せません

- 1 現在のダッシュボードを消去するには、**【オプション】** >  **【ダッシュボードを消去】** を選択します。
- 2 確認メッセージで、**【はい】**をクリックします。

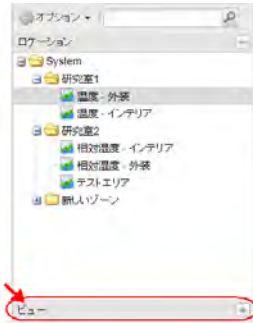
ユーザー固有のビューの設定

ロケーション画面には、ユーザー固有のビューが表示され、管理者以外のユーザーが自分の業務に関係のあるロケーションだけを簡単に確認できます。ビューを作成するには、ビューの管理権限が必要です。

たとえば、デバイスがあるゾーンに関係なく、ユーザーが表示できるすべての湿度またはすべての温度ロケーションのビューを作成できます。新しいビューが保存されると、管理者がユーザーまたはグループに対してビューへのアクセスを割り当てます。

リモートディスプレイ端末を使用する予定がある場合、表示される内容は、ログインユーザーに割り当てられたビューと、ユーザーがアクセスできるロケーションによって定義されます。リモートディスプレイの設定の詳細については、「リモート表示の使用」ページで **149** を参照してください。

ビューが設定されたら、ユーザーまたはグループはロケーションウィンドウでビューにアクセスできます。このためには、ロケーションツリーパネルの下にある濃い灰色の**バービュー**をクリックします。

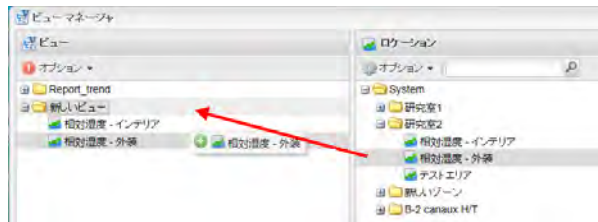


新しいビューの作成

[ビューマネージャ]ウィンドウにアクセスするには、ビューの管理権限が必要です。



ビューを作成する

- 1 [オプション] > [システム構成] > [ビュー マネージャ] をクリックします。
- 2 [ビュー] パネルで、[オプション] > [新しいビュー] をクリックします。
- 3 ビューの名前を入力します。
- 4 ビューを右クリックし、ゾーンを追加するか名前を変更します。
- 5 中央のパネルのロケーションツリーで、ロケーションまたはゾーンを選択 (ツリーを展開する必要があります) し、ビューまでドラッグします。あるいは、ロケーションまたはゾーンを右クリックし、コピー&貼り付けを選択します。ロケーションまたはゾーンをドラッグすると、すべての子ロケーションがビューに含まれます。



- 6 [オプション] > [保存] をクリックします。

ビューにアクセスできるユーザーを指定する

- 1 **【ビューマネージャ】** ウィンドウの**【ビュープロパティ】** パネルで、**【アクセスコントロール】** タブを選択します。
- 2 **【アクセスコントロール】** タブでビューを選択し、**【オプション】** >  **【追加】** を選択します。**【アクセスコントロールの作成】** ウィンドウが表示されます。
- 3 アクセスコントロールタイプ、ユーザー/グループ、ユーザー/グループの名前を指定し、付与するアクセス権を選択します。
 - **非表示:** 例外ではこのアクセス許可を使用します。
 - **表示:** ユーザーまたはグループはロケーションウィンドウでこのロケーションが表示されます。
 - **フルコントロール:** ユーザーまたはグループは、**【ビューマネージャ】** ウィンドウを使用してビューを修正できます。
- 4  **【保存】** をクリックします。新しいアクセス許可は**【アクセスコントロール】** タブに表示されます。デフォルトでは、選択すると、ビューへのアクセスに**【フルアクセス許可】** が付与されます。

Note: このビューを同じグループではない複数のユーザーと共有するには、新しいグループを作成して特定のユーザーをグループに割り当てるか、各ユーザーに対して手順1~4を実行します。

ロケーション ウィンドウの操作

すべての **viewLinc** ユーザーはロケーションウィンドウにアクセスできます。ただし、ユーザーが表示できるロケーションは、ユーザーまたはグループが表示できるロケーションによって異なることがあります。アクセス権は **viewLinc** 管理者によって割り当てられます。**【viewLinc へのアクセス コントロール】** ページで **38** を参照してください。

【viewLinc Desktop の方向】 ページで **63** のとおり、ロケーションウィンドウにはナビゲーションパネルと4つのタブ、さまざまなオプション、コントロールボタンがあり、データのカスタマイズ、管理、表示ができます。

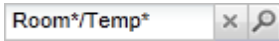
ゾーンとロケーションの検索

一部のユーザーの場合、表示されるロケーションのリストが長くなり、特定のロケーションを検索するのに時間がかかることがあります。ナビゲーションツ

リーのツールバー検索フィールドを使用すると、フィルターを使用して検索を絞り込めます。例:

- **Room**]で始まるすべてのゾーンを検索するには、次の構文を使用します。**Room***。
- **Room**]で始まるすべてのゾーンと**Temp**]で始まるすべてのロケーションを含めるには、次のような検索文字列を入力します。**Room*/Temp***。

拡大鏡アイコンをクリックし、フィルターを有効にします。[x]アイコンがアイコンの横に表示され、フィルターがアクティブであることを示します。




フィルターがアクティブな場合、検索条件と一致するゾーンとロケーションだけが表示されます。

リンクされたロケーションの検索

ゾーンにリンクされたロケーションがわからない場合は、viewLinc では対応するロケーションを簡単に表示できます。

特定のゾーンにリンクしたロケーションを検索する

- 1 **[ロケーション]**ウィンドウの **[テーブルビュー]**タブで、ロケーションを選択します。
- 2  **ロケーションの検索**を右クリックして選択するか、右クリックメニューオプションを使用します。
- 3 黄色のハイライトバーがロケーションツリーに表示され、対応するロケーションが表示されます。

Note: 黄色のハイライトが表示されない場合、リンクされたロケーションを既に選択している可能性があります。また、黄色のハイライトが灰色の選択バーの後に隠れているか、ロケーションを表示する権限がない可能性があります。

ロケーションダッシュボードの使用

ダッシュボードでは、物理領域のカスタム画像を表示し、ゾーンとロケーションデータの読み取り値が監視される場所を特定できます。これによって、監視対象サイトのさまざまなポイントで、現在の読み取り値を簡単にわかりやすく表示できます。



Note: また、ダッシュボード領域を使用して、背景画像なしでロケーションデータを表示できます。

ダッシュボード画像とデータポイントを設定するには、「ダッシュボードの作成」ページで 81 を参照してください。

アラームの監視

現在のロケーションまたはゾーン/サブゾーンのすべてのアクティブなアラームは、ロケーションアラームタブに表示されます。次の方法のいずれかでアラームに対応しなければならない場合があります。

- アラームの受信確認が必要な場合、アラームはこのウィンドウに表示されます。
- アラームの受信確認が必要でない場合、アラームはオンの場合にだけこのウィンドウに表示されます。
- ユーザーは、ロケーションのアラームの受信確認許可がある場合に、しきい値アラームを受信確認できます。
- デバイスアラームは、ユーザーが1つ以上のロケーションのアラームの受信確認許可がある場合に受信確認できます。

アラームの受信確認またはアラームウィンドウのアラームを表示する手順については、「アラームの表示と受信確認」ページで 116 を参照してください。

トレンドの作成

トレンドタブでは、複数ロケーションのライブデータをトレンドグラフとして比較し、トレンドデータをビューまたはロケーション履歴レポートとして保存できます。

- 他のユーザーまたはグループとビューを共有するには、ビューの管理権限が必要です。
- 単一ロケーションのデータトレンドをグラフで表示すると、ポップアップトレンドウィンドウでロケーションを簡単に見つけることができます。

トレンドタブ機能

トレンドタブオプションメニューを使用する

- **更新:** サーバーからデータをリロードします。
- **クリア:** すべてのチャンネルをトレンドからクリアします。
- **ビューとして保存:** 現在のトレンドをビューとして保存するウィンドウを表示します。注記: この機能にはビューの管理権限が必要です。
- **レポートとして保存:** 現在のトレンドを単一ページロケーション履歴レポートとして保存するウィンドウを表示します。
- **リアルタイム サンプルを含める:** 選択すると、このオプションには記録されたデータとリアルタイムサンプルが含まれます。
- **データマーカーを表示する:** 選択すると、このオプションは小さいマーカーをトレンドグラフに追加し、読み取りの正確な場所を示します。

Note: 必要な機能を実行する権限がない場合は、管理者に問い合わせてください。

新しいトレンドを作成する

- 1 **【ロケーション】** ウィンドウで、ロケーションツリーを操作し、トレンドとしてグラフ化するロケーションを検索します。
- 2 1つ以上のロケーションをロケーションツリーから右側のグラフパネルにドラッグします。



- 3 ビューの管理権限が割り当てられている場合、トレンドをビューとして保存できます。**[オプション] > [ビューとして保存]** を選択し、名前 説明 を入力し、**[保存]** をクリックします。ビューはビュー領域から使用でき、いつでもアクセスできます。

その他のロケーションをグラフにドラッグし、もう一度保存すると、トレンドをいつでも作成して修正し続けることができます。

Note: トレンドごとに最大16ロケーション 行 を追加できます。


トレンドビューの操作

[トレンド] タブにはナビゲーションコントロールがあり、履歴データトレンドを操作し、必要に応じてビューを更新できます。

- **前矢印と後矢印 (↔):** クリックすると開始時刻を調整します。
- **二重前矢印と後矢印 :** クリックして開始時刻を大きく調整します。
- **ライブボタン (▶):** クリックして、指定された**期間**値に従って、最新のデータを取得します。
- **自動更新オン:** クリックして自動更新オプションをオン/オフに切り替えます。オフにして、定期更新を停止するか、オンにして、**▶**ライブボタンと同じ効果を得ることができます。

Note: トレンド内の操作またはズームによって、[自動更新オン] オプションが自動的にオフになります。これは、操作するときに履歴データを表示しているためです。


トレンドビューの内容を変更する

- 1 **[ロケーション]** ウィンドウで、トレンドグラフの下の**[ロケーション]** タブを選択します。
- 2 表示するロケーションを選択し、**[選択]** 列で、表示するロケーションをオン/オフにします。
- 3 しきい値を含めるには、**しきい値** ライン列で、表示するしきい値をオン/オフにします。パネルには各グラフラインの統計情報が表示されます。
- 4 **ライブボタン**  をクリックするか、**[オプション]** > **[更新]** をクリックして、グラフを更新して選択したデータだけを表示します。

トレンド最大/最小統計を表示する

- 1 **[ロケーション]** ウィンドウで、トレンドグラフの下の**[ロケーション]** タブを選択します。
- 2 **[グループ統計]** タブをクリックし、すべてのロケーションの最大/最小範囲を表示します。

スケール値を調整する

- 1 **[ロケーション]** ウィンドウで、トレンドグラフの下の**[ロケーション]** タブを選択します。
- 2 **[スケール]** タブをクリックします。デフォルトの低/高範囲が自動に設定されます。新しい値を入力するには、自動テキストフィールドをクリックし、新しい値を入力します。
- 3 **ライブボタン**  をクリックするか、**[オプション]** > **[更新]** をクリックして、グラフを更新して新しい値を表示します。

表示する特定の期間を選択する

- 1 トレンドグラフを開き、任意の場所をクリックし、カーソルを右にドラッグして、拡大する期間をハイライトして離します。拡大された領域は次のライブ更新まで表示されます。
- 2 全画面に戻るには、グラフの任意の場所をダブルクリックします または縮小するには、領域を選択し、カーソルを左にドラッグして離します。

ビューをレポートとして保存する

- **[オプション]>[レポートとして保存]**をクリックし、レポート名を入力します。レポートは、レポートセクションで指定した名前で使用できます。

レポートの詳細については、「レポートのタイプ」ページで **131**を参照してください。

ポップアップトレンドの表示

ポップアップトレンドは特定のロケーション、関連付けられた設定、最近の履歴データ値のグラフ表示に関する最新のデータを表示するウィンドウで、アクティブなアラームを示すための領域です。複数のロケーションのデータを含むトレンドを表示するには、「トレンドの作成」ページで **89**を参照してください。

ポップアップトレンドビューは**[ロケーション]** ウィンドウから手動で開くことができます。あるいは、アラームを構成し、アラーム条件によって自動的にポップアップトレンドを表示できます（「アラーム テンプレート」ページで **52**）

ポップアップトレンドビューには、トレンドタブを使用して作成されたグラフと同じ機能が含まれています。さらに、大きい黄色のパナーが追加され、最新のデータ読み取り値を示します。このウィンドウでは、最新の履歴トレンドが表示されます。特定のデータポイントにマウスをおくと、詳細値が表示されます。

Note: 特定のロケーションのデータ読み取り値を単一のポップアップウィンドウに表示するか、複数ロケーションのポップアップウィンドウを開くことができます。Internet Explorerを使用する場合、ブラウザが設定され、新しいリンクが新しいウィンドウまたはタブで開きます **[ツール]>[インターネットオプション]>[全般]>[タブ]>[設定]**。


ポップアップトレンドグラフ領域の主要な要素の説明は次のとおりです。

項目	説明
タイトルバー	ゾーンの名前とロケーションデータ読み取り値 湿度、温度、電圧、または電流 が表示されます。

項目	説明
ヘッダーバー	最新の読み取り値の日時を示します。タイムゾーンはブラウザーを実行するPCのタイムゾーン設定に基づいています。グラフのヘッダーバーには、測定中のデータポイント数が表示されます。
数値表示領域	ユーザーが定義した測定中の単位で現在のデータが表示されます。ページ97の「デバイスとチャネルプロパティの編集」を参照してください。
グラフ領域	データ履歴のグラフがここに表示されます。
左側のY軸	グラフに表示されるデータのスケールが表示されます。
X軸時間スケール	レポート時間を表示します。Internet Explorerを使用している場合は、最新の300データポイントだけを表示できます。他のブラウザーでは最新の1000ポイントまで表示されます。
グラフィックライン	特定の日時フレームに基づいて、履歴測定値が表示されます。マウスを移動し、特定のポイントにおくと、特定のX軸とY軸値が表示されます。
しきい値ライン	履歴しきい値を示すために色分けされた線。しきい値設定に基づくによって示されます。マウスを移動し、特定のポイントにおくと、特定のX軸とY軸値が表示されます。
アクティブなアラーム領域	アクティブなアラーム領域を表示します。しきい値と超過した量、アラーム日値、アラームが受信確認されたかどうか、受信確認したユーザーが表示されます。ユーザーによるアラームの受信確認を許可します。アクティブなアラーム領域が表示されない場合は、表示するアラームがない場合があります。ポップアップトレンドの右側の二重矢印を使用して表示できます。
進行状況バー	チャンネル監視状態 OK、アラーム/アラーム条件タイプ を示します。

ポップアップトレンドを開く

- 1 viewLinc デスクトップから [オプション] >  [ロケーション] を選択します。

- 2** **【ロケーション】** ウィンドウで、ロケーションツリーを参照し、トレンドとして表示するロケーションを選択します。
- 3** **テーブル表示** タブまたは **ロケーションナビゲーションツリー** で、選択したロケーションを右クリックし、 **ポップアップトレンド** を選択します。新しいサイズ調整可能なウィンドウが表示され、選択したロケーションの情報が示されます。
- 4** 手順**1**～**3**を繰り返し、複数のポップアップトレンドビューを表示します。これはさまざまなモニターで表示できます。

ポップアップトレンドウィンドウを閉じるには、**閉じる X** をクリックします。

アラームを受信確認するには、「アラームの受信確認」ページで **118** を参照してください。

第 4 章

デバイスの管理

viewLincセットアップ中、Vaisala Veriteqデバイスが自動的に検出され、ロケーションおよびロケーションマネージャーウィンドウに表示されます。「デバイスの検出」ページで 34 を参照。

管理者、およびデバイスの管理権限があるユーザーは、ロケーションマネージャーウィンドウを使用して、デバイスの表示、ホストとアラーム定義設定の管理、デバイス校正設定の指定、ホストコンピューターの非アクティブ化/再アクティブ化、アラームの一時停止/再開方法を管理できます。

- デバイスとホストの表示
- 新しいデバイスの追加
- デバイスとホストアラームの設定
- デバイスの校正
- デバイスの削除

デバイスとホストの表示

ロケーションウィンドウのロケーション表示にリンクしているすべてのデバイスチャンネル ユーザーが表示できるロケーションはアクセスコントロール許可レベルによって異なります。「アクセスコントロール許可」ページで 40 を参照。

現在接続されたデバイスとホストを表示するには、管理者であるか、デバイスの管理権限を割り当てる必要があります。ロケーションマネージャーウィンドウのデバイスパネル 中央 に、デバイスとホストが表示されます。

デバイスプロパティの表示

デバイスプロパティを表示する

- ▶ viewLinc デスクトップで[オプション]>[システム構成]>[ロケーションマネージャ]を選び、[デバイス] パネルからデバイスを選択します。デバイスとホストの詳細情報が画面の下部にある[デバイスプロパティ]領域に表示されます。デバイスとホストの詳細情報が画面の下部にある[デバイスプロパティ]領域に表示されます。

列	表示
デバイスの詳細タブ	
説明	デバイスの説明
シリアル番号	デバイスに関連付けられたシリアル番号。
サンプリング間隔	デバイスから取得されるサンプル間隔。
デバイス アドレス	デバイスのアドレスとプロトコル タイプ。
チャンネル	デバイスに関連付けられたチャンネル数。
チャンネルの説明	チャンネルに入力された説明。
デバイス単位	測定単位 (RH, C, mA, mV など)。
ホスト詳細タブ	
ホスト名	選択されたデバイス/チャンネルのホスト名を表示します。
解決名	管理用。
ホストの IP アドレス	ホストの IP アドレス





列	表示
Localhost	選択したホストが viewLinc を実行しているかどうかを示します (viewLinc サーバー コンピューター)。
デバイス	ホストに接続されたデバイス数。
バージョン	ホストで実行されている viewLinc のバージョン。
状態	ホストが現在 viewLinc 監視システムに接続しているかどうかを示します。
viewLinc Aware	viewLinc Aware サービスがホストで有効かどうかを示します。
アラーム	アラームの状態。

デバイスとチャネル プロパティの編集

時間を節約するために、viewLincで説明、エイリアス、タイムアウト秒数、UDP ポート、パスワードおよびデータ転送パラメータ(デバイスオプションに依存)などのデバイス情報を表示および編集できます [デバイスとチャネルのエイリアス] ページで 28を参照。

Vaisala Veriteq デバイスによっては、これらのプロパティをviewLincで修正できます。ただし、デバイスがvLog監査証跡にリンクしている場合は、デバイスプロパティを編集するか、最初に監査証跡へのリンクを無効にしてviewLincでプロパティを修正する必要があります。

デバイスプロパティを編集する

- 1 viewLinc デスクトップから [オプション] >  [システム構成] >  [ロケーション マネージャー] を選択します。
- 2 [デバイス] パネルで、編集するデバイスを選択します。
- 3 [オプション] >  [デバイス] >  [デバイスの編集] を選択するか、右クリックメニューを使用します。
- 4 [デバイスプロパティの編集] 画面で、プロパティフィールドを編集します。

Vaisala Veriteq ロガーに対して次の項目を指定できます。

- **説明:** 短いデバイス説明 Vaisala Veriteq デバイスだけは最大16文字 を入力します。viewLincでは、Vaisala Veriteq デバイス説明 最大16文字の英数字 と、エイリアス 最大64文字の英数字 を変更できます。300 Series 変換器のエイリアスはviewLincでだけ編集できます。
- **エイリアス:** 必要に応じて詳細なデバイス説明 最大64文字 。オプションがシステム設定で設定されている場合、説明ではなくエイリアスが使用されます (「デバイスとチャンネルのエイリアス」 ページで 28を参照)。

300 Series 変換器の場合、次の項目を指定できます。

- **エイリアス:** 必要に応じて詳細なデバイス説明。
- **タイムアウト:** 転送をキャンセルする前に待機する秒数を指定します。
- **スキャン後に切断する:** デバイスがスキャン後に自動的に切断されるかどうかを選択します。
- **サンプルレート:** データサンプルが変換器に保存される頻度。

プロパティ	値
ホスト	hel-2216
デバイス クラス	300 Series Transmitter
説明	HMT330-J0910115
エイリアス	Anne's office
タイムアウト (秒)	30
接続タイプ	ネットワーク
IP アドレス	192.168.0.11
TCP ポート	23
サンプリングレート	90 秒

OK キャンセル

HMT140 Wi-Fi データ ロガーの場合、次の項目を指定できます。

- **タイムアウト:** 追加処理が失敗する前にデータ転送を待機する秒数。
- **UDPポート:** 自動生成され、必要に応じて修正できます。
- **パスワード:** 使用する場合は、割り当てられたパスワードを変更します。
- **ビーコン毎の最高ブロック数:** 履歴データ取得に許可された最大サイズを指定します。低い値にすると、バッテリー寿命を節約できます。
- 技術サポートに相談せずに、**HMT140**デバイスの「ビーコン毎の最高ブロック数」値を変更しないでください。この設定を変更すると、バッテリーの寿命に影響する可能性があります。
- **リトライカウント:** 受信確認できない場合のデータ転送の試行回数。
- **送信期間:** データ転送頻度。
- **サンプルレート:** データサンプルがデバイスに保存される頻度。

プロパティ	値
ホスト	VAN-VWLNC-HOST
デバイス クラス	HMT140 Series Wi-Fi Logger
説明	HMT140 #41
エイリアス	
タイムアウト (秒)	70
シリアル番号	E0D96008
UDP ポート	6767
パスワード	
ビーコン毎の最高ブロック数	64
リトライカウント	3
送信間隔 (Min)	15
サンプルレート (分)	2

設定キャリブレーション日付け OK キャンセル

5 [OK] をクリックして保存します。




Note: 校正設定を修正するには、「デバイスの校正」ページで 107 を参照してください。

チャンネルプロパティの編集

特定のチャンネル画面を容易に特定するには、チャンネルの説明、エイリアス、および優先温度単位を必要に応じて変更できます。

Note: 使用するデバイスによっては、説明を修正できないデバイスチャンネルがあります。詳細については、特定のデバイスユーザーガイドを参照してください。

チャンネルプロパティを編集する

- 1 viewLinc デスクトップから **[オプション]** >  **[システム構成]** >  **[ロケーション マネージャー]** を選択します。
- 2 **[デバイス]** ツリーパネルで、編集するデバイスチャンネルを選択します。
- 3 **[デバイス]** > **[オプション]** メニューで、**[チャンネル]** >  **[チャンネルの編集]** を選択するか、右クリックメニューを使用します。
- 4 **[チャンネルプロパティの編集]** ウィンドウで、必要に応じて次のフィールドを修正します。
 - **説明:** 短いデバイス説明を入力します (Vaisala Veriteq ロガーは最大16文字の英数字、HMT140 Wi-Fi ロガーは最大32文字。このオプションは300 Series 変換器にはありません)。
 - **エイリアス:** 詳細デバイス説明を入力します (最大64文字)。エイリアスを使用するオプションがシステム設定で設定されている場合、説明ではなくエイリアスが使用されます (「デバイスとチャンネルのエイリアス」ページで 28 を参照)。

HMT140 Wi-Fi ロガーの場合、追加オプションがあります。






HMT140 Wi-Fi ロガー (HMP110 プローブ付き):

- **小数点以下の桁数:** 表示する小数点桁数を入力します。
- **校正設定を修正するには、Vaisala Wi-Fi データロガー HMT140 を参照してください。**
- **表示スケール/オフセット:** 最終スケール ($x = \text{スケール} * V + \text{オフセット}$)。
- **エンジニアリングスケール/オフセット:** 即時スケール ($x = \text{スケール} * V + \text{オフセット}$)。
- **校正スケール/オフセット:** 主要校正スケール ($x = \text{スケール} * V + \text{オフセット}$)。
- **高/低アラーム値:** データ転送を開始する高および低範囲のアラーム値。
- **高/低アラーム時刻:** 高/低アラーム時刻は、ピーコンを送信する前にプローブがアラーム状態にある秒数を指定します。デフォルト設定は255で、送信が無効です。


チャンネル温度単位の設定

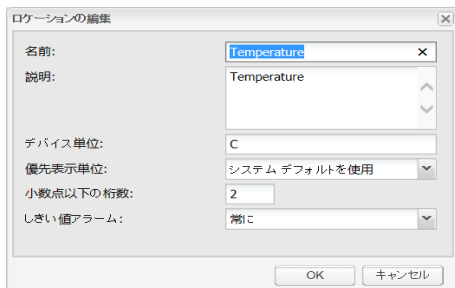
温度チャンネルのシステムデフォルト温度単位 ([オプション] > [システム構成] > [環境設定] タブで設定) を使用しない場合は、特定のチャンネルの温度を修正できます。この設定はチャンネルによる温度測定方法を変更しません。温度の表示単位が変更されます。

チャンネル温度単位を設定する

- 1 viewLinc デスクトップから[オプション] >  [システム構成] >  [ロケーション マネージャー] を選択します。
- 2 ロケーションマネージャーの [デバイス] ツリーで、編集するチャンネルを選択します。
 選択したチャンネルの現在の単位測定が、[デバイス詳細] タブの [デバイスプロパティ] 領域の右側に表示されます。
- 3 [デバイス] > [オプション] メニューで、[チャンネル] >  [チャンネルの編集] を選択するか、右クリックメニューを使用します。
- 4 [チャンネルプロパティの編集] ウィンドウの [単位] フィールドで必要な変更を行います。

システムデフォルト温度設定を使用する

- 1 [ロケーションマネージャー] で、[ロケーション] ツリーを使用して編集するロケーションを選択します。
- 2 [ロケーション] > [オプション] メニューで、 [ロケーションの編集] を選択するか、右クリックメニューを使用します。
- 3 [ロケーションプロパティの編集] ウィンドウの [優先表示単位] フィールドで、[システムデフォルトを使用] オプションを選択します。



新しいデバイスの追加

ネットワーク監視のニーズが高まるにつれ、新しいデバイスとホストを追加することで、viewLinc では監視機能を拡大することが容易になります。

デバイスとホストを追加して、viewLinc システムを拡張する方法については、「デバイスの検出」ページで 34 を参照してください。

デバイスとホスト アラームの設定





デバイスとviewLinc Server間の通信は、条件をリアルタイムで監視するために必要です。このため、viewLincでは、ホストとデバイスの通信アラーム、デバイスアラーム デバイス校正、構成、および校正 を構成できます。

通信アラーム

通信アラームはユーザーに通信エラーを通知します。ユーザー画面上的の表示方法、通知先、アラーム通知開始条件、通知確認の必要の有無はアラームの設定によって制御されます。

初期設定として各ホストと各デバイスに通信アラーム種類が事前構成済みです。デバイスやホストにデフォルト通信アラームテンプレートを使用するかカスタム通信アラームテンプレートをするか指定します（「テンプレート」ページで 51 を参照）。あるいは、個別のホストとデバイスに特定の通信アラーム設定を適用します。

通信アラームを設定する

- 1 viewLinc デスクトップから **[オプション]** >  **[システム構成]** >  **[ロケーションマネージャー]** を選択し、**[デバイス]** ツリーからホストまたはデバイスを選びます。
 - ホスト通信アラームを設定するにはホストを右クリックし  **[ホスト通信アラーム設定]** を選択します。
 - デバイス通信アラームを設定するにはデバイスを右クリックし **[デバイスアラームの設定]** >  **[デバイス通信アラーム設定]** を選択します。

[通信アラーム設定] 画面が表示されます。



- 2 **【アラームを有効にする】**を選択します (アラームは有効にされるまでアクティブではありません)。
- 3 既存のアラーム テンプレートを使って通信アラームを設定するには **【アラーム テンプレートを使用】**を選択しドロップダウン リストからテンプレートを選びます。
- 4 ホストまたはデバイスにカスタム アラーム設定をする場合は **【カスタムアラーム設定を使用】**を選択します。
- 5 「アラーム テンプレート」 ページで 52の手順3 から8 の要領で[パラメーター全般]、[通知]、[コメント] の各 タブでアラーム設定を指定します。
- 6 **【保存】** をクリックします。

通信アラームの編集

通信アラーム設定の変更はホストまたはデバイス毎に可能ですが、カスタム通信アラーム テンプレートを設定することによってグローバルに適用できません。



Note: デフォルト通信アラーム テンプレートの変更はできません。

カスタム通信アラーム テンプレートの編集は 1 ページ 「アラーム テンプレート」 ページで 52


単一デバイスまたはホストの通信アラーム設定の変更

- 1 viewLinc デスクトップから **【オプション】** > **【システム構成】** > **【ロケーション マネージャー】** を選択し、**【デバイス】** ツリーでホストまたはデ

バイスを選びます。

- ホスト通信アラームを編集するにはホストを右クリックし  **[ホスト通信アラーム設定]** を選択します。
- デバイス通信アラームを変更するには指定デバイスを右クリックし、**[デバイスアラームの設定]** >  **[デバイス通信アラーム設定]** を選択します。

2 アラーム設定を編集します。

3  **[保存]** をクリックします。



通信アラームの無効化

設定情報を削除せずに特定のホストまたはデバイスの通信アラームを一時的に無効化 (非アクティブ化) することができます。ホストやデバイスのメンテナンスの際に利用することができます。


Note: ホストまたはデバイスの全アラームを最高 24 時間一時停止するには 「アラームの一時停止」 ページで 121 を参照してください。

アラームの無効化

1 viewLinc デスクトップから **[ロケーション マネージャー]** を開きデバイス ツリーで無効化する通信アラームのホストまたはデバイスを選択します。

- ホスト通信アラームを編集するにはホストを右クリックし、 **[ホスト通信アラーム設定]** を選択します。
- デバイス通信アラームを変更するには指定デバイスを右クリックし、**[デバイスアラームの設定]** >  **[デバイス通信アラーム設定]** を選択します。

2 **[アラームを有効にする]** オプション選択を解除します。

3  **[保存]** をクリックします。

デバイス アラーム

各デバイスにはデバイス通信アラームに加えて初期設定として校正、検証、構成アラームの 3 種類のデバイス アラームが事前構成されています。これらのアラームはデバイスを追加すると自動的に有効になります。





デバイス アラームは削除できませんが使用するアラーム テンプレートを指定、またはカスタム アラーム設定を作成することができます。

デバイス アラームの変更

デバイスに適用されている設定またはカスタム テンプレートを変更することによって特定のデバイス上のデバイス アラーム設定を変更することができます。

Note: 初期設定されたデバイス アラーム テンプレートは変更できません。

デバイス アラームの編集





- 1 viewLinc デスクトップから **[オプション]** >  **[システム構成]** >  **[ロケーション マネージャー]** を選び、**[デバイス]** パネルを利用してデバイスの検出と選択をします。
- 2 デバイスで **[オプション]** メニューから  **[デバイス]** >  **[デバイスアラームの設定]** を選び、編集するデバイス アラームの種類を選択します。
- 3 アラーム設定の編集をします(「アラーム テンプレート」 ページで 52 の手順3 から8 を参照してください)。
- 4 **[保存]** をクリックします。

デバイス アラームの無効化

システム メンテナンス期間中やホストサーバー差し替えのため長期の停止状態になる場合はホスト通信アラーム、個別デバイスのアラーム(デバイスアラーム毎に対処)、ホストまたはデバイス上全てのアラームを無効にすることができます。

あるいはデバイスまたはホストを非アクティブ化 することができます(全てのモニタリングとアラームが停止します)。ページ108の「デバイスの削除」を参照してください。

デバイス アラームの有効または無効化

- 1 viewLinc デスクトップから **[オプション]** >  **[システム構成]** >  **[ロケーション マネージャー]** を選び、**[デバイス]** パネルを利用してデバイスの検出と選択をします。
- 2 **[デバイス オプション]** メニューから  **[デバイス]** >  **[デバイスアラームの設定]** を選び、有効または無効化するデバイス アラームの種類を選択します。

- 3 **【アラームを有効にする】** チェック ボックスを選択または選択解除します。
- 4 **【保存】** をクリックします。

デバイスの校正

校正によって、計測機器(ロガー、変換器、プローブ)によって生成されたデータが信頼でき、正確であることが保証されます。




例えば、多くの場合、必要に応じて、時計を正しい時間に調整します。作業標準(時計)は表示され、ほとんどすべての場所にあります。これで、比較、校正が容易になります。時計の時間が信頼できる基準値とは異なる場合、調整を行います。

信頼できる基準値(時計)に表示される計測データ(時刻)は基準点として信頼できます。

デバイスの校正値(Vaisala校正サービスチームによって校正された場合)を更新する必要があるか、オンサイト校正を実行している場合は次の手順を使用します。

Note: RTD、電圧または mA チャンネルのある HMT140 Wi-Fi データロガーの校正プロパティだけが viewLinc で編集できます。HMP110 湿度/温度プローブの校正については、HMP110 ユーザーガイドを参照してください。

校正プロパティを編集する

- 1 校正プロパティをサポートするデバイスが選択されていることを確認します。
- 2 初期校正値がデバイスから viewLinc (自動検出) にダウンロードされたことを確認します。
- 3 viewLinc デスクトップから **【オプション】** >  **【システム構成】** >  **【ロケーション マネージャー】** を選択し、**【デバイス】** ツリーを使用して編集するチャンネルを選択します。
- 4 **【オプション】** > **【チャンネル】** メニューで、 **【チャンネルの編集】** を選択するか、右クリックメニューを使用します。
- 5 **【チャンネルプロパティの編集】** ウィンドウで、校正スケールおよび校正オフセット(Vaisala で提供されるか、オンサイト校正テストから収集)の校正プロパティを編集します。
- 6 **【OK】** をクリックします。

- 7 校正プロパティが変更されたら、変更を確認し、正しい校正日が入力されていることを確かめます。
- 8 **[OK]** をクリックします。

デバイスの削除

デバイスがviewLincシステムから削除されるか、別の監視領域に転送されると、システムアラームを防止するために通知する必要があります。




デバイスは次のときに削除できます。

- デバイスのメンテナンスが必要 再校正など
- デバイスが必要ではない
- デバイスを一時的に無効にする必要がある




監視の一貫性を保証するには、デバイスの非アクティブ化、ロケーションの非アクティブ化、デバイスの交換、またはロケーションの完全削除を選択できます。デバイスを交換する前に、リンクされたチャンネルのリンクを解除する必要があります。

IMPORTANT: デバイスが非アクティブ化されずに削除される場合は、通信アラームがトリガーされます。

ホストまたはデバイスを再アクティブ化する

- 1 viewLinc デスクトップから**[オプション]** >  **[システム構成]** >  **[ロケーション マネージャー]** を選択します。
- 2 **[デバイス]** パネルで、非アクティブ化するホストまたはデバイスを選択します。
- 3 **[デバイス]** > **[オプション]** メニューで、**[ホスト]** > **[ホストの非アクティブ化]** または **[デバイス]** > **[デバイスの非アクティブ化]** をクリックします。
- 4 メッセージが表示され、ホスト/デバイスの削除を確認する必要があります。**[はい]** をクリックします。ホスト/デバイスはデバイスツリーに表示されませんが、ネットワーク接続は影響されず、必要なときにホスト/デバイスを再アクティブ化できます。
- 5 **[オプション]** >  **[保存]** をクリックします。

ホストまたはデバイスを再アクティブ化する

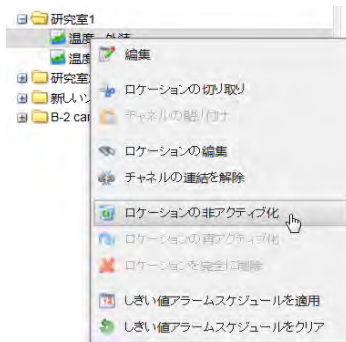
- 1 viewLinc デスクトップから[オプション] > [システム構成] > [ロケーション マネージャー]を選択します。
- 2 [デバイス] > [オプション]メニューで、非アクティブ化された項目を表示オプションを選択します。
- 3 非アクティブ化されたホスト/デバイス  を選択し、 デバイスの再アクティブ化を右クリックして選択します。
- 4 [オプション] >  [保存] をクリックします。


ホスト/デバイスをロケーションにドラッグできます。

ロケーションの非アクティブ化/再アクティブ化

ロケーションを非アクティブ化する

- 1 viewLinc デスクトップから[オプション] > [システム構成] > [ロケーション マネージャー]を選択します。
- 2 [ロケーション] パネルで、非アクティブ化するロケーションを選択します。





- 3 [ロケーションの変更]プロンプトで、はいをクリックします。
- 4 [オプション] >  [保存] をクリックします。

非アクティブ化されたロケーションを再アクティブ化する

- 1 viewLinc デスクトップから[オプション] > [システム構成] > [ロケーション マネージャー]を選択します。
- 2 [ロケーション] > [オプション]メニューで、非アクティブ化された項目を表示オプションを選択します。

3 非アクティブ化されたデバイス

 を選択し、 **デバイスの再アクティブ化** を選択します。

4 **[オプション]** >  **[保存]** をクリックします。

デバイスの切り替え

デバイスが交換されたときに、変更がロケーション履歴レポートに記録されます。レポート期間中、デバイスが交換された場合、このイベントがレポートサマリーにリストされます。

デバイスを交換する


Note: 同じ設定のデバイスだけを交換できます。




- 1 交換で利用できるネットワークに接続される既存のデバイスがあるかどうかを確認するには、**[ロケーションマネージャ]** > **[デバイス]** > **[オプション]** に移動します。
- 2 交換するデバイスを右クリックし、**このデバイスを切り替え** を選択します。デバイスが**[スワップデバイス セレクタ]** ウィンドウに表示されない場合、**vLog** を使用して同じ設定のデバイスを検索します。

Note: 各 Vaisala Veriteq デバイスは **vLog** で個別に確認する必要があります。**COM** ポートを接続する必要があります。

次の設定が必要です。

- **COMポート/IPアドレス。** デバイスは同じ **COM** ポート 同じケーブルに接続 ます。ネットワークデバイスとして接続されている **300 Series** 変換器を交換 する場合は、新しい変換器が同じ **IP** アドレスであることを確認します。
- **名前。** デバイスが除却または非アクティブ化されていません。
- **状態。** デバイスはアクティブなアラームモードではありません。
- **サンプル間隔。** デバイスは同じサンプリング間隔です。
- **チャンネル。** デバイスでは同じチャンネルが有効で、各チャンネルの測定単位が同じです。
- **監査証跡。** Vaisala Veriteq デバイスは **vLog** 監査証跡にリンクしていません。

- 3 ロケーションマネージャーで、デバイスパネルから交換するデバイスを選択します。 **デバイスアラームの一時停止** を右クリックして選択します。
- 4 [デバイスアラームの一時停止] ウィンドウで、コメントを追加できます。または事前構成済みコメントを選択し、アラームの一時停止理由を示し、一時停止の想定期間を指定できます。これにより、通信またはしきい値アラームがトリガーされないことが保証されます。

Note: デバイスが一時停止されると、アクティブなアラームがオフになります。イベントログと電子メールは、一時停止によってオフになったことを通知しません。
- 5 **[OK]** をクリックします。
- 6 交換するデバイスを切断し、新しいデバイスを接続します。300 Series 変換器を交換する場合、電源を抜き、もう一度入れます。
- 7 **[デバイス] > [オプション] > [更新]** を選択し、デバイスリストを更新します。デバイスが表示されるまでに数分かかることがあります。新しいデバイスが以前に交換された場合、デバイスプロパティパネルの非アクティブ化されたデバイスのリストに表示されます **[デバイス] > [オプション] > [非アクティブ化された項目を表示]** を選択。
- 8 [デバイス] パネルで、削除するデバイスを選択します。
- 9  **[このデバイスを切り替え]** を右クリックして選択します。
- 10 デバイスを選択し、**OK** をクリックします。viewLinc がデバイスを再割り当てします。
- 11 新しいデバイスでアラームを再開する場合は、**[オプション] > [ロケーション]** からシステムツリーを操作し、再開するデバイス  を見つけます。デバイスアラームの再開  を右クリックして選択します。
- 12 [ロケーション] パネルで、**[オプション] > [保存]** を選択します。

非アクティブ化されたロケーションデバイスを表示または非表示にする

- ▶ ロケーションマネージャーのデバイスまたはロケーションパネルで、**[オプション] > [非アクティブ化された項目を表示]** を選択します。

ロケーションを完全に削除

会社が成長し、監視ニーズが変わると、デスクトップのロケーションまたはゾーンを表示する必要がなくなることがあります。ロケーションを新しいゾーンに移動する場合は、「ロケーションとゾーンの管理」ページで 67 を参照してください。

ロケーションまたはゾーンを完全に削除するには、管理者またはロケーションの管理権限が必要です。

ロケーションまたはゾーンを完全に削除する

- 1 [ロケーションマネージャー]ウィンドウで削除するロケーションまたはゾーンを選択します。
- 2 チャネルがロケーションにリンクせず、ロケーションがゾーンにリンクしていないことを確認します。
- 3 **✖ロケーションを完全に削除**または**✖ゾーンを完全に削除**を右クリックして選択します。

第 5 章

アラームの監視

アラームとアラーム受信確認は、Vaisala Veriteq環境モニタリングシステムの成功にとって重要です。

システムセットアップ中、アラーム通知設定アラーム通知を受信するユーザーを定義し、アラームテンプレート標準メールメッセージとアラームパラメーターを作成し、しきい値テンプレートアラームをトリガーする条件を指定しました。

このセクションでは、各種アラーム条件を理解するために必要な情報、アラーム設定をアクティブ化する方法、アラームを表示および受信確認する方法、アラームを一時停止する方法、およびアラームレポートを生成する方法について説明します。

アラームについて

viewLincには複数のタイプのアラームがあり、次の状態を示します。

- 監視対象環境の状態変化 しきい値アラーム
- 通信の問題 通信アラーム
- データ収集の問題の可能性(イベント検証アラーム)
- データ履歴追跡の中断(デバイス構成アラーム)
- デバイス検証または校正リマインダーの問題 (デバイス ステータス アラーム)。
- システム構成警告 (システム アラーム)

viewLincを使用すると、しきい値、通信、およびデバイスアラームで発行された情報をカスタマイズ(デフォルトまたはカスタム電子メールとSMSテンプレートを使用)でき、ユーザーがアラームの通知を受ける時間と方法を指定できます(デフォルトまたはカスタムアラームテンプレートおよびしきい値テンプレートを使用)。

すべてのアラームイベントはイベントログに記録されます。

アラームのタイプ

大半の **viewLinc** アラームは自動的に発行されます。各条件限度、アラーム各種の表示、通知、並びに受信確認方法の設定は御社にて行われます。

しきい値アラーム

しきい値アラームは諸条件 (気温、湿度等) が許容限度外に達した際にユーザーに通知します。条件がこれらの限度 (管理者によって事前設定) 外に達するとしきい値アラームがトリガーされます。各ロケーションに対し単独または複数のしきい値を対象とするアラームの設定が可能です。

通信アラーム

通信アラームはホストと **viewLinc** サーバー PC 間並びにそのサポートするデバイス間の通信が切断された場合、自動的にユーザーに通知します。通信アラームが発生する条件として次のようなものが考えられます:

- **viewLinc** サーバーとデバイス間の通信不能。
- デバイスとホスト間の接続切断。

通信アラームは **viewLinc** におけるモニタリングやアラーム障害の可能性を示唆するシステムの健康診断です。

イベント検証アラーム

イベントログ検証アラームはデータベースのセキュリティ確保を目的とし、受信確認を必要とします。**viewLinc** システム外でイベントログの変更が行われた場合に発生します。**viewLinc** システム外でイベントログの変更が行われた場合に発生します。

ログの変更または見つからないレコードやファイルが発見された場合自動的にアラームがトリガーされデータは検証不可となります。

デバイス構成アラーム

デバイス構成アラームはデバイスがデータ履歴の記録を停止する、もしくはデバイス構成が正しく行われていない場合に発生します。

これは以下の原因によるものと思われます。

- デバイスが空き容量がなくなると停止する設定になっている。
- 開始の遅延 (**Vaisala Veriteq** ロガーの設定)。
- 内部デバイスのエラー。

- デバイスのチャンネルがマニュアルまたはデバイス構成ソフトウェアによって無効化されている。
- IR センサーが送信する転送が多すぎる (バッテリー漏れの可能性)

Note: Vaisala Veriteq デバイスの設定は vLog または HMT140 ユーティリティソフトウェアで検証もしくは変更することができますが問題が解決しない場合には担当の Vaisala 技術サポートまでお問い合わせください。

大部分の構成アラーム遅延の初期設定値は60秒です(この値はviewLincで変更できます)しかしチャンネルが見つからない場合のアラーム、構成変更、プロンプト変更等アラームの種類によっては遅延不可能のものもあります(変更不可)。

デバイス ステータス アラーム

システムが VL-type データ ロガーを使用している場合、次のアラームが発生することがあります:

- **デバイス検証アラーム:** デバイス内の検証メモリが破損または変更された場合に発信されます。担当の Vaisala 技術サポートまでお問い合わせください。
- **デバイス校正アラーム:** デバイスに校正が必要な場合は断続的に発信されます。校正期限 3ヶ月前、1ヶ月前そしてデータロガー上の校正期日当日に通知着信します。このアラームはデバイス再校正が行われるまで発信を続けます(詳しくは Vaisala 校正サービス センターまでお問い合わせください)。

システム アラーム

システムアラームは、viewLinc が標準のデスクトップ連携外で行われたデータベース変更を検出すると発生します。データベース改ざんの可能性について警告するための発行されます。

アラームがトリガーされた場合の処理

アラームがトリガーされると、システム構成設定に応じて、複数の処理が発生することがあります。

- **ポップアップ:** ポップアップ通知はデスクトップに表示され、条件の説明とアラームメッセージを示します。ポップアップがブラウザーによってブロックされて

いる場合、エラーメッセージが表示され、viewLinc のポップアップを有効にするように指示されます。

- **電子メールまたはSMS:**電子メールまたはSMS通知は、アラームプロパティの設定方法とユーザーの作業スケジュールに従って、1度だけ送信するか繰り返し送信することができます。構成されている場合、電子メールは自動的に1つ以上の電子メールアドレスに送信されます。SMS 通知を発行している場合、テキストメッセージがモバイルデバイスに送信されます。
- **コマンド:**アプリケーションを起動するか、外部デバイスをオンにできます。構成されている場合、アラーム条件が発生したときに、外部デバイス (ライトやブザーなど) またはコンピューターアプリケーション (特定の番号にポケベルや電話を発信できるバッチファイルなど) をトリガーできます。

アラームは、viewLinc、リモートディスプレイで受信確認するか、電子メールやSMS通知に返信することで、すぐに処理される必要があります。受信確認が必要なように構成されている場合、受信確認されるまでアラーム通知が継続します。

IMPORTANT: アラーム通知は、現在チャンネルがアクティブなロケーションにリンクされているデバイスに対してのみ送信されます。

アラームの受信確認は必要ですか。

アラームは受信確認が不要のように設定できます。


アラームの表示と受信確認

[アラーム] ウィンドウには、viewLincシステムのすべてのアクティブなアラームのリストが表示されます。表示権限のあるロケーションのアラームだけが表示されます。特定のロケーションのアラームを受信確認する権限が必要です。

[ロケーション] ウィンドウ ロケーションアラームタブ または [アラーム] ウィンドウでアクティブなアラームを表示できます。[ロケーション] ウィンドウでのアラームの表示については、「アラームの監視」ページで 88を参照してください。

[アラーム] ウィンドウの更新

[アラーム] ウィンドウは自動またはオンデマンドで更新されます。自動更新機能によって、最新のアラームが表示されます。ただし、長いアラームリストを確認している場合は、この機能を無効にし、準備ができるまでウィンドウを更新しないようにできます。

自動更新を無効にするには、右上端の **[自動更新オン]** ボタンをオフにします。
手動で強制更新するには、**[オプション]** >  **[更新]** を選択します。

[アラーム] ウィンドウ方向



色コード	説明	エラー	デフォルト	ロケーション	デバイスの説明	ゾーン	期間	状態	更新確認
黄色	イベントロギング	Event Log Validation Alarm	1012				7日 22時間 24分	オン	必要 (変更確認されてい
黄色	① 構成対象構成アラ	Configuration change alarm	1017				7日 22時間 24分	オン	必要 (変更確認されてい
黄色	エンタープライズア	校正	1029	相対湿度 - 外装 (10	2008-P-HT	System研究室2 (10	7日 22時間 23分	オン	必要 (変更確認されてい
黄色	エンタープライズア	校正	1047	相対湿度 - インテリ	2009-P-HT	System研究室2 (10	7日 22時間 23分	オン	必要 (変更確認されてい
黄色	構成対象構成アラ	Configuration change alarm	1062				2時間 39分 35秒間	オン	必要 (変更確認されてい
黄色	しきい値の超過	High High Threshold	1109	温度 - インテリ (10	2009-P-HT	System研究室1 (10	1時間 3分 43秒間	オン	確認可 (変更確認されて
黄色	High High Threshold	しきい値	1110	温度 - インテリ (10	2009-P-HT	System研究室1 (10	1時間 3分 43秒間	オン	確認可 (変更確認されて
黄色	しきい値の超過	High High Threshold	1106	温度 - 外装 (1055)	2008-P-HT	System研究室1 (10	1時間 3分 25秒間	オン	確認可 (変更確認されて
黄色	しきい値の超過	High High Threshold	1105	圧力 - エリア (1055)	8-2 HT	System研究室2 (10	1時間 3分 25秒間	オン	確認可 (変更確認されて
黄色	High High Threshold	しきい値	1106	圧力 - エリア (1055)	8-2 HT	System研究室2 (10	1時間 3分 25秒間	オン	確認可 (変更確認されて
黄色	High High Threshold	しきい値	1107	温度 - 外装 (1055)	2008-P-HT	System研究室1 (10	1時間 3分 25秒間	オン	確認可 (変更確認されて

① **色コード**:状態の重要度を示すために使用されます。

② **期間**:状態が存在する期間を氏名sます。

③ **状態**:アラーム状態が有効かどうかを示します。

④ **自動更新オン**:このオプションをオンにすると、変更されるたびに、アラームリストが自動的に更新されます。長いアラームリストを確認している場合、アラーム選択処理が遅れる可能性があるため、このオプションをオフにします。

⑤ **ロケーションID**:ロケーション名の後の番号 (15494 など)は、一意のロケーションIDです。複数のロケーションに同じ名前がある場合、この番号によって一意のIDが示されるため、識別が可能です。

アラームの受信と受信確認

すべてのviewLinc ユーザーは、viewLinc へのログイン状況に関係なく、電子メールまたはSMSテキストでアラーム通知を受信できます。ただし、アラームの受信確認権限以上の権限と、アラームが発生しているロケーションへのアクセスを持つユーザーだけが、アラームを受信確認できます ユーザー権限とアクセスコン

トロール許可については、「viewLinc へのアクセス コントロール」ページで 38を参照してください。

受信確認は、アラーム状態が認識されたことをviewLinc システムに通知します。受信確認情報として保存された問題を修正するために実施された手順 対応およびコメントなどはすべて、イベントログで追跡されます。

アラームの受信確認が必要な場合、アラーム通知を確認する必要があります。アラーム通知 メッセージを構成し、viewLinc Server によって受信確認まで継続的に送信することができます。

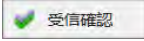
アラームの受信確認

4つのアラームの受信確認があります。

- **ロケーションウィンドウのロケーションアラームタブ。**
- **アラームウィンドウ** ユーザーがアクセス権を持つすべてのネットワーク上のアクティブなアラームが表示されます。
- **ポップアップ** トレンドグラフ。
- **電子メールまたはモバイル デバイスの SMS** (「viewLinc モバイルでアラームの受信確認を行う」ページで 156)。

ロケーションアラームタブからアラームを受信確認する

- 1 **ロケーションウィンドウを開き、ロケーションツリーでロケーションまたはゾーンを選択します。**
- 2 **ロケーションアラームタブをクリックし、アクティブなアラームを選択し、**



を右クリックして選択します。

アラームの受信確認 ウィンドウが表示されます。




- 3 **アラームの受信確認ウィンドウで、実行されるアクションとコメントを入力します。事前構成済みコメントドロップダウンを選択できます。**


たとえば、冷蔵施設で高温アラームを受信し、アラームが発生する施設にいない場合は、ロケーションで作業しているユーザーに通知して問題を調査してもらう必要があります。この場合、冷蔵庫のドアが開いたままの場合、施設のオペレーターがドアを閉じ、この対応をアラームの受信確認ウィンドウに追加できます。

- 4 **受信確認**をクリックします。コメントとアクションがイベントログに追加され、アラームの受信確認ボックスが閉じます。ロケーションはこの状態変更で更新されます。

アラームウィンドウからアラームを受信確認する

- 1 viewLincデスクトップで、**[オプション]** >  **[アラーム]**を選択してすべてのアクティブなアラームのリストを表示します。
- 2 受信確認対象のアラームを選択します。複数のアラームを受信確認する場合は、**[Ctrl]** または **[Shift]** ボタンを押しながら、複数のロケーションをクリックします。


Note: 複数のロケーションを選択するときには、**自動更新** オプションを選択解除することをお勧めします。

- 3 選択したロケーションを右クリックし、 **受信確認** を選択するか、**[オプション]** > **[受信確認]** をクリックします。[アラームの受信確認]ダイアログボックスが表示され、実行された対応とコメントを入力します。



- 4 **受信確認**をクリックします。コメントとアクションがイベントログに追加され、アラームの受信確認ウィンドウが閉じます。ロケーションはこの状態変更で更新されます。

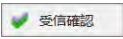
すべての非アクティブなアラームを受信確認する

- 1 viewLinc デスクトップから **[オプション]** >  **[アラーム]** を選択します。
- 2 **[オプション]** > **[すべての [オフ] アラームの受信確認]** を選択します。複数ロケーション選択は不要です。

Note: 受信確認が不要なすべてのアクティブなアラームの場合、受信確認列が**不要**になります。受信確認されなかった非アクティブなアラームは**オフ**になります。

- 3 すべての [オフ]アラームの受信確認 ウィンドウで、実行された対応を示し、事前構成済みのコメントを選択します。また、ある場合は、[オフ]アラームを受信確認する理由に関する追加コメントを入力します。
- 4 受信確認 をクリックします。

ポップアップトレンドグラフからアラームを受信確認する

- 1 ポップアップトレンドウィンドウを開き、ロケーションアラーム タブをクリックします。
- 2 アクティブなアラームを選択し、 を右クリックして選択します。[アラームの受信確認]ダイアログボックスが表示され、実行された対応とコメントを入力します。
- 3 受信確認 をクリックします。

電子メールまたは SMS によるアラームの受信確認

- 1 アラーム電子メールを開きます。差出人アドレスはサーバー管理者アカウントになります。たとえば、`viewlinc.boulder@companyemail.com`です。
- 2 使用するテンプレートによっては、デフォルト電子メール/SMSメッセージが標準形式で表示されます。デフォルトしきい値アラームの例:

件名: **Re:** [Ticket ###] viewLinc - 状態の説明 [Location], [Zone]

メッセージ本文: [Zone]は、[Location]で[Data]にしきい値アラームがあった。

[Event Details]

[Device information]

- 電子メールを受信確認するには、返信メッセージを送信し、メッセージ本文にPINを入力します。

Note: 本文メッセージのない返信または件名にチケット番号のない返信を送信しても、受信確認されません。

件名: Re: [Ticket ###] viewLinc - 状態の説明
[Location], [Zone]

メッセージ本文: PIN####

- SMSメッセージを受信確認するには、返信メッセージを送信します。

Ticket### PIN####

アラームの一時停止

不要なアラーム通知を避けるためには単独または複数のデバイスあるいはホスト単位のアラームの一時停止が便利です (ロケーションに対するデバイス管理権限並びにアラーム構成許可が必要です)。


この機能は複数のデバイスを移動するとき (通信アラームがトリガーされます) またはしきい値の限度を上回る状況 (しきい値アラームがトリガーされます) が予測される場合に便利です。

指定されたロケーションまたはゾーン、またはデバイスの全チャネルすべてのアラーム条件、あるいはホストに接続する全デバイスのしきい値アラームを最高24時間まで一時停止させることができます。アラームの一時停止は指定されたデバイスの個別アラームを一時的に無効化するよりも便利ですが、長時間にわたってアラームを停止する場合はアラーム無効化機能を利用します (「デバイスアラームの無効化」ページで106を参照)。

単一のロケーションでのしきい値アラームを一時停止する



- [テーブルビュー]** タブの **[ロケーション]** 項目でアラームを選択し、**[オプション]** > **[しきい値アラームの一時停止]** をクリックします。**[自動更新]** オプションが選択されている間アクティブアラームリストは最新のアラームで更新されます。
- [アラームを一時停止する]** ウィンドウで一時停止の理由を事前設定済みコメントから選択、または **[コメント]** テキストボックスに直接入力します。
- [OK]** をクリックします。

ゾーンのしきい値アラームを一時停止するには

- 1 **[ロケーション]** のロケーション ツリーでゾーンにナビゲートし、**[オプション]** >  **[しきい値アラームの一時停止]** をクリックします。
- 2 **[アラームを一時停止する]** ウィンドウで一時停止の理由を事前設定済みコメントから選択、または **[コメント]** テキストボックスに直接入力します。
- 3 **[OK]** をクリックします。



デバイス上の全チャネル アラームを一時停止する

Note: この機能にはデバイス管理権限が必要です。

- 1 **[ロケーション マネージャ]** の **[デバイス]** 画面で デバイスを選択し **[オプション]** >  **[デバイス]** >  **[デバイス アラームの一時停止]** をクリックします。
- 2 **[デバイス アラームを一時停止]** ウィンドウで一時停止の理由を事前設定済みコメントから選択、または **[コメント]** テキストボックスに直接入力します。
- 3 **[OK]** をクリックします。

ホスト上の全デバイス アラームを一時停止する

Note: この機能にはデバイス管理権限が必要です。

- 1 **[ロケーション マネージャ]** の **[デバイス]** 画面上で ホストを選択し **[オプション]** >  **[ホスト]** >  **[ホストアラームの一時停止]** をクリックします。
- 2 ホストアラームを一時停止するには **[はい]** をクリックします。
- 3 **[アラームを一時停止する]** ウィンドウで一時停止の理由を事前設定済みコメントから選択、または **[コメント]** テキストボックスに直接入力します。
- 4 **[OK]** をクリックします。

アラーム ビューの管理

すべてのユーザーは、デスクトップに表示する列と、列の並べ順を変更できます。

Note: アラームの色はアラームテンプレートによって定義されます。

アラームテーブルの並べ替えを変更する

- 1 列見出しを選択し、矢印ドロップダウンをクリックして、**列**を選択します。



- 2 表示する列を選択/選択解除します。新しい列が自動的に表示され、削除された列が自動的に非表示になります。
- 3 ウィンドウの任意の場所をクリックし、列の内容オプションを閉じます。


アラーム レポート

記録保存のため特定のアラーム条件のハードコピーを指定期間中印刷することができます。


viewLinc ではアラーム データを直接プリンタ出力 (.pdf 形式)、またはスプレッドシートへエクスポート (.xls) することができます。スプレッドシート形式で報告要件にそって情報の表示を調整することができます。

アラーム、ロケーション履歴、システム レポートについて詳しくは 7 章: レポートと履歴データを参照してください。

アクティブなアラーム全てのレポート印刷

- 1 [viewLinc アラーム] ウィンドウで **[オプション]** >  **[印刷]** を選択します。印刷可能なアラームの一覧を表示する新しいブラウザ タブが開きます。
- 2 **[印刷]** ウィンドウで印刷の設定をし、**[印刷]** をクリックします。

アラームを Excel 形式にエクスポート

- 1 **[オプション]** >  **[Excel へエクスポート]** をクリックします。リスト内全てのアラームが .tsv 形式にエクスポートされます。
- 2 プロンプトから **[保存]** (デフォルトのダウンロード フォルダーにファイル保存します) またはファイルを **[開く]** 選択をします。Windows でファイルが開けないエラーが発生した場合は MSEExcel を選択してファイルの表示と変更を行ってください。

第 6 章

イベント

すべての **viewLinc** システムアクティビティはイベントとして処理され、すべてのイベントはイベントログで追跡されます (**[オプション] > [イベント]**)。

イベントとして追跡されたデータは、デバイスに記録された監視データとは異なります。主な違いは次のとおりです。

- アラーム、デバイスからのデータ転送、アラーム受信確認、システム構成変更、一般システム通知などのイベントは **viewLinc** システム内で発生します。
- 温度、相対湿度、空気圧、電圧など、デバイスは監視対象の環境内で変更を追跡します。

viewLinc が継続的にイベント履歴を監視して保存していることを保証するために、**viewLinc** イベントログが外部的に改ざんされた場合には、イベント検証アラームによって通知されます。イベントログ検証アラームの詳細については、「イベント検証アラーム」ページで **114**。

[イベント] ウィンドウを使用してイベントを分析し、特定の問題が発生した時点と場所を判定します。また、トラブルシューティングが必要な状況を診断します。

このセクションでは、詳細を説明します。


- イベントの表示
- イベントへのコメントの追加
- カスタム イベントの追加
- イベント ログの印刷 とエクスポート

イベントの表示



イベントは、[イベント] ウィンドウでイベント ログとして表示 されます。これは、システム上のデバイスで発生 するすべてのシステム イベントをテキストとして一 覧表示したものです。

Note: システム時刻が変更 された場合、アラーム イベントが 発生 されます。

イベントを表示する


- viewLinc デスクトップから **[オプション]>**  **[イベント]** を選択 します。イベント ログが開き、イベントの番号 付きリストが表示 されます。使用可能な場合は、イベント リストの右側のイベント詳細領域に、イベントに関するコメントが表示 されます。



- イベント ログに影響 しないように、画面の上部にある **[イベント ログレポート状態]** 領域で一 覧のコメントを確認 します。展開アイコン  をクリック すると、追加の詳細が表示 されます, .
- 特定の期間中のイベントを表示 するには、ウィンドウの上部にあるカレンダー フィールド (形式は **YYYY/MM/DD HH:MM**) を使用する か、カレンダー ボタンを使用して日付範囲を選択 します。
- 特定のタイプのイベントを表示 するには、右上端にある **[フィルター]** ボックス リストを使用 します。さまざまなイベントを選択 または選択解除 します (アラーム、管理、転送、およびシステム イベント)。



また、リストをフィルターし、特定のユーザーまたはグループによって受信確認されたイベントや、特定のロケーションで発生したイベントを表示できます。


- 5 フィルター ドロップダウンの外側をクリックすると、リストが自動的に更新されます。また、**[オプション]** >  **[更新]** をクリックすると、リストを手動で更新します。

イベントへのコメントの追加

発生したイベントの原因、またはイベントや問題への対応を説明するために、イベントログにはコメントを追加できます。

イベントログに追加されたコメントは、特定のユーザーのグループやロケーションに影響する変更に関する説明を行う管理者など、特定のイベントに関する追加メモを作成するために使用できます。

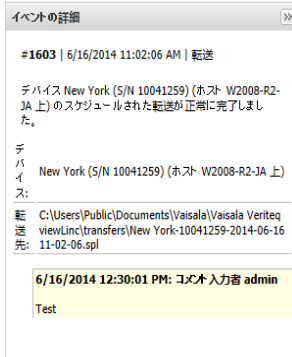
イベントログにコメントを追加する

- 1 viewLinc デスクトップから、**[オプション]** > **[イベント]** を選択します (あるいは、viewLinc デスクトップのイベントショートカットをクリックします)。
- 2 イベントを選択し、**[オプション]** >  **[コメントの追加]** をクリックします。**[コメントの追加]** ウィンドウが表示されます。



- 3 設定済みコメントがあれば入力します。あるいは、独自のコメントを入力し、**[保存]** をクリックします。

- 4 特定のイベントのコメントを表示するには、イベントがある行をハイライト表示し、**[イベント詳細]** 領域のコメントを探します。イベント ログに追加されたコメントは、**[イベント詳細]** の後の黄色のボックスに表示されます。





これらの追加コメントもイベント ログ レポートに表示されます。

カスタム イベントの追加

カスタム イベント (システムアップグレードを示す場合など) を作成すると、新しいイベントがイベントウィンドウの上部に表示されます。

カスタム イベントを追加する




- 1 viewLinc デスクトップから、**[オプション]** >  **[イベント]** を選択します (あるいは、イベントデスクトップをクリックします)。
- 2 イベントウィンドウで、**[オプション]** >  **[カスタムイベントの追加]** を選択します。
- 3 カスタムイベントメッセージと詳細を入力し、**[保存]** をクリックします。



イベント ログの印刷とエクスポート

レコード保持目的で、印刷されたレコードのイベントを生成しなければならない場合があります。標準 viewLinc イベントログレポートを生成するか、カスタムレポート用に .tsv 形式を使用して、レコード詳細をスプレッドシートにエクスポートできます。

イベント ログを印刷する


- 1 viewLinc デスクトップから **[オプション]** >  **[イベント]** を選択します。
- 2 レポートのパラメーターを指定します。
 - 日時フィールドで、日付または時刻を 24 時間形式で入力するか、カレンダーアイコンをクリックして選択します。
 - **[フィルター]** ボタンを使用して、イベントのタイプ、生成元、生成場所を追加します。
- 3 イベントログを更新するには、**[オプション]** >  **[更新]** をクリックします。
- 4 **[オプション]** >  **[印刷]** をクリックします。
- 5 新しいブラウザ ウィンドウで、印刷形式のイベントログ レポートが開きます。






イベント ID	日時/時刻	メッセージ	カテゴリ	イベントの詳細	ユーザ	生成元	生成場所
148	5/30/2014 4:56:56 PM	admin (管理ユーザ) がイベントを削除しました。	管理	クワイアノット UTC オフセット: UTC+7 詳細: このイベントの理由を説明してください。	admin	システム	
147	5/30/2014 4:46:28 PM	admin (管理ユーザ) がログアウトしました。	システム	クワイアノット UTC オフセット: UTC+7	admin	システム	
146	5/30/2014 4:37:30 PM	admin (管理ユーザ) がログアウトしました。	システム	クワイアノット UTC オフセット: UTC+7	admin	システム	
145	5/30/2014 4:37:13 PM	admin (管理ユーザ) がログアウトしました。	システム	クワイアノット UTC オフセット: UTC+7	admin	システム	

- 6 印刷パラメーターを設定し、イベントログを印刷します (**[ファイル]** > **[印刷]**)。

イベント ログをエクスポートする

- 1 viewLinc デスクトップから **[オプション]** >  **[イベント]** を選択します。
- 2 ヘッダーの日時ボックスで、日付または時刻を 24 時間形式で入力するか、各ボックスの横のカレンダーアイコンをクリックして選択します。

- 3 日時セレクターの右側の  **[フィルター]** ボックスリストをクリックし、**アラーム、管理、転送**、または**システムイベント**をオン/オフにして、異なるイベントタイプを選択します。
- 4 **[オプション]** >  **[更新]** をクリックします。
- 5 **[オプション]** >  **[Excel にエクスポート]** をクリックします。ファイルダウンロードウィンドウが開き、イベント.tsv ファイル (Microsoft Excel 形式)を開くか保存します。

第 7 章

レポート

Vaisala デバイスで収集される履歴データを使用すると、グラフとレポートを自動的に作成し、特定の期間のデータの変化を分析したり、異なるデバイスで記録された条件を比較できます。

Vaisala Veriteq ロガーの履歴データは設定されたスケジュールでローカル ディレクトリに転送できます。転送されると、レポートのニーズに応じて、データはエクスポートまたは印刷できます。

この章では次のことを説明します。

- レポートのタイプ
- レポートの生成と印刷
- 新しいレポートの作成
- レポートの非アクティブ化と削除
- オンデマンド レポート
- データの転送




レポートのタイプ

viewLinc には、デフォルトレポートがあり、データトレンドまたはアラーム統計を簡単に表示できます。デフォルトまたはカスタムレポートを生成するために、特定の権限は不要です。ユーザーは、アクセス権があるロケーションのレポートを生成できます。

管理者またはレポートの管理権限があるユーザーがカスタムレポートを生成できます。

デフォルトの viewLinc レポート

viewLinc で使用可能な標準レポート

-  **アラームレポート**には、特定の期間のアラームイベントの概要が示されます。すべてのアラームに関連するイベントはグループ化され、読みやすい形式で表示されます。
-  **ロケーション履歴レポート**には、ロケーション値の詳細な履歴が示されます。グラフおよび表形式で表示されます。
-  **システムレポート**には、システム構成、転送スケジュール、使用可能なテンプレートのリストなど、特定のシステム情報の全体的なスナップショットが示されます。また、システムレポートを生成し、現在のユーザーおよびグループ、ロケーション、およびアクセスコントロール詳細を一覧表示できます。

カスタム レポート

カスタムレポート 管理者またはレポートの管理権限を持つユーザー を作成するときには、レポート所有者 レポート修正権限のあるユーザーまたはグループ の情報、データ生成で使用するタイムゾーン、電子メールでレポートを受信するユーザー、レポートを生成するスケジュール、およびレポートの内容 レポートのタイプによって内容 オプションが変わります。

レポートの生成と印刷


ユーザーが生成および印刷できるレポートは [レポート] ウィンドウに一覧表示されます。使用可能なレポート形式を選択し、いつでも生成および印刷ができます。あるいは、管理者によって、設定されたスケジュールに応じて、電子メールでレポートが送信されるように設定されている場合があります。

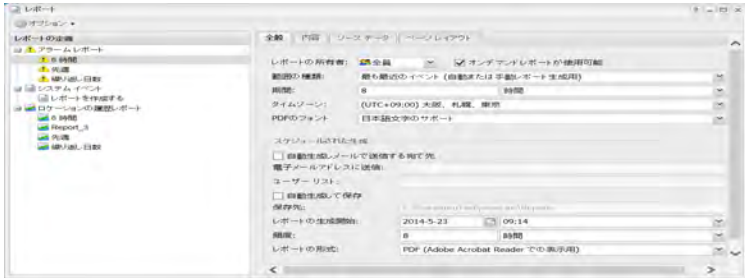
レポートは生成時点で最新の情報です。つまり、[レポート] ウィンドウで表示されるレポート一覧は、レポート [シエル] のリストであり、生成されたデータが入力される前のものです。

Note: また、いつでも使用できるようにレポートを設定し、特定のロケーションへのアクセス権を持つすべてのユーザー (レポート所有者を含む) がオンデマンドレポートを生成できます ([オンデマンドレポート] ページで 143)。

すべての使用可能な生成されたレポートは、[レポート進行状況]ウィンドウで表示できます。


既存のレポートを生成する

- viewLinc デスクトップから、[オプション]>  [レポート] を選択し、[レポート定義] ツリーから生成するレポートを選択します。




レポートパラメーターは、[全般]、[コンテンツ]、[ソースデータ]、および [ページレイアウト] タブに表示されます。

Note: ユーザーまたはグループは作成するレポートのレポートパラメーターまたは所有者アクセス権が付与されたレポートだけを表示できます。



- [レポート定義]> [オプション] メニューから次の項目を選択します。
 - PDF レポートを生成:** アラーム並びにロケーション履歴レポートに利用可能です。このオプションを選択すると、スケジュール生成パラメーターで指定された PDF 設定に従ってレポートが生成されます。
 - Excel にエクスポート:** .tsv 形式でレポートを生成します。
 - レポートを生成してメールで送信:** スケジュール生成パラメーターに従って、PDF ファイルのレポートをユーザー/グループの定義済みリストに対して送信します。
- [レポートの進行状況] ウィンドウには、最近生成されたレポートがレポート一覧の上部に表示されます (レポートの進行状況が自動的に表示されない場合は、タスクバーから開きます )。レポートの生成が完了したら、[進行状況] 列の [レポートのダウンロード] リンクをクリックし、レポートを開くか保存します。

生成されたレポートは、1 時間の間、レポートの進行状況 ウィンドウからダウンロードできます。スケジュールされたレポートは 12 時間使用できるため、オフピーク時間中に生成されたレポートは通常の業務時間に使用できます。

レポートの進行状況の表示

レポートを生成するたびに、レポートの進行状況 ウィンドウが自動的に表示されます。レポートの進行状況 ウィンドウがすでに開いている場合は、現在アクティブなウィンドウの後に隠れたままになります (レポートの進行状況 ウィンドウを開くには、タスクバー  をクリックします)。

レポート進行状況 ウィンドウを開く


- ▶ **[オプション]** >  **[レポートの進行状況]** を選択するか、viewLinc デスクトップ  のレポートの進行状況 アイコンをクリックします。

新しいレポートの作成

新しいアラーム、ロケーション履歴、およびシステムレポートを作成するには 2 つの方法があります。レポート ウィンドウ パラメーター タブを使用して新しいレポートを作成するか、既存のレポート コピーされたレポート を作成します。

アラーム レポートの作成

新しいアラームレポートを作成する

- 1 **[レポート]** ウィンドウで **[オプション]** >  **[新しいアラーム レポート]** を選択します。
- 2 新しいレポート名を入力します。
- 3 **[全般]** タブを入力します。
 - **[レポートの所有者]**: レポートを変更または生成するアクセス権を与えるユーザーまたはグループを選択します。
 - **[範囲の種類]**: レポート期間を初期設定、**[最も最近のイベント]**、特定の日付範囲から選びます。特定の日付範囲を選択すると最初と最後の日付を選ぶためにカレンダーが表示され

ます。このオプションはアラーム並びにロケーション履歴レポートに利用できます。

- **【期間】**：レポートの期間を指定します。最近 8 時間のデータを対象とするには 8 と入力し、ボックスから**【時間】**を選択します。このオプションはアラーム並びにロケーション履歴レポートに利用できます。
- **【タイムゾーン】**：初期設定ではサーバーのタイムゾーンでレポートします。タイムゾーンを特定する場合のみこの値を変更します。異なるタイムゾーンを指定した場合レポート日付、生成スケジュール、印字タイムスタンプの全てが選択されたタイムゾーンに追従します。
- **【PDF のフォント】**：レポート出力のフォーマットを選択します。例えば中国語でレポートを生成する場合、**【中国語サポート】**を選択します。このオプションはアラーム並びにロケーション履歴レポートに利用できます。

4 **【全般】** タブ内の**【スケジュールされた生成】**項目から次のいずれかを選択します：

Note： レポートはマニュアルで逐一生成、または指定したスケジュールで自動生成することができます。

- **【自動生成しメールで送信する宛先】**：レポートを指定されたメールアドレスまたは viewLinc グループに直接送信します。
- **【自動生成して保存】**：指定されたスケジュールでレポートを自動生成し、特定ファイルに保存します：
 - **【保存先】**：レポートの保存先を指定します。
 - **【レポートの生成開始】**：レポート生成開始日時を入力します。
 - **【頻度】**：毎時、毎日、毎週、毎月等レポートの生成頻度を指定します。

例えば、レポートを3日毎の午後11時に生成する場合の入力形式は次のとおりです。

スケジュールされた生成

自動生成レメールで送信する宛て先

電子メールアドレスに送信:

ユーザー リスト:

自動生成して保存

保存先:

レポートの生成開始:

頻度:

レポートの形式:

- 【レポート形式】**: (Acrobat表示用に PDF または Excel 用にタブ区切り)、レポートを自動生成し指定されたファイルへ保存、またはレポートをメール アドレスまたはアドレス リスト(アドレスはカンマで区切る) へ送信します。レポート生成スケジュールと頻度を指定することができます。



Note: データ量の多いレポートはシステム利用ユーザーが少ない時間に生成することをお勧めします。

5 【内容】 タブでレポートの種類に見合ったオプションを選択します:

- 【詳細】**: 概略レポート(アラーム毎に1ライン) または詳細レポート(全てのアラーム アクティビティの詳細を表示) の選択をします。
- 【デバイス アラームを含める】**: レポートに含むデバイス アラームの種類を指定します。
- 【ロケーションしきい値アラームを含める】**: しきい値アラームデータを含める場合はこのオプションを選択します。さらにはアラームまたはアラームと警告といったしきい値のカテゴリを指定します。
- 【システム アラーム】**: システム アラーム情報(しきい値の種類)を含むか否かを選択します。



6 【ソースデータ】 タブで **【全ロケーション】**、**【選択したロケーションとゾーン】** からレポート内容範囲を定義します。

- ゾーン内の全ロケーションを選択する場合はゾーン名のチェックボックスを選択します。
- ゾーン内の特定ロケーションを選択する場合はツリーを展開してロケーションを選択します。

- 7 **【ページ レイアウト】** タブでレポート表示 オプションを指定します。
- **【ページ ヘッダー】/【ページ フッター】** オプション: ヘッダーまたはフッターを表示するページを選択します。ヘッダーまたはフッターの内容設定には該当する**【左ヘッダー/ フッター】**、**【中央ヘッダー/ フッター】**、**【右ヘッダー / フッター】** フィールドそれぞれにテキストを入力します。**【ページ フッター】** フィールドを使って**【署名】** ボックスまたは**【コメント】** ボックスを選択します。
 - **【画像 ファイル】** のドロップ ダウンから既存のアイコンを選択またはアップロードを利用してカスタム アイコンを左の見出しに表示する事ができます。
 - 使用する用紙と印字方向を選択します。
- 8 **【レポート】** ウィンドウから**【オプション】** >  **【保存】**を選択します(未保存の変更がある場合は 感嘆符アイコンが表示されます)。

ロケーションの履歴レポートの作成

新しいロケーションの履歴レポート作成

- 1 viewLinc デスクトップから**【オプション】** >  **【レポート】** を選択します。
- 2 **【レポートの定義】** ツリーで**【オプション】** >  **【新しいロケーションの履歴レポート】** を選択します。
- 3 新しいレポート名を入力します。
- 4 **【全般】** タブを入力します。
 - **【レポートの所有者】**: 入力しているユーザー名が自動的に表示されます。管理者アクセスを許可されていればレポートの変更許可を他のユーザーに与えることができます。ユーザーがリストに表示されない場合はユーザーアカウントの作成が必要となります(「viewLinc へのアクセス コントロール」 ページで 38 を参照)。
 - **【範囲の種類】**: レポート期間を初期設定、**【最も最近のイベント】**、特定の日付範囲から選びます。特定の日付範囲を選択すると最初と最後の日付を選ぶためにカレンダーが表示されます。
 - **【期間】**: レポートの期間を指定します。最近 8 時間のデータのみを対象とするには **8** と入力し、ドロップダウンから**【時間】** を選択します。このオプションはアラーム並びにロケーション履歴レポートに利用できます。

- **【タイムゾーン】**: この値はレポートに特定のタイムゾーン調整が必要な場合のみ変更します。初期設定のままで現在のタイムゾーンでレポート作成します。異なるタイムゾーンを指定した場合レポート日付、生成スケジュール、印字タイムスタンプの全てが選択されたタイムゾーンに追従します。
- **【PDFのフォント】**: レポート出力のフォーマットを選択します。例えば中国語でレポートを生成する場合、**【中国語サポート】**を選択します。このオプションはアラーム並びにロケーション履歴レポートに利用できます。

5 **【全般】** タブ内の **【スケジュールされた生成】** 項目から選択します。

- **【自動生成しメールで送信する宛先】**: レポートを指定されたメール アドレス (viewLinc ユーザー以外も含む) または viewLinc グループに直接送信します。
- **【自動生成して保存】**: 設定したスケジュールに従いレポートのデータを自動的に保存します。
 - **【レポートの生成開始】**: レポート生成開始日時を入力します。
 - **【頻度】**: 毎時、毎日、毎週、毎月等レポートの生成頻度を指定します。
- **【レポート形式】**: PDF (Acrobat 表示用) またはタブ区切り (Excel 用)。レポートを自動生成し指定されたファイルへ保存、またはレポートをメール アドレスまたはアドレス リスト (メール アドレスはコンマで区切る) へ送信する場合に使用されます。レポート生成スケジュールと頻度を指定することができます。

Note: データ量の多いレポートは就業時間外等システム利用ユーザーが少ない時間に生成することをお勧めします。

6 **【内容】** タブでレポートに含まれるデータを指定します。

- **【タイトルページ】**: レポート内容を閲覧できます。
- **【トレンドグラフを含める】**: このオプションを選択するとレポートにデータのグラフが表示されます。

しきい値ライン、統計概要 ([統計の設定] タブで設定) さらに全てのロケーションデータを同一グラフに含める選択ができます(ロケーションデータは測定単位毎に同一グラフに含まれる初期設定となっていま

す)。測定単位を同一グラフ内にまとめる選択ができます(同一グラフには測定単位を最大 4 種類含むことができます)。



- **[インターバル統計グラフを含める]**: レポート内の情報表示定義を指定する場合に選択し、**[統計の設定]** タブでオプションを選択します (手順 7 を参照)。
- **[表データ]**: レポート内の表へのデータ追加を選択します。履歴サンプルを含める選択をした場合、タイムスタンプデータ期間の指定が必要です。さらに指定データ期間に一番近い (5、15、30、60 分毎) 最後のサンプルのタイムスタンプを使用、もしくは期間内でインターバル タイムスタンプに最も近い値を採用のいずれかの選択をします。このオプションはレポート内のロケーションが異なるサンプルレポートを使用している場合に便利です。

7 **【内容】** タブで **【インターバル統計グラフを含める】** オプションを選択した場合次の入力を行います。

- **【一定インターバルでの統計を含める】**: レポート期間中に断続的に統計を生成する設定です。例えば、レポートが7日(週)間隔でデータを生成する場合、**【期間を指定する】** ラジオボックスを選び1日、0時間の指定をすることによって毎日の統計を表示できます。
- **【含める】**: 最大値、平均値、最小値、標準偏差、サンプルカウント等レポートに追加する統計データの種類を選びます。
- **【平均動態温度 (MKT)】**: 活性化エネルギーを KJ/molで指定します。

8 **【ソースデータ】** タブで **【すべてのロケーション】** または **【選択したロケーションとゾーン】** とレポート内容の範囲を定義します。


- ゾーン内の全ロケーションを選択する場合はゾーン名のチェックボックスを選択します。
- ゾーン内の特定ロケーションを選択する場合はツリーを展開してロケーションを選択します。
- 特定ロケーションのデータを強調表示する色指定は色のドロップダウンから選択します。自動設定を選択するとviewLincはデフォルトの色彩から色を選出します。



Note: ロケーションのライン色が**【自動】**に設定されているとviewLincは組み込みのカラーパレット(色彩の順序は176ページを参照)から未使用の色を割り当てます。



レポートに含まれる各ロケーションに対し色の指定を繰り返します。


- **【デフォルトスケーリング】**: グラフの測定範囲の最小と最大値を入力します。
- **【マーカーを表示】**: グラフ内の線に番号を割り当てるオプションです(グラフをカラー出力しない場合に便利です)。

- 9 **【ページ レイアウト】** タブでヘッダー、フッター、用紙サイズ、印字方向を指定します。
 - a ヘッダーまたはフッターを表示するページの設定を全ページ、最初のページのみ、最後のページのみ、最初と最後のページのみ、のオプションから選びます。
 - b ヘッダーまたはフッターの内容設定には左、中央、右のフィールドにテキストを入力、または **【フッター】** フィールドを使用して署名ボックスまたはコメントボックスを選択します。
 - c 使用する用紙サイズと印字方向 (縦または横) を選択します。
 - d ヘッダーの画像選択は **【画像 ファイル】** のドロップダウン (既に使用した画像の場合) または **【アップロード】** ボタンをクリックして新しい画像をアップロードし、**【参照】** ボタンでファイル検索することによって行われます。
- 10 **【オプション】** >  **【保存】** を選択します。

システム レポートの作成

新しいシステム レポートを作成する



- 1 viewLinc デスクトップから **【オプション】** >  **【レポート】** を選択します。
- 2 **【レポートの定義】** ツリーで **【オプション】** >  **【新しいシステム レポート】** を選択します。
- 3 新しいレポート名を入力します。
- 4 **【全般】** タブを入力します。
 - **【レポートの所有者】**: 入力しているユーザー名が自動的に表示されます。管理者アクセスを許可されていればレポートの変更許可を他のユーザーに与えることができます。ユーザーがリストに表示されない場合はユーザーアカウントの作成が必要となります (**viewLinc** への **アクセス コントロール**] ページで **38** を参照) 。
 - **【タイムゾーン】**: この値はレポートに特定のタイムゾーン調整が必要な場合のみ変更します。初期設定のままで現在のタイムゾーンでレポート作成します。異なるタイムゾーンを指定した場合レポート日付、生成スケジュール、印字タイムスタンプの全てが選択されたタイムゾーンに追従します。

- 5 **【全般】** タブ内の **【スケジュールされた生成】** 項目から選択します。
 - **【自動生成しメールで送信する宛先】**: レポートを指定されたメール アドレス (viewLine ユーザー以外も含む) または viewLine グループに直接送信します。
 - **【自動生成して保存】**: 設定したスケジュールに従いレポートのデータを自動的に保存します。
 - **【レポートの生成開始】**: レポート生成開始日時を入力します。
 - **【頻度】**: 毎時、毎日、毎週、毎月等レポートの生成頻度を指定します。
- 6 **【オプション】** >  **【保存】** を選択します。

既存のアラーム、ロケーション、またはシステム レポートのクローズ

既存のレポートに類似している新しいレポートを定義する場合は、時間を節約して、レポートのクローン機能を使用します。

既存のレポートをコピーする

- 1 **【レポート】** ウィンドウでコピーするレポートを選択します。
- 2 **【オプション】** >  **【レポートのクローン】** を選択します。
- 3 必要に応じて、レポートパラメーターを修正します。
- 4 新しいレポート名を割り当てるには、タイトルを右クリックし、テキストを編集可能にして、レポート名を入力します。
- 5 **【オプション】** >  **【保存】** を選択します。


新しいレポートが保存され、レポートリストにアルファベット順に表示されます。

レポートの非アクティブ化と削除


レポートは非アクティブ化するか、完全に削除できます。レポートを非アクティブ化すると、レポートが使用できなくなるか、特定の期間で自動生成されなくなります。

レポートが不要な場合は、レポートを削除します。


レポートを非アクティブ化する

- 1 **[レポート]** ウィンドウで、**[レポート定義]** ツリーから削除するレポートを選択します。
- 2 **[オプション]** >  **[レポートの非アクティブ化]** を選択します。

レポートを再アクティブ化する

- 1 **[レポート]** ウィンドウで **[オプション]** > **[非アクティブ化されたレポートの表示]** を選択します。
- 2 **[レポート定義]** ツリーから再アクティブ化するレポートを選択します。
- 3 **[オプション]** >  **[レポートの再アクティブ化]** を選択します。

使用しないレポートを完全に削除する


- 1 **[レポート]** ウィンドウで削除するレポートを選択します。
- 2 **[オプション]** >  **[レポートの完全削除]** を選択するか、メニューを右クリックします。
- 3 **[はい]** をクリックして確認します。

オンデマンドレポート


オンデマンドレポートを設定すると、任意のロケーションをデータソースとして使用し、**[ロケーション]** ウィンドウからすばやくレポートを生成できます。

管理者、レポートの管理権限が割り当てられたユーザー、およびレポート所有者は、他のユーザーがオンデマンドでアクセスできるレポートを指定できます。

他のユーザーがオンデマンドレポートを使用できるようにする

- 1 **[レポート]** ウィンドウで、**[レポート定義]** ツリーからレポートを選択します。
- 2 **[全般]** タブで、**[オンデマンドレポートとして使用可能]** を選択します。
- 3 **[オプション]** >  **[保存]** をクリックします。

オンデマンドレポートを生成する

- 1 **[ロケーション]** ウィンドウで、ロケーションまたはゾーンを選択します。
- 2 **[オプション]** >  **[オンデマンドレポート]** を選択 (または右クリックメニューを使用) し、使用可能なレポートを選択します。

- 3 出力方法を選択します。レポートを電子メールで送信する場合は、**[レポートを生成して電子メールで送信]** ウィンドウを入力します。
 - レポート形式を選択します。
 - 受信者の電子メールアドレスと、レポート送信先の viewLinc ユーザーまたはグループを入力します。
 - その他のメモを **[件名]** および **[本文]** フィールドに追加できます。
- 4 **[OK]** をクリックします。

データの転送

viewLinc のデバイス履歴を表示する他に、Vaisala Veriteq デバイスデータを転送し、レポートを表示および生成し、外部スプレッドシートプログラムまたは他のデータ分析ツールにエクスポートできます。

レポートで転送データを使用する

便宜上、システム管理者は viewLinc を設定し、設定されたスケジュールに従って Vaisala Veriteq デバイスデータを自動的に転送することができます。これで、追加レポートニーズのデータを使用できます (.xls スプレッドシート)。

転送は事前に予定できるため、転送実行時に待機する必要はありません。データ転送のスケジュールの頻度に関係なく、デバイスのデータは影響を受けず、無限またはデバイスのメモリ容量に達するまで記録されます。

転送データを使用するタイミング




Vaisala Veriteq デバイスデータをバックアップ目的で定期的に転送し、メモリが満杯になることによるデータの上書きを防止することをお勧めします。データの上書きを回避するために、各デバイスが viewLinc で検出される時 (viewLinc システムの設定中) に、すべての Vaisala Veriteq デバイスにはデフォルトの転送スケジュールが割り当てられています。転送スケジュールは 7 日間有効にしてスケジュールできます。ただし、期間が終了する前に、デバイスがストレージ容量に達することが予測される場合は、この期間を調整し、データが失われないようにすることができます。

Note: デバイスデータのストレージ容量の管理については、デバイス固有のユーザーガイドを参照してください。

転送スケジュールの作成

Vaisala Veriteq デバイスの転送スケジュールを作成する

Note: 管理者またはデバイス管理権限が必要です。

- 1 viewLinc デスクトップ メニューから[オプション]>  [システム構成]>  [転送]を選択します。
- 2 [転送] ウィンドウで、[オプション]>  [新しい転送] を選択します。
- 3 デバイス転送プロパティウィンドウの全般領域で、この転送を有効にするを選択し、次のフィールドを入力します。
 - **デバイス:** フィールドをクリックし、転送を設定するロガーを選択します。
 - **メール通知の宛て先:** 転送が失敗した場合に、通知を受信するユーザーの電子メールアドレスを入力します。単一のメールアドレス、カンマ区切りのメールアドレスのリスト、またはIT管理がメールサーバーに作成した配布リストを選択できます（「システム環境設定の選択」ページで 27を参照）。
 - **コメント:** この転送に関連付ける特定のコメントを入力します。目的、電子メール通知の送信先などです。
- 4 メールサーバー設定が正しいことを確認します。「システム環境設定の選択」ページで 27を参照してください。
- 5 スケジュール領域で、転送スケジュール間隔と開始日/終了日を選択します。

例えば、2013-11-21 11:55 PMからデータ転送を7日ごとに設定できます。次のようになります。

6 宛先領域で、次のフィールドを入力します。

- **宛先:**保存データの宛先ディレクトリを選択します(マッピングされたドライブパスは使用しないでください)。
- サンプルディレクトリパス: `c:\Device_files` または `\\<machinename>\<destination_dir>`。`viewLinc` ホストサーバーのディレクトリ(`c:\<destination_dir>`)を使用することをお勧めします。

Note: データ転送中は、有効なユーザー名とパスワードを入力し、ファイルを対象ディレクトリまたは共有ディレクトリに保存するように指示される場合があります。また、`viewLinc` がインストールされたアカウント(`viewLinc Enterprise Server` サービスを実行)に、転送データを送信するディレクトリに書き込むために十分な権限があることを確認する必要があります。`viewLinc` のサービスについては、「FAQ およびトラブルシューティング」ページで 159 を参照してください。

- **フィールド 1/2/3:** 転送ファイル名を構成する3つのフィールドを特定する順序を指定します。`.spl` ファイルのファイル名は、デバイス説明、シリアル番号、ファイルの保存日時を組み合わせて作成されます。

例えば、`Device ID-08094523-2011-04-22 16-30-01.spl`です。

- 7 転送が完了したことをテストするには、**すぐに転送**をクリックします。
Windows エクスプローラーを使用して、指定ファイル場所にデータファイルが転送されたことを確認します。
- 8 **保存**をクリックして、スケジュール転送の設定を保存します。

Note: システム環境設定からコメントを有効にする場合は、[コメントの追加]ウィンドウが表示されます。事前構成済みコメントを選択するか、独自の情報を入力します。設定した各デバイスのスケジュール転送に関する情報を含む行がイベントログに表示されます。

即時データ転送の実行




スケジュール転送が期限になる前、おそらくログメモリの実行率が低くなったというアラームを受信した後に、即時転送を開始しなければならない場合があります。

即時データを転送する

- 1 「転送スケジュールの作成」ページで 145の手順1〜8に従い または既存の転送スケジュールを編集、**すぐに転送**をクリックします または右クリックメニューを使用します。データがただちに転送されます。
- 2 **保存**をクリックしてスケジュール転送設定を保存するか、**キャンセル**をクリックして閉じます。

転送スケジュールの編集

スケジュール転送を編集する



- 1 viewLinc デスクトップから[オプション]>  [システム構成]>  [転送]を選択します。
- 2 編集するスケジュール転送を含む行を選択します。
- 3 [オプション]>  [転送の編集] をクリックします。
- 4 デバイス転送プロパティ画面が表示されます。必要に応じて、転送詳細を編集します。
- 5 [保存] をクリックします。

転送スケジュールの非アクティブ化

デバイスが非アクティブ化されると、すべての関連付けられた転送が自動的に非アクティブ化されます。ただし、特定の転送スケジュールをデバイスに関係なく非アクティブ化できます。


非アクティブ化された転送は自動的にビューに表示されなくなります。

スケジュール転送を非アクティブ化する




- 1 **[転送]** ウィンドウを開きます (viewLinc デスクトップ **[オプション]** >  **[転送]**)。
- 2 非アクティブ化するスケジュール転送を含む行を選択します。列見出しをクリックしてアルファベット順の昇順または降順に並べ替えます。
- 3  **[転送の非アクティブ化]** をクリックするか、右クリックメニューを使用します。
- 4 非アクティブ化を確認するには、**[はい]** をクリックします。

正しい転送を非アクティブ化したことを確認するには、**[オプション]** > **[非アクティブ化されている転送の表示]** を選択します。すべての非アクティブ化された転送は、灰色のテキストで表示されます。

転送スケジュールの無効化

転送スケジュールを一時的に非アクティブ化するときには、転送スケジュールを無効にします。無効な転送はビューに表示され、 が表示されます。

スケジュール転送を一時的に無効にする

- 1 viewLinc から**[オプション]** >  **[システム構成]** >  **[転送]** を選択します。
- 2 **[転送]** ウィンドウで、編集するスケジュール転送を含む行を選択します。
- 3 **[オプション]** >  **[転送の編集]** をクリックします。
- 4 **[デバイス転送プロパティ]** 画面で、この転送を有効にするオプションをオフにします。
- 5 **[保存]** をクリックします。

第 8 章

リモートおよびモバイル ディスプレイ

viewLincのタッチスクリーン機能では、リモートディスプレイ端末またはモバイルデバイスを使用して、viewLinc を表示してアクセスできます。

- **リモートディスプレイ:**特定の監視環境で便利な場所にある視覚表示を設定します。リモートモニターは、完全なワークステーション (タワーまたはキーボード付き) をセットアップする必要がなく、大規模な視覚表示が必要な領域に最適です。

Note: 表示目的でのみ、viewLinc は POS 端末もサポートしません。

- **モバイル ディスプレイ:** スマートフォンまたはタブレットから主要な監視と受信確認タスクを実行します。

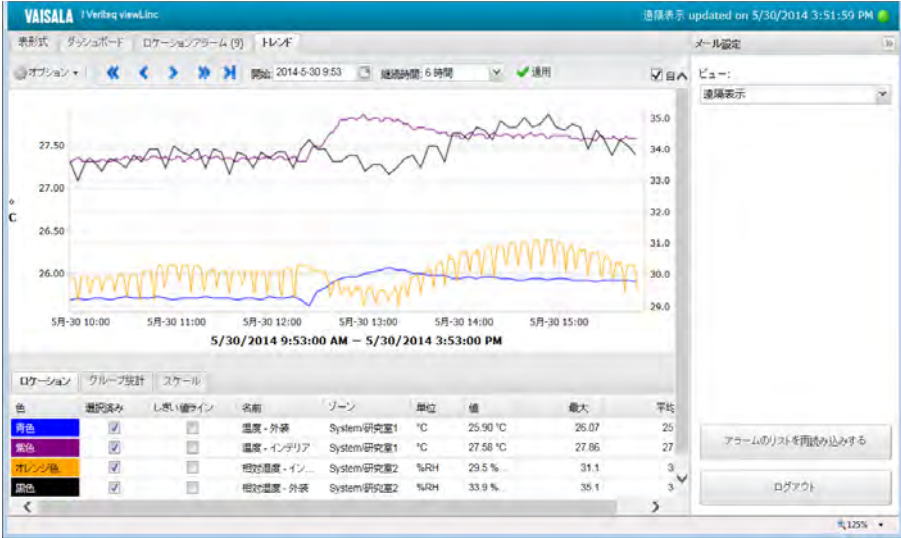
Apple® iOS 3+ および Android® 2.1+ から viewLinc Mobile UIにアクセスできます。

この章では次のことを説明します。

- リモート表示の使用
- viewLinc Mobileの使用
- viewLinc Mobile でのデータの表示

リモート表示の使用

可視性を上げるために監視情報を表示する領域については、タッチスクリーンディスプレイ端末で、すべてのワークステーションまたはデスクトップ設定を使用せずに、設定できます。



リモートディスプレイ画面には、ロケーションナビゲーションツリーがありませんが、**ロケーション**ウィンドウと同じ情報が表示されます。監視で使用できるロケーションは、初期ログインで選択されたデフォルトビューで定義されます。

リモートディスプレイ要件

リモートディスプレイ 特定のラボで簡単に表示できる端末を設定する場合などを設定する前に、ディスプレイが**Windows**を実行していることを確認 [viewLinc システム要件] ページで **6**を参照 し、有線キーボードに接続するか、オンスクリーンキーボードを表示できます。

すべてのviewLincユーザーはリモートディスプレイにログインできますが、表示されるデータはユーザーアカウントに割り当てられた表示およびアクセスコントロール設定によって定義されます。デフォルトリモートディスプレイユーザービューを作成すると、リモートディスプレイに表示可能な項目を定義できます。

Note: ビューを変更するには、異なるビューオプションの別のユーザーで ログインします [リモートディスプレイビューの変更] ページで **152**ページを参照 。

デフォルトユーザーとビューの作成

管理者はリモートディスプレイのデフォルトログとしてユーザーアカウントを設定できます。管理者は、表示可能なロケーション、およびアラームを受信確認できるかどうかを定義します。リモートディスプレイに表示される唯一の viewLinc ウィンドウは、ロケーションウィンドウです。

リモートディスプレイでユーザーが割り当てたビューを設定する

- 1 デフォルトユーザーアカウントを作成する
 - a **[システム構成] > [ユーザー]** ウィンドウで、新しいユーザー（リモートディスプレイユーザーなど）を作成します。
 - b ユーザーをグループに割り当てないでください。
 - c 権限をユーザーに割り当てないでください。
- 2 ユーザーアクセスコントロールを割り当てる
 - a **[ロケーションマネージャー]** ウィンドウで、端末に表示する上位レベルのゾーンを選択します。次に、**[ロケーションプロパティ] > [アクセスコントロール]** タブで、**[オプション] > [追加]** を選択します。
 - b デフォルトユーザーアカウントを指定し、必要なアクセス権を割り当てます。端末をデータを表示するためだけに使用する場合は、**[表示]** を選択します。アラームの表示と受信確認で使用する場合は、**[アラームの受信確認]** を選択します。
 - c ユーザーがすべての継承されたロケーションにアクセスできることを保証するには、**[すべての子がアクセス許可を継承する]** オプションをオンにします。

viewLinc ビューの作成手順については、「ユーザー固有のビューの設定」ページで 84 を参照してください。

リモートディスプレイの設定

リモートタッチスクリーンディスプレイ端末を設定する

Note: リモートディスプレイを設定するには、viewLinc 管理権限が必要です。サポートが必要な場合は、IT ネットワーク管理者に問い合わせてください。

- 1 **viewLinc Server** では、端末に表示するビューへのアクセス権があるユーザー アカウントを作成したことを確認してください。
- 2 リモートディスプレイ端末では、**Windows** アカウントを作成し、自動ログオンを作成します (例:
<http://support.microsoft.com/kb/324737>)。
- 3 **Windows** スタートアップ フォルダーで、サポート対象ブラウザへのデスクトップ ショートカットを作成します (「**viewLinc** システム要件」ページで 6)。これによって、ユーザーのログイン時にブラウザが自動的に起動します。
- 4 **Windows** 更新を無効にし、ディスプレイ画面がポップアップしないようにします。
- 5 端末ブラウザを起動し、デフォルトのホームページを **viewLinc** アドレスに設定します。末尾には **/display** を指定します (例:
<http://viewlinc.com/display>)。
- 6 リモート端末ブラウザを設定し、全画面モードで操作します (**[F11]**を押す)。
- 7 リモートユーザー アカウント名とパスワードを使用して、**viewLinc** リモートディスプレイ アプリケーションにログインし、ビューを選択します。

これらの設定は、ユーザーがディスプレイ アプリケーションからログアウトするまで記憶されます。

何らかの理由でディスプレイが再起動した場合、**Windows** 自動ログオン設定によって、ブラウザが自動的に再起動し、前回のユーザーがログインします。


リモートディスプレイビューの変更

リモート端末に表示されるビューを変更するには、現在ログインしているユーザーに割り当てられている異なるビューを選択するか、新しいユーザーでログインします。

端末表示ビューを変更する

- 1 **viewLinc** リモート表示で、**[設定]** パネルを展開します (必要に応じて **⏪[展開]** アイコンをクリックします)。
- 2 **[ビュー]** ボックスで、別のビューを選択します。
表示が自動的に新しいビューに更新されます。

新しいユーザーとしてログインする

- 1 viewLinc リモート表示で、**[設定]** パネルを展開します (必要に応じて  [展開] アイコンをクリックします)。
- 2 **[ログアウト]** をクリックします。
- 3 viewLinc ログイン画面で、新しいユーザーでログインします。
- 4 このユーザーが使用できるビューのリストからビューを選択します。
表示が自動的に新しいビューに更新されます。

リモートディスプレイのデータの表示

すべてのviewLinc機能は、ユーザーがデスクトップビューで検索できるように、リモートディスプレイで使用できます。

表形式、ダッシュボード、ロケーションアラーム、および**トレンドタブ**の詳細については、「ロケーション ウィンドウの操作」ページで **86**を参照してください。


アラームの受信確認の詳細については、「アラームの表示と受信確認」ページで **116**を参照してください。

viewLinc Mobileの使用

チームメンバーがviewLincネットワークから離れている場合でも、ユーザーはviewLinc Mobileでデータにアクセスし続けることができます。

サポート対象のモバイルデバイスを使用して、モバイルデバイスでインターネットブラウザーを使用して、viewLinc IPアドレスを入力します。

viewLinc Mobileを初めて起動する

- 1 モバイルデバイス  でインターネットブラウザーを起動します。
- 2 viewLinc IPアドレス/**mobile**を入力します 例: **##.###.##.##/mobile** 。
- 3 viewLincユーザー名とパスワードでログインします。
- 4 表示する言語を選択します。英語以外の言語に変更すると、ページが自動的に更新され、新しい言語が表示されます。

viewLinc Mobile でのデータの表示

ログイン後に表示される初期画面は、**[ロケーション]** ウィンドウナビゲーションツリーです。

ゾーンの名前をタップしてその下のロケーションを表示し、左上の**[オプション]**メニューを押して使用可能なコマンドを表示します。



3つの選択可能なビューがあります。

[ロケーションパネルビュー]: デフォルトビュー。このビューを使用して、ポップアップトレンドを表示し、ポップアップトレンドグラフ設定を変更し、アラームを受信確認します。ロケーションがタップされると、内容ビューが展開します。

- フォルダーに移動するには、**viewLinc** をタップします。[戻る]ボタンを使用しないでください。ブラウジングセッションが終了します。
- ロケーションの詳細については、ロケーションを選択し、**[オプション]> [ポップアップトレンド]** を選択します。

Note: ポップアップトレンドが表示されない場合、モバイルデバイスがポップアップをブロックしないように設定されていることを確認してください。

[ロケーションテーブルビュー]: [ロケーション]パネルビューから選択されたロケーションの、詳細なロケーション情報を表示します。



- フォルダーを上に移動するには、**ロケーションパネルビュー**アイコンを選択します。**[戻る]**ボタンをタップしないでください。ブラウザーが終了し、再ログインが必要になります。
- ロケーション情報を表示するには、ロケーションを選択し、ダブルタップして詳細を表示します。Xをクリックすると、前の画面のビューに戻ります。

⚠️ アラームグリッドビュー: ロケーションパネルビューから選択されたロケーションのアラーム情報を表示します (あるいは、何も選択されていない場合は、すべてのロケーションアラーム)。

- アクティブなアラームがあるロケーションだけが、モバイルデバイスに表示されます。たとえば、アラームグリッドを押したときにシステムレベルの場合、システムのすべてのアクティブなアラームがあれば表示されます。

ポップアップトレンドを表示する

Note: モバイルデバイスでポップアップトレンドを表示する前に、ポップアップをブロックするデバイスオプションが無効になっていることを確認します。詳細については、特定のデバイスユーザーガイドを参照してください。

- 1  **ロケーションパネルビュー**アイコンをタップし、特定のロケーションに移動 (ゾーンフォルダーを開く必要がある場合があります) し、ロケーションを選択します ()。
- 2 **[オプション] > [ポップアップトレンド]** をタップします。[ポップアップトレンド] ウィンドウが表示されます。



このウィンドウは、デスクトップのポップアップトレンドウィンドウと同じボタンとチェックボックスで制御できます。「トレンドビューの操作」ページで [90](#) を参照してください。

viewLinc モバイルでアラームの受信確認を行う

デスクトップに表示されたロケーションのアラームの受信確認する権限がある場合、同じアラームをリモートで受信確認することもできます。


アラームの受信確認を行う

- 1 ⚠️ [アラーム] ボタンをタップします。
- 2 受信確認対象のアラームをハイライトします。
- 3 [オプション]>[受信確認] をタップします。

実行された処理、事前設定済みコメント(必要な場合)、およびその他ユーザー コメント(必要な場合)を入力するウィンドウが表示されます。

- 4 必須情報を入力して [受信確認] をタップします。

モバイルの UI からアラームの一時停止または再開を行う

- 1 デフォルトのロケーション ツリー ビューで  [ロケーション テーブル] ビューをタップします。
- 2 アラームを一時停止または再開するロケーションを選択し、[オプション] をクリックします。
- 3 [X アラームを一時停止] または [X アラームを再開] をタップします。(X はしきい値、ホスト、デバイス等 コントロール対象となるアラームのタイプとします)。



- 一時停止されたアラームは 1 時間停止します。
- 1時間以内にアラームを再開する場合は上記手順を繰り返し **[X アラームを再開]**を選択します。

FAQ およびトラブルシューティング

このセクションでは、一般的な設定に関する質問に対する回答と、viewLinc、Vaisala Veriteq デバイス、および vNet または Digi デバイスの一般的な問題を解決するための情報について説明します。また、viewLinc 管理者およびネットワーク サポート スタッフのための技術情報も含まれています。

viewLinc のインストール

質問: どの変換器をviewLinc アラームで使用できますか。

回答: サポートされている 300 Series変換器は以下のとおりです。

- HMT-331, -332, -333, -334, -335, -337, -338
- DMT-342, -344, -345, -346, -347, -348
- PTU-301, -303, -307
- MMT-332, -337, -338

質問: 4.3に更新するための最低viewLincバージョンはどれですか。

回答: viewLinc 3.6.1 が viewLinc 4.3に直接アップグレードできる公式の最低バージョンです。前のバージョンからアップグレードする場合は、先に3.6.1にアップグレードする必要があります。

質問: どのようにviewLincはviewLinc アラームで使用するデータをアップグレードしますか。

回答: 既存のバージョンを自動的に検出し、データを変換します。viewLinc アラームをインストールするときに透過的に実行されています。

データは次のように処理されます。

- 1 新しい上位のゾーンはゾーン構造に基づいて作成されます。また、上位のゾーンの「未割り当て」が未割り当てのゾーンに対して作成されます。
- 2 ロケーションはすべてのアクティブなチャンネルに対して作成されます。ロケーション名はチャンネルの優先説明からコピーされます。複数のゾーンに割り当てられた重複チャンネルは無視されます。
- 3 初期バージョンがユーザー構成を制限している場合、viewLinc 4.3 アクセスコントロール許可が適用されます。
 - a すべてのユーザーはグループ**全員**に割り当てられます。
 - b グループ**全員**には上位ゾーンで表示権限を割り当てられています。
 - c 制限されたユーザー: 以前に許可されたゾーンへのアクセスがある場合、履歴権限レベルが自動的に割り当てられます。以前に許可されたチャンネルへのアクセスがある場合、履歴権限レベルが自動的に割り当てられます。
 - d ユーザーは履歴権限に基づいてグループに割り当てられます。
 - e 標準ユーザー: 自動的にアラーム受信確認権限が割り当てられます。
 - f オペレーター: 自動的にしきい値構成権限が割り当てられます。
 - g 管理者: 自動的にアラーム構成権限が割り当てられます。
 - h 全員: 自動的にすべてのロケーションの表示権限が割り当てられます。
 - i フルコントロールのユーザーは自動的にデフォルトの管理者グループに追加されます。
- 4 アクティブなチャンネルで構成されたしきい値は新しいロケーションに適用されます。
- 5 レポートはアップグレードされ、新しいロケーション/ゾーンからデータを取得します。
- 6 POSディスプレイはアップグレードされ、新しいロケーションからデータを取得します。

質問: どのように **viewLinc 4.3**を新しいサーバーにインストールし、すべてのデータと設定を古いサーバーコンピューターから転送しますか。

回答: viewLincバージョン 3.6.1以上の推奨手順は以下のとおりです。

- 1 ウォッチドッグとviewLincサービスを停止します。
- 2 viewLinc4.3を新しいサーバーにインストールします。すべてのデフォルト設定とデータファイルの場所を使用します。
- 3 初期バージョンのデータファイル場所については、古いバージョンの管理者ガイドを参照してください。**XXX** の下のすべてのファイルが削除されます。
- 4 コピー:
 - a db\フォルダーのファイルがVaisala\Vaisala Veriteq viewLinc\dbにコピーされます
 - b log フォルダーのファイルがVaisala\Vaisala Veriteq viewLinc\logにコピーされます。ただし、Vaisala\Vaisala Veriteq viewLinc\log\debug フォルダーのファイルとlogwatchdog*. * というファイルは除きます。
 - c Vaisala\Vaisala Veriteq viewLinc\ フォルダーのすべてのレポートおよび転送 フォルダー。
- 5 Vaisala\Vaisala Veriteq viewLinc\config\viewlinc.cfg ファイルを開き、**level = debug** ([logging] セクション)を設定します。
- 6 viewLinc を再起動して、アップグレードを確認します。開始するまでに数分かかる場合があります。
- 7 ログインし、**オプション**] > **[システム構成]** > **[環境設定]**を選択します。[環境設定]ウィンドウで、技術サポートログを**情報**に設定します。
- 8 **[オプション]**] > **[保存]**を選択します。

質問: どのようにしてviewLinc Web サーバーのSSLセキュリティを構成しますか。

回答: viewLinc Web を有効にするには、次の手順が必要です。

新しいインストールのSSLポートを設定する

初めてインストールすると、インストールウィザードによってWebサーバーの情報を入力します。

モードを選択する

- Webサーバーは**セキュアモード**、**非セキュアモード**または**両方**で実行できます。
- デフォルトポートが適用されます(**80** = 非セキュア、**443** = セキュア)。
- デフォルトポートが使用できない場合、代替ポート番号を指定します。

既存のインストールのSSLポートを設定する

構成ファイルにはポート番号があります。このファイルは <datadirectory>\config\viewlinc.cfg にあります。

次セクションにはポートが記載されています。

```
[web]
port=80
https_port=443
```

1 ポートを設定します。

- **port** をゼロ **0** に設定すると、非セキュアアクセスが無効になります。
- **https_port** をゼロ **0** に設定すると、セキュアアクセスが無効になります。

Note: デフォルトの**80**および**443**が推奨されます。

2 viewLinc サービスを再起動します。

SSLセキュリティを設定する

viewLincにはデフォルトセキュリティ鍵があります。デフォルトセキュリティ鍵はテストおよび初期検証用であり、ライブシステムでは使用しないでください。<<viewLincの使用前に、デフォルトセキュリティ鍵を自己署名鍵または認証機関の署名鍵で交換する必要があります。

この例は、オープンソースツールのOpenSSLを使用して、セキュリティ鍵ファイルを生成します。使用できない場合は、ダウンロードしてインストールする必要があります。最初にIT部門に確認してください。

<http://www.slproweb.com/products/Win32OpenSSL.html>

- 1 証明書とセキュリティ鍵ファイルを次のフォルダーで見つけます。

- <datadirectory>\config\keys\viewlinc.key
- <datadirectory>\config\keys\viewlinc.crt

Note: これらのファイルはそのままにします。同じような名前のファイルと置換しないでください。

ファイル名は起動時に読み込まれ、viewlinc.cfg構成ファイルにあります。

```
<datadirectory>\config\viewlinc.cfg
```

```
[web]
```

```
privatekeyfile = viewlinc.key
```

```
certificatefile = viewlinc.crt
```

独自のファイルを作成したら、viewlinc.cfgのエントリを修正する必要があります。

セキュリティ鍵と自己署名証明書を作成する

セキュリティ鍵名はサーバーのドメイン名です。サーバーにアクセスするURLが<https://viewlinc.bigpharma.com/>の場合、ファイル名は次のとおりです。

- viewlinc.bigpharma.com.key
- viewlinc.bigpharma.com.crt

- 1 秘密鍵を作成します。次のコマンドで作成されるファイルには、RSA秘密鍵が含まれます。

```
openssl genrsa -out viewlinc.bigpharma.com.key 2048
```

- 2 証明書署名要求 CSR ファイルを作成します。

Note: このファイルには証明書要求詳細があり、viewLincでは必要ありません。セキュリティ鍵生成手順の中間手順でしかありません。

- 3 構成ファイルSSLConfig.txtを作成します。

例:

```
[ req ]
```

```
distinguished_name= req_distinguished_name
```

```
prompt = no
```

```
[ req_distinguished_name ]
```

```
countryName = CA
```

```
stateOrProvinceName = British Columbia
```

```
localityName = Vancouver  
organizationName = Big Pharma Inc.  
organizationalUnitName = Big Pharma Unit  
commonName = viewlinc.bigpharma.com  
emailAddress = support@bigpharma.com
```

- 4 次のコマンドを実行します。

```
openssl req -new -key viewlinc.bigpharma.com.key  
-out viewlinc.bigpharma.com.csr -config  
SSLConfig.txt
```

- 5 証明書 CRT ファイルを作成する

Note: このファイルには署名された証明書があります。

```
openssl x509 -req -days 365 -in  
viewlinc.bigpharma.com.csr -signkey  
viewlinc.bigpharma.com.key -out  
viewlinc.bigpharma.com.crt
```

- 6 viewlinc.bigpharma.com.crt、viewlinc.bigpharma.com.keyを config\keys フォルダにコピーします。viewlinc.cfgを新しい名前でも更新する必要があります。
- 7 viewLincを再起動します。HTTPS Webサーバーは新しいSSL証明書ファイルで使用できます。

認証機関で署名された鍵と証明書を作成する

Note: 鍵名はサーバーのドメイン名です。サーバーにアクセスするURLがhttps://viewlinc.bigpharma.com/の場合、ファイル名はviewlinc.bigpharma.com.keyおよびviewlinc.bigpharma.com.crtです。

- 1 秘密鍵を作成します。次のコマンドで作成されるファイルには、RSA秘密鍵が含まれます。

```
openssl genrsa -out viewlinc.bigpharma.com.key  
2048
```

- 2 証明書署名要求 CSR ファイルを作成します。

Note: このファイルには証明書要求詳細があり、viewLincでは必要ありません。

- 構成ファイルSSLConfig.txtを作成します。

```
[ req ]
distinguished_name= req_distinguished_name
prompt = no
[ req_distinguished_name ]
countryName = CA
stateOrProvinceName = British Columbia
localityName = Vancouver
organizationName = Big Pharma Inc.
organizationalUnitName = Big Pharma Unit
commonName = viewlinc.bigpharma.com
emailAddress = support@bigpharma.com
```

- 次のコマンドを実行します。

```
openssl req -new -key viewlinc.bigpharma.com.key -out
viewlinc.bigpharma.com.csr -config SSLConfig.txt
```

- 証明書 CRT ファイルを作成するファイルは認証機関に送信する必要があります。これはIT部門またはThawte や Symantecなどの商業CAのことがあります。CAは署名済みの信頼できる証明書ファイル viewlinc.bigpharma.com.crtを生成します。

- viewlinc.bigpharma.com.crt、viewlinc.bigpharma.com.keyを config\keys フォルダにコピーします。viewlinc.cfgを新しい名前でも更新する必要があります。

- viewLincを再起動します。HTTPS Web サーバーは使用できます。

viewLincに接続する

前の例では、URL接続は次のとおりです。

```
https://viewlinc.bigpharma.com/
```

あるいは、ポート2443がデフォルトの代わりに使用された場合

```
https://viewlinc.bigpharma.com:2443/
```

証明書ファイルがCAで署名された場合、viewLincログインページが表示され、サイトが信頼できます。自己署名証明書の場合、ブラウザで警告が表示されます。サイトに続行し、クライアント証明書をインストールできます。ブラウザでは常に信頼できない警告が表示されます。

便利な診断コマンド:

- ▶ これらのコマンドを実行し、出力を比較します。

```
openssl req -noout -modulus -in
viewlinc.bigpharma.com.csr | openssl md5

openssl rsa -noout -modulus -in
viewlinc.bigpharma.com.key | openssl md5

openssl req -noout -modulus -in
viewlinc.bigpharma.com.csr | openssl md5
```

ファイルが関連する場合、出力は同じです。

- ▶ このコマンドを実行し、**viewLinc**に接続し、証明書情報を表示します。

```
openssl s_client -connect
viewlinc.bigpharma.com:443
```

Note: 最低要件はOpenSSL 0.9.8h-1以上です。

質問: どのようにして、スマートフォンに**VPN**アクセスがない場合にモバイルアプリケーションを使用できますか。

回答: IT部門にCMSサーバーの内部アドレスのポート転送を設定するように依頼し、CMSが使用するように設定されたTCPポートを指定します。このポートはviewLinc.cfgファイルで変更できます。

```
[web]
# セキュアではない(http) 通信のポート
port = 80
# セキュアな(https) 通信のポート
https_port = 443
```

この変更の後はサービスの再起動が必要です **[オプション]> [システム構成]> [環境設定:オプション]> [viewLinc サービスの再起動]**。

質問: モバイルアプリケーションをオフにできますか。

回答: viewLinc.cfgファイルにはモバイルアプリケーションを有効/無効にするためのエントリがあります。mobile_agent_idsの行の先頭に#を付けます。例: #mobile_agent_ids

質問: どのようにして **viewLinc 4.0** から **viewLinc 4.3** にアップグレードするときに鍵ファイルを保持しますか。

回答: viewLinc 4.0にはインストールバグがあります。このバージョンでは、viewLincはこのロケーションから鍵ファイルをロードします。

```
<installdir>\Python\Lib\site-packages\viewline\config\keys
```

交換鍵ファイルを作成するときには、常に上記のフォルダーとドキュメントフォルダーに置きます。

```
<datapath>\config\keys
```

鍵は両方の場所に置く必要があります。viewLincのアップグレードによって、<installdir>\Pythonフォルダーツリーが破損し、鍵ファイルが削除されるためです。viewLinc 4.3 は正しい場所を使用するため、フォルダーの鍵ファイルがあります。

質問: viewLincのファイアウォールをどのように構成しますか。

回答: viewLincにはドメインとプライベートネットワークに追加された例外があります。例外はパブリックネットワークに追加されません。これが必要な場合、手動で追加する必要があります。ヘルプが必要な場合は、Vaisala技術サポートまでお問い合わせください。

デバイスの設定

質問: ネットワークは、**Vaisala Veriteq デバイス、300 Series、および HMT140 Wi-Fi データロガー**を組み合わせで使用します。どのようにして簡単に追加できますか。

回答: 複数の変換器またはデバイスと変換器の組み合わせを一度に追加するには、各行に1つのデバイスまたは変換器が定義された.txt定義ファイルを作成します。デバイスクラスとデバイスプロパティを識別するフィールドを追加します(各フィールドはタブ区切り)。

VCOM タイプのデバイス (Vaisala Veriteq デバイス) を設定するには、デバイスが接続されているCOMポート番号を定義します。例:

```
vcom com_port=101
```

```
vcom com_port=102
```

```
vcom com_port=103
```

HMT330 タイプのデバイス (300 Series 変換器) を設定するには、次の情報を定義します。

- `sample_rate` = デバイスの内部サンプリングレート
- `timeout` = 通信イベントのタイムアウト
- `connection` = 接続、COM ポート、またはTCP のタイプ
- `com_port` = デバイスが接続するCOM ポート番号 (COM ポート接続の値はユーザー定義です)
- `serialno` = デバイスのシリアル番号
- `udp_port` = UDP ポート番号 (例: HMT140 デバイス)
- `ip_port` = TCP ポート (TCP 接続、`ip_address` および `ip_port` の値はユーザー定義です)
- TCP とCOMポート接続の両方の共通値。

`sample_rate` = 10秒、90秒 (デフォルト)、12分、2時間、12時間、2日、または12日

- COMポート接続のオプション値

`baud` = 300、2400、4800、9600、19200 (デフォルト)、57600、115200

`stopbits` = 1 (デフォルト) または 2

`databits` = 7 または 8 (デフォルト)

`parity` = 奇数、偶数、またはなし (デフォルト)

HMT140を設定する

```
hmt140 serial_number
```

質問: どのようにしてDigi または vNetデバイスを使用して Vaisala VeriteqデバイスのIPアドレスを追加しますか。

回答: 追加しません。ただし、IPアドレスを通信デバイスのVaisala Veriteqデバイスに割り当てます。viewLinc アラームはCOMポートを使用して通信し、Vaisala VeriteqデバイスをEthernet/IPアドレスによってネットワークに接続するには、ネットワークデバイスのvNetまたはDigiデバイスを使用する必要があります。

vNetまたはDigiデバイスは仮想COMポートを作成し、Vaisala VeriteqデバイスはEthernetを使用してviewLinc アラームと通信できます。

動的IPアドレスを使用せずに、予約または固定IPアドレス IP部門から取得を使用することをお勧めします。IPアドレスはドライバーの構成中に

vNetまたはDigiデバイスに割り当てられます。vNetまたはDigiデバイスのインストール手順については、Vaisala Veriteq クイックスタートガイドを参照してください。

- vNet デバイスの詳細については、
を参照してください。 <http://www.vaisala.com/en/lifescience>.
- Digi の詳細については、www.digi.comを参照してください。

質問: どのようにしてワイヤレスまたはEthernet経由で300 series デバイスに接続できますか。

回答: 内部LAN-1 Module (Ethernet): 単一のPTU300*、HMT330、DMT340、MMT330変換器は、標準TCP/IP Ethernetネットワーク経由でホストコンピューターに接続できます。LAN-1 Moduleは変換器によって内部的に電源供給されます。

内部WLAN-1 Module (802.11b/g WIFI): 単一のPTU300*、HMT330、DMT340、MMT330 デバイスは、標準 802.11b/gワイヤレスネットワーク経由でホストコンピューターに接続できます。WLAN-1 Moduleは変換器によって内部的に電源供給されます。

単一ポート Digiデバイス (Ethernet): 単一のPTU300、HMT330、DMT340、MMT330 デバイスは、標準TCP/IP Ethernetネットワーク経由でホストコンピューターに接続できます。Digiデバイスをインストールし、仮想COMポートをホストコンピューターで構成する必要があります。802.3af Power over Ethernet (PoE) オプション Digi Device 9-30VDC電源 ACアダプターを含むで使用可能なDigiデバイス。DB9シリアルケーブルで変換器を構成する必要があります。Digiデバイスと変換器の間にはDB9シリアルケーブル接続が必要です。

複数ポート Digiデバイス (Ethernet): 複数のPTU300、HMT330、DMT340、MMT330 デバイスは、標準TCP/IP Ethernetネットワーク経由でホストサーバーに接続できます。Digiデバイスをインストールし、仮想COMポートをホストコンピューターで構成する必要があります。複数のPTU300、HMT330、DMT340、MMT330が共通TCP/IPネットワークインターフェイスモジュールでホストサーバーに接続できます。802.3af Power over Ethernet (PoE) で使用可能なDigiデバイス オプション。Digiデバイスは9-30VDC電源 ADアダプターを含むです。DB9シリアルケーブルで変換器を構成する必要があります。Digiデバイスと変換器の間にはDB9シリアルケーブル接続が必要です。

単一ポートDigi デバイス (802.11b/g WIFI): 単一のPTU300、HMT330、DMT340、MMT330 デバイスは、標準 802.11b/gワイヤレスネットワーク経由でホストコンピューターに接続できます。Digiデバイスをインストールし、仮想COMポートをホストコンピューターで構成する必要があります。DB9シリアルケー

ブルで変換器を構成する必要があります。Digiデバイスは9-30VDC電源 ACアダプターを含む です。

複数ポートDigi デバイス (802.11b/g WIFI):複数のPTU300、HMT330、DMT340、MMT330 デバイスは、標準 802.11b/gワイヤレスネットワーク経由でホストサーバーに接続できます。Digiデバイスをインストールし、仮想COMポートをホストコンピューターで構成する必要があります。複数のデータロガーが、共通の802.11b/gワイヤレスネットワーク経由でホストに接続できます。DB9シリアルケーブルで変換器を構成する必要があります。DigiデバイスはDC9-30V電源 ACアダプターを含む です。

Note: データロガーモジュールがインストールされていない場合、PTU300はWLAN-1およびLAN-1モジュールだけをサポートします。

質問: どのようにしてHTTPSを有効または無効にできますか。

回答: viewline.cfgファイルのhttps_portを0に設定するか、インストール中にポートを選択します。インストール後に有効にするには、必要なポート 通常は443 をhttps_portで設定し、viewLincを再起動します。

質問: どのようにしてviewLincはどのVaisala Veriteqデバイスが接続されているのかわかるのですか。

回答: それはわかりません。ネットワークデバイスはviewLinc アラームに割り当てられません。viewLinc アラームはCOMポートに接続されたデバイスを監視します viewLinc アラームソフトウェアはCOMポートまたはvNetまたはDigiデバイスで作成された仮想COMポート経由で通信します。

vNetまたはDigiデバイスに割り当てられているCOMポートを確認する 仮想またはその他

- 1 Windowsのコントロールパネルから、デバイスマネージャーを開きます。
- 2 デバイスマネージャーが開いたら、ポート COMおよびLPT を展開し、各デバイスに接続されているCOMポートを確認します。デフォルトでは、vNetデバイス名はCDL-VNET-P - モデル名です。Digiデバイス名はDigi xxxxxです xはデバイスのシリアル番号。
- 3 詳細については、デバイスマネージャーの複数シリアルアダプターで、該当するデバイスを右クリックします。プロパティを選択し、詳細タブを選択し、プロパティをクリックします。左側には、デバイスで使用される

COMポートのリストがあります。viewLinc アラームで制御されているデバイスを確認するには、システムタブを開きます。

Vaisala Veriteq デバイスの移動

質問: vNet/Digi デバイスを使用してVaisala Veriteqデバイスをネットワークに接続しています。Vaisala Veriteqデバイスの1つをあるロケーションから同じサブネットの別のロケーションに移動しようとしています。何をする必要がありますか。

回答: 予約または固定IPアドレスを使用している場合 推奨 は、次の手順を使用します。

- 1 デバイスのアラームを一時停止します。アラームを停止しないと、手順の実行中に通信アラームが発生する場合があります 「アラームの一時停止」ページで 121を参照 。
- 2 vNet または Digi デバイスをネットワークから切断します Vaisala Veriteq は接続 。
- Note:** viewLinc Server コンピューターから Digi RealPort ソフトウェアをアンインストールする必要がありません。このようにすると、Digiデバイスをネットワークに接続するときに問題が発生する可能性があります。
- 3 Vaisala Veriteqデバイスを別のロケーションに移動します。
- 4 vNet または Digi デバイスをもう一度ネットワークに接続します。
- 5 アラームを再開します。viewLincはVaisala Veriteqと再接続し、ロケーションマネージャーウィンドウ、デバイスパネルにデバイスが表示されます。

質問: vNet/Digi デバイスを使用してロガーをネットワークに接続しています。デバイスのあるサブネットから別のサブネットに移動しようとしています。何をする必要がありますか。

回答: 予約または固定IPアドレスを使用 推奨 し、あるロケーションから別のサブネットのロケーションに移動する場合、複数の構成ステップがあります。

- 1 アラームを一時停止します。アラームを停止しないと、手順の実行中に通信アラームが発生する場合があります 「アラームの一時停止」ページで 121を参照 。

- 2 viewLinc Server コンピューターからデバイスをアンインストールする必要はありませんが、構成変更は必要です。
 - 予約IP: 元のサブネットのDHCPスコープから予約を削除し、新しいサブネットのDHCPスコープの新しい予約を作成します。手順6に進みます。
 - 固定IP: vNet または Digi が元のロケーションで接続された状態で、vNet または Digi Web インターフェイスにログインします。Webブラウザのアドレスバーで、デバイスのIPアドレスを入力します。デバイスと同じサブネットにある場合、デバイスのIPはデバイス検出を使用して検出できます。
 - ログイン画面で、[root] ユーザーとしてログインし、パスワードを指定します。デフォルトパスワードは [fbps] です。パスワードを変更していない場合、デフォルトを使用します。
 - ナビゲーションバーからネットワークを選択します。ネットワーク構成画面で、新しいIPアドレス、サブネットマスク、および新しいサブネットのゲートウェイを入力します。適用をクリックします。
 - デバイスを再起動します。
- 3 デバイスを新しいロケーションに移動します。
- 4 viewLincを構成し、新しいサブネットのデバイスを検索します。
 - a viewLincコンピューターで、Windowsのスタートメニューから、**デバイスマネージャー**を開きます。
 - b **[デバイスマネージャー]** > **[マルチポートシリアルアダプター]**を選択し、デバイスの行を右クリックします。
- 5 プロパティ画面で、**[詳細]** > **[プロパティ]** > **[ネットワーク]**を選択します。
- 6 ネットワーク画面で、ネットワーク設定を入力し、デバイスの新しいIPアドレスを反映します。**[OK]** をクリックします。
- 7 アラームを再開します。viewLincはVaisala Veriteqと再接続し、ロケーションマネージャーにデバイスが表示されます。

viewLinc が上記の手順後にデバイスに接続できない場合は、サブネットに接続するルーターでポートがブロックされることがあります。以下の情報を入力します。

- 1 新しいサブネットのデバイスがviewLincコンピューターからアクセスできるかどうかを決定します。コマンドプロンプトで、**ping <IP address>**と入力します。**Ping**応答が成功した場合、このテストによって、サブネット間にルーティングが存在することが証明されます。次のテストに移動します。
- 2 **Digi** デバイス:
 - a コマンドプロンプトで、**telnet <IP address>**と入力します。ログインプロンプトが表示される場合、このテストによってデバイスが要求に応答できることが証明されます。**[Ctrl]+[C]**を押してログインを中断します。次のテストに移動します。
 - b コマンドプロンプトで、**telnet <IP address> 771**と入力します。エラーメッセージを受信する場合は、ポート771がローカルコンピューターとデバイス間でブロックされます。このポートは、デバイスをVaisala viewLincソフトウェアを使用する前に、開く必要があります。このポートはネットワークデバイス ルーター、ファイアウォール、またはレイヤー3スイッチ またはPCソフトウェア Microsoft Windowsファイアウォール、他社のファイアウォール、セキュリティソフトウェア でブロックされる場合があります。このポートのブロックを解除します。

接続が成功すると、3つの水平線 (≡ ≡ ≡ ...) で示され、画面に表示されます。ラインのセットは10秒毎に表示されます。

トラブルシューティングのヒント

ログイン

質問:正しいユーザー名とパスワードを使用して、**viewLinc** にログインできないのはなぜですか。

回答: viewLinc Enterprise Service が正常に再起動します。

- ▶ Windows コントロールパネルで、**[管理 ツール] > [サービス]** を選択し、リストから「viewLinc Enterprise Server」を見つけ、**[開始]** を右クリックして選択します。(Enterprise Server が実行されていない場合、ログイン画面は表示されません。)

アラーム

質問: viewLinc で通信アラームを受信しました。ネットワークデバイスまたは Vaisala Veriteq デバイスが応答停止した可能性があります。対処方法

- 1 Vaisala Veriteq デバイスが電源に接続されているか、バッテリーが充電されていることを確認します (HMT140)。
- 2 ネットワークデバイスが電源に接続されていることを確認します。Digi または vNet デバイスでは正面の電源ライトが赤く点灯します。
- 3 デバイスがネットワークに接続され通信していることを確認してください。コマンドプロンプトで ping < デバイスの IP アドレス > と入力し、デバイスとの通信を試みてください。
- 4 デバイスとネットワーク間の通信が確認された場合は Vaisala 提供のケーブルが正しく接続されていることを確認します。ライトが赤く点灯したままの場合はネットワークデバイスもしくはデバイス ケーブルに問題があります。デバイスが RealPort を使用するよう構成されていることを確認します (詳しくは<http://www.vaisala.com/en/lifescience> を参照してください)。問題が解決しない場合は、手順 6 に進みます。
- 5 ライトが正しく点灯しているにも関わらず通信アラームの着信が続く場合は、viewLinc コンピューターで [Windows デバイス マネージャー] を開いてデバイスがインストールされていること確認してください。
 - a [Windows コントロール パネル] から [システムとセキュリティ] > [管理者 ツール] > [コンピューター管理] > [デバイス マネージャー] を選択します。
 - b [デバイス マネージャー] のマルチポートシリアル アダプター カテゴリに構成時のアドレスでデバイスが登録されています。デバイスが確認されない場合は正しく動作している他のデバイスを接続するか、デバイスを再インストールしてください。
- 6 ケーブルのライトが正しく点灯していない場合は vLog を開いてケーブルが Vaisala Veriteq デバイスと通信しているかどうかを確認します。デバイスと vLog グラフ化 アプリケーション間の通信に問題が生じた場合は、デバイスまたはデバイス ケーブルが正しく機能していない可能性があります デバイスを新たな vNet または Digi ネットワークデバイ

またはコンピューターに USB で接続し、vLog からの接続を試みてください。

データとデバイスの管理

質問:viewLinc を使用し、デバイスデータファイルをネットワーククローションに転送しようとしていますが、動作しません。対処方法

回答:まず、ドライブ文字ではなく、完全ネットワークパス(\\ComputerName\ など)を使用していることを確認します。また、viewLinc を実行するアカウントに、デバイスファイルを転送するフォルダーへの書き込み権限があることを確認します。viewLinc を実行するアカウントはインストール中に設定されています。このガイドの第1章またはオンラインヘルプのviewLincのインストールを参照してください。

質問:viewLinc に関連付けられたファイルをバックアップしたい場合、ロケーションとファイルサイズはどうなりますか。

回答:viewLinc 構成テキストファイル: <installdir>\config* (小さいテキストファイル)

httpsのviewLincセキュリティキー <installdir>\config\keys* (小さいバイナリファイル)

viewLinc 処理構成: app_data_root\db\Viewlinc.sqlite (大規模システムで最大100MB)

viewLinc 履歴データファイル: app_data_root\db\hist\YYYY-MM* (大規模システムで最大月に10GB)

viewLinc イベントログ: app_data_root\log\Events\Events-YYYY.sqlite (大規模システムで最大年に100MB)

viewLinc リポジトリファイル、アップロード済みダッシュボード画像、レポートロゴなど: app_data_root\db\repository\images*.* (5 MB未満)

Note: すべての viewLincサービスを停止してからバックアップを実行することをお勧めします。

質問:viewLincで変更しましたが、表示されません。何が問題ですか。

回答:ロケーション情報は、viewLinc アラームで設定された更新レートに基づいて更新されます。[更新]ボタンをクリックするか、更新レートviewLinc アラームを判断します。

質問: USBケーブルを構成などのためにデバイスに接続すると、**viewLinc** のサンプリングはどうなりますか。

回答: USBケーブルがデバイスに接続されている場合 HMT140など、サンプリングが中断されます。USBケーブルが取り外されると、サンプリングが再開されます。サンプルタイムスタンプは、ケーブルの取り外し時から開始し、以前のサンプルからのサンプルレート秒数です。処理には影響しません。USBケーブルが長時間接続されている場合、構成アラームが履歴データがないために発生します。サンプリングが再開されると、クリアされます。

質問: ファイルを使用してロガー情報をアップロードすると、アップロードが失敗します。どのようにしてアップロードできますか。

回答: パラメーターをタブで区切ったことを確認します。タブ区切りのパラメーターだけが動作します TSV形式。

定義済みの UI 設定

質問: どのようにして **viewLinc** はレポートの色を選択するのですか。

回答: ロケーションのライン色が[自動] に設定されているとviewLinc は組み込みのカラーパレットから次の未使用の色を割り当てます。色は次の順で選択されます。

- a 黒 (0, 0, 0)
- b 赤 (255, 0, 0)
- c 緑 (0, 128, 0)
- d オレンジ (255, 165, 0)
- e 青 (0, 0, 255)
- f 黄 (255, 255, 0)
- g 紫 (255, 255, 0)
- h 茶 (150, 75, 0)
- i グレイ (128, 128, 128)
- j 栗 (128, 0, 0)
- k ライム (0, 255, 0)
- l トマト (255, 99, 71)

- m** アズール (30, 127, 255)
- n** 黄 (255, 204, 0)
- o** ビザンチウム (112, 41, 99)
- p** ブロンズ (205, 127, 50)
- q** シルバー (192, 192, 192)
- r** クリムソン (220, 20, 60)
- s** エメラルド (80, 200, 120)
- t** コーラル (255, 127, 80)
- u** 濃青 (0, 191, 255)
- v** ベージュ (205, 178, 128)
- w** 濃紫 (97, 64, 81)
- x** 淡黄 (240, 220, 130)

質問: どのコンテンツ変数を電子メールまたはSMS通知に追加できますか。

回答: コンテンツ変数は次のマクロを使用して通知メールまたはSMSに追加されます。一部のマクロは電子メール/SMSテンプレートによっては使用できません。一部のマクロは電子メール/SMSテンプレートによっては使用できません。

アラーム受信確認メッセージ:

[Acknowledger] = アラーム受信確認ユーザー。

[AcknowledgerAction] = アラームへの応答内容。

[AcknowledgeTimestamp] = アラーム受信確認時刻。

[AlarmID] = アラームチケットID リモート受信確認で使用

アラーム関連メッセージ:

[AlarmMessage] = アラームに関連付けられたメッセージ。

[AlarmObject] = アラームがトリガーされた場所の説明。チャンネル、ロガー、ホスト。

[AlarmType] = アラームのタイプ。通信またはしきい値。

[AlarmTimestamp] = アラームの発生時刻。

[AlarmDeactivationTimestamp] = アラームオフの時間。

しきい値アラーム:

- [AlarmOffValue] = アラームオフ時のチャンネル値。
- [AlarmValue] = アラーム発生時のロケーション値。
- [MinAlarmValue] = アラーム期間中の最小ロケーションアラーム値。
- [MaxAlarmValue] = アラーム期間中の最大ロケーションアラーム値。
- [CalibrationUrl] = 校正サービスWebサイトアドレス。
- [LocationName] = ロケーション説明。
- [LocationZone] = ロケーションがあるゾーンの説明。
- [LocationTimestamp] = 電子メール発行時のロケーションアラーム値タイムスタンプ。
- [LocationValue] = 電子メール発行時のロケーションアラーム値。
- [ThresholdCondition] しきい値条件のサマリー。

すべてのアラームメッセージ:

- [Comments] = 対応するアラームまたはログ転送設定で入力されたコメント 手動または事前構成済み。
- [Date] = アラーム日付
- [Details] = アラーム固有の詳細
- [Server] = viewLinc がインストールされているPC名。
- [Time] = アラームイベント時刻。
- [User] = アラームを受信確認したユーザー名 確認メッセージ
- [WorkerName] = エラーを発生させたviewLinc ワーカー名。
- [Port] = ポート番号
- [URL] = viewLincのURL システムエラーメッセージ

デバイス通信アラーム

- [LocationSummary] = アラーム状態のログチャンネルのリスト。

デバイス ホスト通信アラーム:

- [DeviceHostDevicesSummary] = アラームイベントに関連付けられたホストのすべてのログの簡単な説明。
- [DeviceChannelsSummary] = アラームイベントに関連付けられたチャンネルのすべてのログの簡単な説明。

ロガー アラーム:

[DeviceAddress] = ロガーアドレス COMポートまたはシリアル番号など

ロガー通信アラームメッセージ:

[DeviceComPort] = ロガー接続先のCOMポート。

ロガー通信およびしきい値メッセージ:

[DeviceDescription] = ロガー説明。

[DeviceSerialNumber] = ロガーシリアル番号。

通信アラームメッセージ:

[DeviceHostName] = Device Host 名。

ロガー再校正アラームメッセージ:

[DeviceNextCalDate] = ロガーの次の校正日。

転送メッセージ:

[TransferDirectory] = 転送ロガーデータの宛先ディレクトリ。

[TransferFile] = 転送ロガーデータの宛先ファイル。

レポート:

[ReportName] = 影響するレポートの名前。

[Error] = レポートエラーを引き起こしたエラーの説明。

ヘルプが必要な場合

これらの問題で追加ヘルプが必要な場合は、Vaisala (1-888- VAISALA 北米で) までお問い合わせください。あるいは、helpdesk@vaisala.com までメールでお問い合わせください。

索引

- 3**
- 300 シリーズ変換器 159
 - エイリアス 98
 - サンプリングレート 98
 - タイムアウト 98
 - 手動追加 35
 - 出力数 67
 - 切り替え 110
- C**
- COM ポート
 - 表示 170
- D**
- Digi デバイス
 - RealPort ドライバー インストール 15
 - viewLinc のインストール 14
 - インストール 10
 - トラブルシューティング 168, 171
 - ロケーションの移動 171
- E**
- Excel レポート 136, 138
- eラーニング 4
- H**
- HMP110 101
- HMT140
 - viewLinc のサンプリング 176
- HMT140 Wi-Fi データ ロガー
 - インストール 11, 17
 - タイムアウト 99
 - ピーコン毎の最高ブロック数 99
 - 送信期間 99
 - 追加 36
- HTTPS
 - 無効化 170
 - 有効化 170
- I**
- ICMP Ping ホスト 68

- Internet Explorer
 - サポートバージョン 7
- M**
- Microsoft Excel
 - viewLinc イベント ログ 129
- MKT アクティブ化 エネルギー
 - 設定値 29
- P**
- PC 要件 8
- PDF レポート 136, 138
- POP3 50
- POS 149
 - 表示 オプションの設定 83
- POS ディスプレイ端末でのデータ表示 83
- R**
- ROC (変更レート) 58
- S**
- SIM カード PIN 51
- SMS
 - SIM カード PIN 51
 - テンプレート
 - マクロ 52
 - メッセージ テンプレート 52
 - 通知設定 48
 - 設定 50
- U**
- USB ポート
 - デバイスの接続 10
- V**
- Vaisala Veriteq デバイス
 - 手動追加 35
- Veriteq ロガー
 - 設定 11
- viewLinc
 - Mobile
 - アラームの受信確認 156
 - SMTP 50
 - アクセス コントロール 38
 - インストール
 - USB 10

- ワイヤレス デバイス 11
- インストール オプション 9
- グループの設定 42
- デバイスのインストール
 - シリアル ポート 11
- デバイスの接続 11
- デバイスの設定 11
- ユーザー権限とアクセス許可 38
- 機能 1
- 権限 38
- viewLinc Aware サービス 32
- viewLinc アラーム 5
- eエンド ユーザー PC 要件 8
- インストール 21
 - Digi デバイス 14
 - USB 16
 - vNet デバイス 12
 - シリアル ポート 17, 21
- エンタープライズ サーバー、概要
 - 5
 - コンポーネント 6
 - サーバー要件 7
 - サポート対象のインターネットブラウザ
 - ユーザー 1
 - サポート対象のブラウザ 7
 - サポート対象の変換器 159
 - システム要件 6
 - セキュリティオプション 31
 - デスクトップの方向 63
 - デバイス ホスト、概要 5
 - デフォルト アプリケーション フォルダー 9
 - バックアップ 169
 - モバイル
 - ソフトウェアについて 153
 - ログイン 153
 - モバイル ディスプレイ 149, 154
 - リモート ディスプレイ 149
 - リモート ホスト要件 7
 - ログイン 21-22
- 再起動 62
 - 前のバージョンからのアップグレード
 - 20, 159, 161
- viewLinc の再起動 62
- viewLinc の停止 62
- viewLinc へのアクセス コントロール
 - 42
- vNet デバイス
 - viewLinc Aware サービス 32
 - インストール 10, 12
 - トラブルシューティング 168, 171
 - ロガーの接続 12
 - ロケーションの移動 171
- ア
 - アイコン
 - アラーム状態 65
 - アクセス コントロール 38, 40
 - リモートディスプレイ端末 151
 - ロケーションの設定 77
 - 継承 77
 - アクセス コントロール インспекタ 41
 - アクセス コントロール許可リスト 41
 - アクセス許可 40
 - ユーザー 22
 - アクティブなアラーム
 - 表示 65, 93, 116
 - アプリケーション フォルダーの場所 9
 - アラーム
 - アクティブ
 - 表示 93
 - アクティブを表示 88
 - しきい値 114
 - ポップアップ通知 54
 - 電子メール通知 54
 - 非アクティブ化/再アクティブ化
 - 81
 - 複数通知 57
 - 無効化 80
 - システム 115
 - ソフトウェアについて 113

- デバイス 105
- デバイスの状態 115
- デバイス検証並びに校正 115
- テンプレート 53
- テンプレート、編集 56
- レポート 124
- 一時停止 121
- 監視 88
- 検証 114
- 構成
 - 構成アラーム 114
- 受信確認 118
- 設定確認環境設定 30
- 単一しきい値条件テンプレート 57
- 通信 103, 114
 - トラブルシューティング 174
 - ポップアップ通知 54
 - 電子メール通知 54
 - 編集 104
 - 無効化 105
- 定義 114
- 複数通知 53
- 編集 106
- アラーム ウィンドウ
 - 更新 117
 - 自動更新 117
 - 方向 117
 - 列順序の整列 123
- アラーム テンプレート 52
 - コマンド 55
 - 事前構成済みコメントの追加 61
 - 定義 51
- アラーム レポートの印刷 124
- アラームのタイプ 123
 - しきい値アラーム 58
- アラームの一時停止 121, 156
 - デバイス チャンネル 122
 - デバイス ホスト 122
 - 単一ゾーン 121
 - 単一ロケーション 121
- アラームの受信確認 118
 - viewLinc Mobile 156
 - アラーム ウィンドウ 119
 - トレンドのポップアップ 120
 - 構成設定 30
 - 電子メールまたは SMS 120
 - 非アクティブなアラーム 119
- アラームの通知
 - ポップアップ表示 115
 - メール 116
- アラーム状態
 - アイコン 65
- アラーム通知
 - アプリケーションまたはデバイスの起動 116
 - コマンド 116
 - コメント 56
 - スケジュール 47
 - ポップアップ 115
 - メール 116
 - 受信 117
- アラーム通知の受信 117
- イ
- イベント 125, 130
 - コメントの追加 127
- イベント ログ
 - エクスポート 129
 - カスタム イベントの追加 128
 - コメントの追加 127
 - 印刷 129
 - 表示 126
 - 保存 129
- イベント ログ レポート状態 126
- イベント検証アラーム
 - ソフトウェアについて 114
- インストール 11
 - Digi RealPort ドライバー 15
 - viewLinc 9
 - viewLinc アラーム 21
 - vNet デバイス 12
 - ホスト 21

ワイヤレス デバイス 11, 17
インターネット ブラウザー
サポート 1

エ

エイリアス
300 シリーズ変換器 98
エンタープライズ サーバー、概要 5

お

お問い合わせ情報 24

カ

カスタム
電子 メールとSMS テンプレート
52

グ

グループ
作成 42
設定 42
非アクティブ化または再アクティブ
化 44

コ

コマンド
アラーム テンプレートへの追加 55

コメント
アラーム通知への追加 56
イベント/イベント ログへの追加
127
レポートへの追加 137, 141
環境設定 29
事前構成 60
削除 60
表示 128

サ

サーバー要件 7
サービス 5
サブネット
トラブルシューティング 172
サポート情報 24
サポート対象のブラウザー 7
サンプリングレート300 シリーズ変換
器 98

し

しきい値
適用 78
編集 79
しきい値、読み取り 93
しきい値アラーム
ROC 58
スケジュール 47
設定 76
ソフトウェアについて 114
テンプレート 53, 57
テンプレート、編集 56
プライベート(カスタム) 58
ポップアップ通知の追加 54
一時停止 121
一時的に無効化 80
種類 58
値 58
電子 メール通知の追加 54
非アクティブ化/再アクティブ化 81
複数しきい値テンプレート 58
複数通知 57
しきい値アラームのアクティブ化 47
しきい値テンプレート
定義 51
しきい値状態 65

シ

システム アラーム 115
定義 115
システム環境設定 27
MKT アクティブ化 エネルギー 29
viewLinc Aware サービス 32
アクセス コントロール 38
アラーム受信確認 30
エイリアス 28
コメント 29
セキュリティキー 31
セッション有効期限 31
温度単位 30
単位説明 33

-
- システム設定 27
 - 温度単位 30
 - システム要件 6
 - シリアル ポート 11
 - viewLinc のインストール 17, 21
 - ス
 - スキャン後に切断する 98
 - スケール
 - トレンド値 91
 - スケジュール 29
 - 作成 48
 - スケジュール データ転送
 - スケジュール 145
 - 非アクティブ化 148
 - 編集 147
 - 無効化 148
 - セ
 - セキュア SMTP 50
 - セキュリティ
 - レベル 22
 - セキュリティキー
 - 入力 31
 - セキュリティキー ファイル 167
 - セッション有効期限 31
 - ソ
 - ゾーン
 - アクセスの割り当て 77
 - ソフトウェアについて 63
 - データの表時 63
 - トレンドの表示 93
 - ロケーションの追加 69-70
 - 削除 75
 - 削除前の手順 73
 - 設定 67, 69
 - 編集 70
 - 名前の変更 74
 - タ
 - タイムアウト期間 31
 - 300 シリーズ変換器 98
 - HMT140 Wi-Fi データロガー 99
 - タイムスタンプ列 65
 - ダ
 - ダッシュボード 68, 81, 87
 - データポイントの削除 84
 - データ表示の修正 83
 - ロケーション データの読み取り 82
 - ロケーションの追加 83
 - 画像の追加 82
 - 環境設定 83
 - 削除 84
 - ダッシュボードの項目
 - 表示オプション 83
 - タッチスクリーン ディスプレイ 149
 - チ
 - チャンネル
 - プロパティ 100
 - プロパティの編集 100
 - リンクされたロケーションの検索 72
 - リンクの解除 71
 - リンク履歴の表示 74
 - ロケーションのリンク解除/再リンク 73
 - ロケーションへのリンク 70-71
 - 説明
 - 編集 100
 - 単位表示の変更 32
 - 名前の指定 28
 - チャンネルのリンク解除/再リンク 73
 - デ
 - データトレンド
 - グラフ 89
 - データポイント
 - ダッシュボードでの削除 84
 - データの転送 144
 - スケジュール 144
 - 即時 145, 147
 - データ転送
 - スケジュール転送 145
 - 即時転送 147

テ

テクニカル サポート ログ 31

デッドバンド 58

デバイス

- Digi 10
 - インストール 10
 - セキュリティキーで指定 31
 - ゾーンとロケーションの作成 71
 - プロパティ、表示 96
 - プロパティの編集 97
 - 検出 34
 - 校正プロパティ 107
 - 構成 18
 - 削除 108
 - 接続 11
 - 追加
 - 300 シリーズ変換器 35
 - HMT140 Wi-Fi データ ロガー 36
 - ゾーンへのロケーション 70
 - 定義ファイルのアップロード (複数デバイス) 37
 - 複数 167
 - 定義ファイル 167
 - 転送スケジュール 144
 - 名前の指定 28
- デバイス ステータス アラーム 115
- デバイス プロパティ パネル、概要 68
- デバイス プロパティの表示 96
- デバイス ホスト、概要 5
- デバイスとチャネルのエイリアス 97
- デバイスの削除 108
- デバイスの手動追加 35
- デバイスの状態列 65
- デバイスの定義ファイル 167
- デバイス検証 アラーム 115
- デバイス構成 アラーム
 - 定義 114
- デフォルト アプリケーション ファイルの場所 9

デフォルト レポート 132

テンプレート

- アラーム 51-52
- しきい値 51
- パラメーター全般 53
- マクロの使用 52
- 事前構成済みコメント 61
- 電子メール/SMS 51
- 電子メールまたは SMS 変数 60
- 複数のしきい値 58

ド

ドライバー

- RealPort 15
- USB 16

ト

トラブルシューティング 159

- サブネット 172

トレーニング 4

トレンド

- レポートとして保存 92
- 最小/最大統計情報の表示 91
- 作成 89
- 修正 91

トレンド タブ

- 機能 89

トレンドのグラフ化 89

トレンドのポップアップ

- アラームの受信確認 120
- ナビゲーション 92
- 表示 92

ナ

ナビゲーション ツリー

- ロケーション ウィンドウ 64

ネ

ネットワーク トラフィック

- 分散 37

ネットワーク通信

- テスト 68

ハ

ハードウェア要件 6

パスワード
セッション有効期限後の再確認
31
編集 46
パラメーター全般
テンプレート 53

ピ

ピーコン毎のブロック
HMT140 Wi-Fi データ ロガー
99

ビュー 84
アクセス コントロール 86
ソフトウェアについて 63
リモートディスプレイ
変更 152
リモートディスプレイ端末 151
作成 85

フ

ファイアウォール 167
ファイル
バックアップ 169
ファイルの場所
アプリケーションのデフォルト 9

ブ

プライベート
しきい値アラーム (カスタム) 58
継承 77

ブ

ブラウザ
サポート 1, 7

へ

ヘルプ 24

ホ

ホスト
追加 37
ホスト、インストール 21

ポ

ポップアップ通知 115

メ

メール
テンプレート
マクロ 52
管理者のアドレス 49
メール通知 116
アラーム 54
設定 48-49
メッセージ
電子メールとSMS テンプレート
52

メンテナンス
viewLinc の再起動または停止
62

モ

モバイル ディスプレイ 149, 154
アラームの一時停止または再開
156
ソフトウェアについて 153
ログイン 153
モバイル デバイス
サポート 149

ユ

ユーザー
viewLinc アクセスの設定 38
セキュリティレベル 22
タイムアウト期間の設定 31
パスワード 46
ビュー 84
ロケーションへのアクセスの設定
77
検索 44
権限の割り当て 38
再アクティブ化 47
追加 44
非アクティブ化 46
ユーザー アカウント
ログイン 22
編集 46

リ
リモートディスプレイ 149
 アクセスコントロール許可の割り
 当て 151
 アラームの受信確認 157
 ビュー 84
 ビューの作成 151
 ビューの変更 152
 設定 151
 要件 150
リンク
 チャンネル 71-72
 ロケーション 71
リンク履歴
 表示 74

レ
レポート 131
 Excel 136, 138
 PDF 136, 138
 アラーム履歴 132
 エクスポート 124
 オンデマンド 143
 システム 141
 タイプ 131-132
 トレンドの保存 92
 作成 134
 削除 142
 署名またはコメントボックスの追加
 137, 141
 色 140, 176
 生成 132
 非アクティブ化/再アクティブ化
 142
 複製/コピー 142
レポートのコピー 142
レポートのタイプ 131
レポートの完全削除 142
レポートの色 137
レポートの生成と電子メール送信
 システム 142

レポートの複製 142
レポートレポート
 アラーム レポート 124

ロ
ロガー
vNet デバイスへの接続 12
アラーム
 ポップアップ通知の追加 54
 電子メール通知の追加 54
 編集 106
エイリアス 97
チャンネル説明 100
設定 11
説明 97
転送 147
 スケジュール 144
 トラブルシューティング 175

ログイン 21
viewLinc Mobile 153
問題 173

ロケーション
 アクセスの割り当て 77
 アプリケーション ファイル 9
 アラーム
 テンプレート 53
 アラーム テンプレート、編集 56
 アラーム通知スケジュール 47
 しきい値アラーム スケジュール、選
 択 76
 ゾーンへの追加 70
 ソフトウェアについて 63
 ダッシュボードへの追加 83
 チャンネルのリンク 70-71
 チャンネルのリンク解除/再リンク
 72-73
 データの表示 63
 トレンドのポップアップ 92
 トレンドの作成 89
 リンクされたゾーンの検索 87
 リンクされたチャンネルの検索 72
 移動 70

削除 75
 整理 68
 設定 67
 単位環境設定の変更 102
 非アクティブ化/再アクティブ化 75
 編集 76
 名前の変更 74
 ロケーション アラーム タブ
 アラームの受信確認 118
 ロケーション ウィンドウ 63
 オプション メニュー 64
 タブ定義 65
 ナビゲーション パネル 64
 検索 64
 使用 86
 列 65
 ロケーション データ
 ダッシュボード 82
 ロケーションとゾーンの整理 68
 ワ
 ワイヤレス デバイス
 接続 11
 移
 移動
 ゾーンまたはロケーション 75
 ロケーション 70
 黄
 黄色のハイライトバー、表示されない
 87
 温
 温度
 測定単位の設定 30
 画
 画像
 ダッシュボード 82
 拡
 拡大鏡 87
 割
 割り当て
 権限 38

 環
 環境 モニタリング システム (CMS) 6
 環境設定
 温度単位 30
 単位 33
 監
 監視
 アラーム 88
 チャンネル 63
 管
 管理者の電子 メールアドレス 49
 継
 継承
 アクセス コントロール 77
 継承されたアクセス許可の表示 77
 検
 検索 64
 アクセス コントロール許可 41
 フィルター 87
 ユーザー 44
 リンクされたロケーション 72
 構文 87
 検出
 Digi デバイス 15
 Vaisala Veriteq デバイス 34
 検証アラーム 114
 権
 権限 38-39
 割り当て 38
 言
 言語 33
 更
 更新
 アラーム ウィンドウ 117
 校
 校正
 デバイス設定 107
 校正アラーム 115
 構
 構成
 デバイス 18

構成アラーム
定義 114

再

再アクティブ化
グループ 44
しきい値アラーム 81
ユーザー 47

再起動 62

最

最小/最大統計情報
トレンド 91

作

作成

アラーム テンプレート 53
アラーム レポート 134
グループ 42
システム レポート 141
ゾーン 69
ダッシュボード 81
デバイスとチャネルのエイリアス 28
トレンド 89
ビュー 85
事前構成済みコメント 60
単一しきい値テンプレート 57
転送スケジュール 145
電子メールとSMS テンプレート
52
複数しきい値テンプレート 58

削

削除

ゾーン 73, 75
ダッシュボード データポイント 84
ダッシュボード画像 84
レポート 142
ロケーション 75
事前構成済みコメント 60

使

使用

ロケーション ウィンドウ 86

始

始める前に 1

事

事前構成済みコメント
アラーム テンプレート 61
作成 60
削除 60

自

自動更新 117

出

出力数 67

署

署名

レポートへの追加 137, 141

消

消去

ダッシュボード 84

色

色パレット 176

接

接続

デバイス 11

撮

摂氏または華氏 30

設

設定 27

しきい値アラーム
しきい値アラーム 57
システム環境設定 27
スケジュール 47

デバイスの検出 34

リモートディスプレイ 149, 151

ロードマップ 23

ロケーションとゾーン 67

校正プロパティ 107

電子メールおよび SMS 通知 48

前

前のバージョンからのアップグレード

20, 159, 161

送

送信期間

HMT140 Wi-Fi データ ロガー

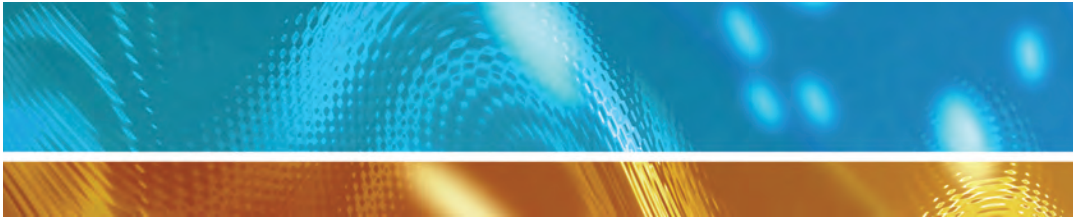
99

-
- 測**
- 測定単位
 温度 30
- 単**
- 単位環境設定 32
 ロケーション 102
 単位環境設定のクリア 102
 単位説明 32
 単一しきい値アラーム テンプレート
 57
- 値**
- 値
 MKT アクティブ化 エネルギー 29
 しきい値アラーム
 ROC 58
 しきい値アラーム 58
- 調**
- 調整
 トレンドのスケール値 91
- 追**
- 追加
 300 シリズ変換器 35
 HMT140 Wi-Fi データ ロガー
 36
 アラーム テンプレートのコマンド
 55
 アラーム テンプレートのメール通知
 54
 コメント 56
 コメント ボックスをレポートに 137,
 141
 ゾーン 69
 ダッシュボード画像 81-82
 ホスト 37
 ユーザー 44
 ロケーションをダッシュボードに 83
 署名 ボックスをレポートに 137,
 141
 電子 メールまたは SMS テンプレ
 ートへの変数 60
- 複数 167
 複数デバイス 37
 定義 ファイルのアップロード 37
- 通**
- 通信アラーム 103
 tテンプレート 53
 ソフトウェアについてアラームのタイ
 プ 114
 テンプレート、編集 56
 トラブルシューティング 174
 ポップアップ通知の追加 54
 一時停止 121
 電子 メール通知の追加 54
 編集 104
 無効化 105
- 通知
 SMS 設定 50
 コマンドの実行 116
 電子 メールおよび SMS 設定 48
 電子 メール設定 49
- 適**
- 適用
 しきい値設定 78
- 転**
- 転送スケジュール
 作成 145
 非アクティブ化 148
 編集 147
 無効化 148
- 電**
- 電子メール/SMS テンプレート
 定義 51
 電子 メールまたは SMS メッセージ
 アラームの受信確認 120
- 読**
- 読み取り
 グラフ化
 ポップアップトレンドビュー 92
 しきい値 93

非
 非アクティブなアラーム
 受信確認 119
 非アクティブ化
 グループ 44
 ユーザー 46
 レポート 142
 転送スケジュール 148
 非アクティブ化/再アクティブ化
 しきい値アラーム 81
 ロケーション 75
 非アクティブ化されたアイテムの表示
 しきい値アラーム 81
表
 表示
 COM ポート 170
 アクティブなアラーム 93
 イベントコメント 128
 イベントログ 126
 デバイスプロパティ 96
 トレンド
 ナビゲーション 90
 トレンドのポップアップ 92, 155
 表示環境設定 28
複
 複数しきい値テンプレート
 作成 59
 複数のアラーム通知 53
変
 変換器
 サポート 159
 出力数 67
 設定 11
 追加 35
 変更
 ゾーン 70
 ダッシュボード
 外観 83
 チャンネル単位 32
 デバイス説明 28
 トレンド 91

列
 アラーム ウィンドウ 123
 変更レート(ROC) 58
 変数 (マクロ)
 電子 メール テンプレートで使用
 60
編
 編集
 アラーム テンプレート 56
 しきい値設定 79
 ゾーンとロケーション 74
 デバイス エイリアス 97
 デバイスとチャンネル プロパティ 97
 ユーザー アカウント 46
 ロガー アラーム 106
 ロケーション 76
 通信アラーム 104
 転送スケジュール 147
 電子 メールとSMS テンプレート
 52
方
 方向
 viewLinc Desktop 63
 アラーム ウィンドウ 117
無
 無効化
 しきい値アラーム 80
 自動更新 117
 通信アラーム 105
 転送スケジュール 148
有
 有効化/無効化
 viewLinc Aware サービス 32
要
 要件
 viewLinc 設定 7
 リモート ディスプレイ 150
列
 列
 アラーム ウィンドウ 123
 しきい値状態 65

タイムスタンプ 65
デバイスの状態 65
ロケーション ウィンドウ 65
非表示 66
並べ順 66
列の非表示 66
列の並べ替え 66



www.vaisala.com

